

最寄警察分署へ通知スルモノトス
 第十五條 逃走シタ者類ヲ捕獲シテ届出タル者アルトキハ適宜之ヲ本人又ハ他人へ預ケ置キ八日ヲ経過スルモ尙ホ其所有主分明ナラサルニ於テハ之ヲ賣却シ代金ハ保管金取扱規程ニ依リ取扱フヘシ

但飼料ハ賣却代金ノ内ヨリ支辨スヘシ(明治二十七年四月訓)
 第十六條 得遺失物届出人部外ノモノナルトキハ下流方便利ノ爲メ部内ノモノヲシテ成ルヘク代人ヲ立置カシムヘシ

第十七條 官没タル物品ハ每六ヶ月(一月ヨリ六月マテ)(七月ヨリ十二月マテ)ニ取纏メ警察署保管物品取扱規程ニ依リ取扱フヘシ(明治二十七年四月訓)
 第十八條 官没金若クハ官没物品ノ賣却代金ハ總テ諸收入收納取扱規程ニ依リ取扱フヘシ(全上)

領置品臺帳記例

- 一 遺失物ヲ拾得届出ルトキハ別ニ書面ヲ要セス其拾ヒ得タル事由ノ大略ヲ起原ノ欄ニ記入シ届人ノ欄ニ住所氏名ヲ記載讀聞セ本人ヲシテ捺印セシムヘシ
- 一 前項領置品ノ物主分明ナルトキハ別ニ書面ヲ要セス其分明ナル事由ノ大略及ヒ還付又ハ給與シタル旨ヲ終結ノ欄ニ記入シ受取人ノ欄へ住所氏名ヲ記シ本人ヲシテ捺印セシムヘシ
- 一 受渡ノ欄ハ其取扱主任者署名認印スヘシ
- 一 番號ハ領置臺帳ノ號ト物品前收證ノ號ト同一ニ付スヘシ
- 一 代人ヲ立置タトキハ終結代人ノ欄ニ其住所氏名ヲ記入スヘシ
- 一 物主判明ニシテ物品ヲ還付スルトキハ双方ヲ喚出シ出頭シタルトキハ受取人届人トモ認印ノ欄へ住所氏名ヲ(届人ハ氏名而已)記載認印セシムヘシ若シ届人出頭セス一方而已ニ下渡シタル

トキハ備考ノ欄へ其旨記入スヘシ

- 一 物主下渡ノトキ報勞金入費其他故障アリタルトキハ其旨備考欄ニ記載スヘシ
- 一 物品ヲ賣却シタルトキハ其旨備考ノ欄へ記載シ置クヘシ

(様式ハ略ス)

◎監獄署領置品出納順序

明治二十七年三月十四日訓令第一四三號

(監、支署)

監獄署領置品出納順序別紙之通相定メ本年五月一日ヨリ施行ス

但明治二十六年十月官第五十二號監獄署物品取扱規程ハ同日ヨリ廢止ス

(別紙)

監獄署領置品出納順序

- 第一條 監獄署又ハ監獄支署ニ於テ領置スル在監人所持品ハ監獄署又ハ監獄支署物品會計官吏之ヲ保管スヘシ
- 第二條 領置品ノ科目ハ單ニ所持品トシ其數量ハ点数ヲ以テ出納整理スヘシ
- 第三條 領置品ノ出納ハ證憑書類ニ對照シ署長ノ判決ヲ經テ之ヲ執行スヘシ
- 第四條 領置品ノ出納ハ別紙様式ノ出納簿ニ記帳スヘシ
- 第五條 領置品ハ各別ニ番號ヲ付シ鎖鑰アル倉庫ニ格納スヘシ
- 第六條 前條倉庫ノ鍵ハ物品會計官吏之ヲ保管スヘシ
- 第七條 外役所へ送致スル物品ハ該所監督ノ官吏ニ保管セシメ其取締上ニ關シテハ物品會計官吏監督ノ任アルモノトス
- 第八條 外役所監督ノ宜更ハ適宜ノ帳簿ヲ設ケ該所ト監獄署又ハ支署間ニ於ケル物品ノ受拂ヲ登記スヘシ

- 第九條 物品保管ノ責アル官吏其故意怠惰ニヨリ該物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ
 - 第十條 物品保管ノ責アル官吏故意怠惰ニアラスシテ亡失毀損シタルトキハ其證明書ヲ添ヘ知事ノ裁決ヲ請フヘシ
 - 第十一條 物品會計規則第十五條第一項ノ計算書ハ會計檢査院ニ於テ定メタル規程ニ依リ年度後三ヶ月以内ニ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ本廳ニ提出スヘシ同條第二項ノ計算書及證憑書類ハ事故ノ生シタルトキヨリ一ヶ月以内ニ差出スヘシ
 - 第十二條 物品會計規則第十五條第一項ノ計算書ハ添付スヘキ證憑書類ハ毎日之ヲ整理シ計算書ノ對照ニ便ナラシムヘシ
 - 第十三條 監獄則第二十四條ニヨリ物品ヲ處分スルトキハ知事ノ裁決ヲ請フヘシ
 - 第十四條 物品賣却ノ手續ヲ經テ現品ヲ買受人ニ交付スルトキハ其領收證書ヲ徵スヘシ
 - 第十五條 本順序ニ關スル出納細則ハ監獄署ニ於テ規定シ知事ノ認可ヲ請フヘシ
- (出納簿雜形略ス)
- 領置品出納細則
- 第一條 新ニ入監スルモノ、所持品ハ悉ク點檢シ品目數量ヲ領置表ニ記載シ尙物品ノ代價ヲ見積リ記入ナシ之ヲ本人ニ示シタル上署名押印セシメ署長ノ檢印ヲ受クルモノトス但入監後差入等ノ爲メ領置スル物品モ本條ニ準シ取扱フモノトス
 - 第二條 刑事被告人等ニシテ自己ノ儘入監セシメ又ハ監内ハ攜帶ヲ許スヘキ物品ハ一旦領置表ニ記入ノ上其攜帶及着用ノ事由ヲ記入シ本人ニ押印ナサシムルモノトス但本條ノ物品ハ之ヲ出納簿ニ記帳セサルモノトス

- 第三條 所持品中保管ニ堪ヘ難キモノハ本人ニ告知ノ上之ヲ賣却シ傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタルモノ或ハ不潔ノ物品ハ消毒洗除相當ノ手續ヲナスモノトス
- 第四條 所持品中時計及指輪ノ類ニシテ特有價ノ物品ハ之ニ領置札ヲ付シ金庫若クハ倉庫内一定ノ場所ニ藏置スルモノトス但印形及必要ノ書類ニシテ特別保管(封筒等)ニ納メ本人ヲシテ封印ヲ施サシム)ヲ要スルモノモ本文ニ全ク
- 第五條 出監人ニ所持品ヲ還付スルトキハ領置表ニ照ラシ一々本人ニ下付シ署名押印セシムヘシ
- 第六條 入監領置ノ物品ヲ父母妻子ニ下渡シ及賣却チナス場合ハ其事由ヲ領置表ニ記入シ尙受取人ヨリ領收證書ヲ徵スルモノトス
- 第七條 保管ノ轉換ヲ以テ拂出ス物品ハ品目數量及ヒ價格ヲ記シタル目錄ヲ作り現品ヲ送付シ物品會計官吏ノ領收證書ヲ徵スルモノトス又同一ノ手續ヲ以テ物品ノ送付ヲ受ケタルトキハ物品會計官吏ニ於テ領收證書ヲ其官衙ニ交付スルモノトス
- 保管ノ轉換ニ依ラシテ甲乙官衙ノ間互ニ授受スル物品ニ對シテハ物品目錄ヲ作り現品ヲ送付シ領收證書ヲ徵スルモノトス其領收シタルトキハ物品會計官吏ノ領收證書若クハ本人ノ領收證書ヲ徵シ之ヲ其官衙ニ交付スルモノトス
- 第八條 在監中死亡者又ハ逃走者ニ屬スル物品ニシテ其事故ノ生シタル日ヨリ滿壹ケ年ヲ經過スルモノ尙引受クルモノナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ルヘキ手續ヲナスモノトス
- 第九條 出納簿ニ記帳スル證憑書類ハ領置表ニ據リ調製スルモノトス但別ニ證憑書類ニ作ラス領置表ヲ以テ直ニ出納簿ニ記帳スルコトヲ得

◎縣稅徵收細則

明治三十年一月二
十五日縣令第三號

茨城縣稅徵收細則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通相定ム

茨城縣稅徵收細則

第一條 縣稅ヲ徵收スルトキハ郡市長ニ於テ徵稅令書ヲ發スヘシ

第二條 府縣稅徵稅法第八條縣出納吏ノ事務町村ニ屬スル分ハ郡長ニ於テ取扱フヘシ

府縣稅徵稅法第八條第三項ノ場合ニ限リ縣出納吏ノ事務市ニ屬スル分ハ市長ニ於テ取扱フヘシ

第三條 徵稅令書ハ郡長ハ第一號第二號樣式市長ハ第四號樣式ニ依リ調製スヘシ

第四條 徵稅令書ハ郡長ハ納期前拾五日ヲ限リ町村ヘ市長ハ同ク五日ヲ限リ各納稅人ニ交付スヘシ

但隨時收入ハ此限リコアラズ

町村會ノ議決ヲ要スルモノハ納期ノ四十日以前ニ交付スヘシ

第五條 郡市長ハ徵稅令書發付ノ後納期以前ニ於テ金額ノ増減ヲ生シタルトキハ其増額ハ之ニ對

スル徵稅令書ヲ追發シ其減額ハ町村ニ對シテハ第五號樣式ニ依リ通知書ヲ發シ各納稅人ヘ對シ

テハ徵稅令書ヲ更正スヘシ

第六條 徵稅令書ヲ受ケタル町村長ハ第六號樣式ニ依リ徵稅令書ヲ製シ納期前五日ヲ限リ各納稅

人ニ交付スヘシ若シ納期以前ニ於テ其納額ニ増減ヲ生シタルトキハ其増額ハ之ニ對スル徵稅傳

令書ヲ追發シ減額ハ傳令書ヲ更正スヘシ

第七條 町村長ハ各納稅人ノ賦課額算出上徵稅令書ノ全額ニ過不足ヲ發シタルトキハ速ニ之ヲ郡

長ニ報告スヘシ

第八條 徵稅令書ヲ受ケタル市ノ納稅人ハ諸令書ヲ添ヘ現金ヲ市收入役ニ拂込ミ領收證書ヲ受ケ

ヘシ 府縣稅徵稅法第七條ニ依ル市ノ納稅人ハ徵稅令書ニ現金ヲ添ヘ市長ニ拂込ミ領收證書ヲ受ケ

徵稅傳令書ヲ受ケタル町村ノ納稅人ハ前項ノ手續ニ依リ町村ノ收入役ニ拂込ミ領收證書ヲ受ケ

ヘシ 徵稅令書ヲ受ケタル町村ノ納稅人ハ該令書ヲ添ヘ縣支金庫ニ拂込ミ領收證書ヲ領ケヘシ

第九條 市町村ニ於テ徵收ノ税金ハ納期限後三日以内ニ第三號樣式ノ納付書ニ現金ヲ添ヘ市ハ縣

金庫ニ町村ハ縣支金庫ニ拂込ミ其預リ證印ヲ得テ市ハ縣出納吏ニ町村長ニ差出シ其領收證書ヲ

受ケヘシ

但金額市ハ千圓町村ハ三百圓ニ達シタルトキハ其時々納付スヘシ

市長ニ於テ納期限後若クハ隨時徵集シタル税金ハ第七號樣式ニ依リ毎月一日十六日ノ兩度ニ前

項ニ準シ納付ス可シ

第十條 郡市長若クハ市町村收入役ニ於テ税金ノ納付ヲ受ケタルトキハ納付書若クハ徵稅令書徵

稅傳令書ニ領收證書交付濟ノ月日ヲ記入シ之ヲ切離シ領收證書ヲ本人ニ交付スヘシ

第十一條 前條ニ依リ領收證書ヲ交付シタルトキハ其切離セシ納付書若クハ徵稅令書徵稅傳令書

ニヨリ徵稅簿ノ記入ヲナスヘシ

第十二條 郡長ニ於テ納付ヲ受ケタル税金ハ第七號樣式ニ依リ毎月一日十六日ノ兩度ニ縣出納吏

ニ納付スヘシ其金額千圓ニ達シタルトキハ其時々納付スヘシ

第十三條 町村長ハ納期限ヲ過キ完納セサルモノアルトキハ第八號樣式ニ依其稅目金額住所氏名

ヲ納期限後三日以内ニ郡長ニ報告スヘシ

第十四條 郡長ニ於テ滯納處分又ハ其他ノ事故ニ依リ現金ヲ以テ徵收シタルトキハ縣支金庫ニ拂

込ミ領收證書ヲ本人ニ交付スヘシ

市長ニ於テ前項ノ場合ハ直ニ領收證書ヲ本人ニ交付スヘシ

第十五條 納税人ノ内旅行若クハ失踪等ニテ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ交付シ能ハサルトキハ一旦欠損トナシ本人歸籍ノトキハ速ニ徵收ノ手續ヲナスシ

第十六條 郡市長ニ於テ既往年度ニ屬スル稅金ヲ徵收シタルトキハ徵稅令書發付ノ日ヲ以テ年度ヲ區分シ該年度ノ雜收入又ハ相當課目ニ編入ス可シ

第十七條 納稅期限後滯納處分以前ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ滯納稅金及處分費ヲ納付セントスルトキハ郡役所ニ申出第九號様式ノ納付書ヲ受ケ之ニ徵稅傳令書若クハ徵稅令書ヲ添ヘ現金

縣支金庫ニ拂込ミ其預リ證印ヲ得テ之ヲ郡長ニ差出シ領收證書ヲ受ク可シ

市ノ納税人前項ノ場合ハ現金ニ徵稅令書ヲ添ヘ市長ニ拂込ミ領收證書ヲ受ク可シ

第十八條 市町村長ニ於テ納稅濟ノ内過誤納ヲ發見シ之ヲ拂戻ヲ要スルトキハ町村長ハ郡長ニ市長ハ知事ニ請求ス可シ

第十九條 郡市長ニ在テ納濟稅金ノ内科目違(各款)ヲ發見シタルトキハ直ニ縣出納吏ニ報告スヘシ

第二十條 郡市長ハ徵稅簿ヲ備ヘ調定額收入額未濟額等ヲ記載シテ之ヲ整理スヘシ

第二十一條 郡市長ハ毎月收入報告書及收入決算報告書ヲ調製シ收入報告書ハ翌月三日迄ニ收入決算書ハ翌年度四月卅日迄ニ縣廳ニ差出ス可シ

第二十二條 納税人他ノ市町村内ニ居住スル者及常ニ出稼ヲ爲ス者ハ納稅スヘキ市町村内ニ於テ納稅代人ヲ定メ雙方連署ヲ以テ市町村長ニ届出ツヘシ

附則 第二十三條 本則ハ明治卅年四月一日ヨリ施行ス 但明治二十四年縣令甲第八號地方稅徵收細則其他本則ニ牴觸スルモノハ本則施行ノ日ヨリ總

テ之ヲ廢止ス

◎地方稅檢査規程

地方稅檢査規程左ノ通更正明治二十七年四月九日訓令乙第一九四號(郡市)

地方稅檢査規程

第一條 地方稅ノ檢査ハ營業稅雜種稅及戶數割ヲ賦課スヘキモノニ就キ之ヲ行フヘシ 但營業稅中私設鐵道停車場及雜種稅中船車ハ此限コアラズ

第二條 檢査ハ定期及臨時ノ二種トシ定期檢査ハ毎年少クモ一回之ヲ行ヒ臨時檢査ハ臨時必要アル毎ニ之ヲ行フヘシ

第三條 檢査員ハ郡市書記中ヨリ豫メ之ヲ命スヘシ

第四條 檢査ハ左ノ各項ヲ目的トシテ之ヲ行フヘシ 定期檢査

一 無届營業者ノ有無

二 營業人ヨリ届出タル賦課物件ノ種類員數等實際ニ適合スルヤ否

三 戶數割ノ賦課ヲ受ケサル戶數ノ有無

四 營業諸帳簿ノ設備及記載方ノ正否

五 地位等級ノ適否

六 課稅上ノ權衡

七 前項ノ外營業規則ニ違背ノ有無

臨時檢査

一 或ル種目ニ就キ縣稅ノ有無

二 町村長ヨリ商金高収入金高等ノ検査ヲ求ムルトキ

三 前項ノ外臨時検査ノ必要ト認メタル事項

第五條 郡市長ハ定期検査ヲ行ハントスルトキハ豫メ着手及捺了ノ日限ヲ知事ニ報告ス可シ

第六條 検査ハ總テ本人家宅若クハ其店舗ニ就キテ之ヲ行フ

但必要ト認ムルトキハ便宜他ノ場所ニ於テ検査スル事アルヘシ

第七條 検査員臨檢ノ節ハ先ツ検査ノ證ヲ示シ本人若クハ代人ヲシテ立會ハシムヘシ

第八條 検査ハ勉メテ敏掃ヲ旨トシ營業上ノ障碍ナキヲ圖ルヘシ

第九條 検査ヲ行フハ日出ヨリ日没マテノ時間ニ限ル可シ

但検査上必要ナル場合ニ於テハ此限ニアラス

第十條 検査ハ一町村毎ニ着手シ可成其町村捺了ノ后他ノ町村ニ移ル可シ

第十一條 検査上發見ニ係ル脱稅者ハ第一號書式ノ検査簿ニ記載シ本人ノ受印ヲ徵シ尙必要ト認

ムルトキハ始末書ヲ徵ス可シ

第十二條 検査ヲ爲シタル諸帳簿ニハ「年月日検査」ト記載捺印ス可シ

第十三條 検査員ハ検査手帳ヲ携帶シ検査ニ係ル必要ノ事項ヲ記載ス可シ

但検査手帳ハ郡市役所ニ於テ調製下付ス可シ

第十四條 検査員歸郷ノ上ハ十日以内ニ検査簿ヲ添ヘ其頗未ヲ郡市長ニ復命ス可シ

第十五條 検査上發見ニ係ル脱稅者ノ員數及其實況ハ定期ト臨時トヲ問ハス總テ郡市長ヨリ知事

ニ報告スヘシ

第十六條 郡市長ハ検査ノ結果地位等級ノ適否及課稅上ノ權衡等ニ付キ意見アルトキハ其事由ヲ

知事ニ具申ス可シ

第十七條 検査員ハ他ノ公用ヲ帶ヒ出張中ト雖トモ脱稅者ト認ムルモノハ直ニ検査ヲ行フノ注意

ヲ怠ラサルヘシ

第十八條 検査ノ證票ハ第二號雛形ニ依リ調製下付ス可シ

(書式ハ略ス)

◎縣稅賦課取扱手續

明治三十年三月二十
九日訓令甲第十二號

(郡市、町村)

縣稅賦課取扱手續左ノ通相定メ明治三十年度ヨリ施行ス

但明治二十年縣令丙第四號全二拾七年訓令甲第五號全二拾九年訓令乙第四百四拾一號及本手續

ニ抵觸スルモノハ總テ之ヲ廢止ス

縣稅賦課取扱手續

第一條 地租額及營業稅附加稅ハ稅務署ヨリ報告ニ係ル地租及營業稅額ニ依リ賦課ス可シ

第二條 營業稅雜種稅ハ郡市役所備付ノ臺帳ニ依リ賦課スヘシ

第三條 戶數割ハ市町村長ニ於テ其年四月十一日現在ノ戶數ヲ調査シ市長ハ之ニ依リ賦課シ町

村長ハ第一號書式ニ依リ同月五日迄ニ郡長ニ報告シ郡長ハ該戶數ニ依リ賦課スヘシ

第四條 隨時收入ニ係ルモノニシテ年稅季稅ニ屬スルモノハ納稅義務ノ生シタル翌月ニ於テ賦課

スヘシ

第五條 町村長ハ第三條ノ報告ヲ爲シタル後増減ヲ生シタルトキハ其時々第二號書式ニ依リ郡長

ニ報告スヘシ

第六條 地位ニ依リ普通課額ヲ定メ賦課スルモノハ各戶ノ等級課額議案ハ四、十月二十日迄ニ市

町村會ニ提出スヘシ

戶數割ニ等級ヲ設ケ賦課セントスルトキ亦前項ニ同シ

第七條 第六條第一項ノ課額議案ハ營業規則第八條賣ノ上金高ヲ標準トシ調製スヘシ
 第八條 町村長ハ營業規則第八條ニ依リ届出タル賣上金高ヲ調査シ二月末日迄ニ第三號書式ニ依リ郡長ニ報告スヘシ

第九條 恤救規則ニ依リ救助ヲ受クル者又ハ縣費郡費市町村費ノ救助ヲ受クル者等ニシテ戸數割ノ賦課ヲ受ケサル者アルトキハ市町村長ハ其種別ヲ取調町村長ハ第三條報告ノ際一人別ニ其事由ル添報スヘシ

第十條 郡長及市町村長ハ第四號書式ニ依リ營業人一人別台帳ヲ備ヘ置キ其増減異動アル毎ニ之ヲ加除訂正スヘシ

但住所等ノ移轉ニ依リ所轄廳ヲ變更シタルトキハ乙廳ニ於テハ臺帳登記ノ月日ヲ甲廳ニ通報シ甲廳ハ乙廳登記ノ日ヲ以テ臺帳ヲ删除ス可シ

第十一條 營業者中失踪シ次期ノ課稅ヲ爲スノ際ニ至ルモ尙其所在ヲ知ル能ハサルモノハ臺帳ヨリ之ヲ除去ス可シ

第十二條 前條ニ該當スルモノアルトキハ其人名及業名等ヲ取調町村長ヨリ郡長ニ報告ス可シ

第十三條 郡市長ハ水火盜難等ニ依リ鑑札ヲ亡失シタルモノアルトキ又ハ鑑札ヲ携帯失踪シタルモノアルトキハ其旨知事ニ届出ツ可シ

第十四條 營業規則ニ依リ下付スル鑑札ハ第五號乃至第八號離形ニ依リ郡市長ニ於テ調製下付ス可シ

第十五條 郡市長ニ於テ船鑑札ヲ下付スルトキハ噸數ハ船舶積量測定規則ニ據リ間數ハ舳梁ヨリ舳梁マテヲ測定シ噸數間數共單位ニ止メ其以下端數ハ切捨ツ可シ

第十六條 荷積車ハ荷臺荷物ヲ積載スル場所ノ尺積十四坪以上ヲ以テ六七車以上トシ十四坪未

滿ヲ以テ中小車トシ區別ス可シ

第十七條 人力車ハ横巾内法貳尺未滿ヲ一人乗トシ貳尺以上ヲ二人乗トシ區別ス可シ

第十八條 船車ノ檢印ハ第九號離形ニ依リ調製シ左ノ如ク烙記ス可シ

有稅車ハ挽手	左手ハ	何	車
	右手ハ	郡市役所	
免稅車ハ挽手	左手ハ	免	稅
	右手ハ	郡市役所	
免稅船ハ艦外部後面ハ		免	稅

第十九條 郡長及市町村長ハ第十號書式ニ依リ船車臺帳ヲ備ヘ置キ其増減異動アル毎ニ之ヲ加除訂正ス可シ

但住所定繫場又ハ所有權ノ移轉ニ依リ所轄廳ヲ變更シタルトキハ第十條但書ニ依リ

第二十條 徵收細則第二十條及第二十一條ノ徵稅簿收入報告書收入決算報告書ハ第十一號乃至第十三號書式ニ依リ調製ス可シ

第二十一條 町村ニ於ケル徵稅簿ハ第十一號第四樣式ニ依リ調製ス可シ

第二十二條 郡長及市町村長ニ於テ本手續規定ノ外必要ノ簿冊ハ適宜調製整理ス可シ

◎縣稅徵收期限
明治三十年二月二十六日縣令第六號
縣稅徵收期限左ノ通相定メ明治三十年度ヨリ施行ス

縣稅徵收期限

第一條 地利割戸數割ハ左ノ區別ニ依リ徵收ス

地租割

第一期稅額ノ五分 該年五月一日ヨリ全十五日限

第二期稅額ノ五分 該年十一月一日ヨリ全十五日限

戸數割

第一期稅額ノ五分 該年五月廿一日ヨリ全卅一日限

第二期稅額ノ五分 該年十一月二十一日ヨリ全三十日限

第二條 營業稅雜種稅及營業稅附加稅ハ左ノ區別ニ依リ徵收ス

地位ニ依リ賦課分

第一期稅額ノ五分 該年五月廿一日ヨリ全三十一日限

第二期稅額ノ五分 該年十一月二十一日ヨリ全三十日限

地位ニ拘ラス賦課ノ分

第一期稅額ノ五分 該年四月二十六日ヨリ全三十日限

第二期稅額ノ五分 該年十月二十六日ヨリ全三十一日限

營業稅附加稅

第一期稅額ノ五分 該年五月二十六日ヨリ全三十一日限

第二期稅額ノ五分 該年十一月二十六日ヨリ全三十日限

第三條 月稅季稅其他隨時收入ニ係ルモノハ左ノ區別依リ徵收ス

月稅 其月二十日限 鰯魚 該季四月廿日限 鮭魚 該季九月二十日限

日稅 市場稅 屠畜稅 届出ノ時々

年稅 季稅ニ屬スルモノニシテ新稅ニ係ルモノハ納稅義務ノ生シタル翌月十日限リ

第四條 縣稅納期ノ未日日曜日又ハ祭日祝日ニ當ルトキハ其翌日ヲ以テ納期ノ未日トス

附則

第五條 明治三十年度營業稅附加稅第一期ノ納期ハ八月二十六日ヨリ全三十一日限リトス

◎縣稅營業規則

縣稅營業規則左ノ通相定メ明治三十年四月十一日ヨリ施行ス

明治二十七年縣令第十二號及全二十九年縣令第五十二號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

縣稅營業規則

第一章 通則

第一條 此規則ニ於テ營業ト稱スルハ縣稅中營業稅雜種稅ヲ賦課スルモノヲ云フ

第二條 營業者ハ第一號雛形ニ倣ヒ標札ヲ製シ店頭ニ掲クヘシ

但船車乘馬市場演劇興行及他ノ規則ニ依リ標札ヲ掲クル者又ハ鑑札(行商鑑札ヲ除ク)ヲ所持スル者ハ此限ニアラス

第三條 左ノ營業者ハ各其帳簿ヲ備ヘ日々其員數ヲ明記シ置クヘシ

一 物品販賣業ハ 仕入及賣上ニ關スル帳簿

二 金貸付業 物品貸付業ハ 貸付及收入金ニ關スル帳簿

三 土木請負業 勞力請負業ハ 請負金明細帳

四 牛馬賣買業ハ 賣買臺帳

五 製造業ハ 仕入及收入金ニ關スル帳簿

第四條 前條帳簿ハ 勿論其他該營業ニ關スル帳簿類ハ 其翌年ヨリ三ヶ年間保存スヘシ

第五條 營業ニ關スル帳簿及物件ハ 當該吏員ヲテ臨時之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第六條 檢査員ハ 檢査ノ證ヲ携帶シ營業者ノ求メニ應シ之ヲ示スヘシ

第七條 本則中郡役所へ差出す書類ハ總テ町村役場ヲ經由スヘシ

第二章 課税標準届出區分

第八條 左ノ營業者ハ前年ニ於ケル各其員額ヲ取調第二號書式ニ依リ毎年一月三十一日限り郡市役所ニ届出ヘシ

但町村ノ物品販賣業者ハ町村役場ニ届出ツヘシ

- 一 物品販賣業ハ賣上金額
- 二 金錢貸付業 物品貸付業 製造業ハ資本金額
- 三 土木請負業 勞務請負業ハ請負金額
- 四 席貸業ハ建物賃貸價格
- 五 牛馬賣買業ハ賣買頭數

前項ノ員數ニシテ一ケ年ニ滿タサカモノハ月割平均ヲ以テ之ヲ計算スヘシ

第九條 前條外ノ營業者ニシテ課税標準及等級種別等ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度郡市役所ニ届出ツヘシ

第十條 營業者ノ届出タル資本金額ヲ不相當ト認ムルトキハ郡市長ハ其營業ノ收入金額ヲ調査シ相當ノ營業費ヲ扣除シ其殘額ノ十五倍ヲ以テ之ヲ算定スルコトヲ得

第十一條 市場ハ日々ノ賣上高ヲ明記シ置キ其種類及ヒ金額ヲ閉場後五日以内ニ郡市役所ニ届出ツヘシ

但一ケ月以上ニ渉ル者ハ前月分ヲ翌月五日迄ニ本條ニ依リ届出ツヘシ

第十二條 屠畜ハ日々屠殺スル所ノ種類及頭數ヲ明記シ置キ其月分翌月五日以内ニ郡市役所ニ届出ツヘシ

第十三條 市町村長ハ第八條ニヨリ届出テタル賣上金額ヲ取調若シ不適當ト認ムルトキハ之ヲ訂正セシムヘシ

第三章 開廢業

第十四條 新規營業者ハ第二號書式ニ依リ開業ノ際郡市役所ニ届出ツヘシ

但廢業ノ後同一期中ニ再開業スル者ハ其旨届書ニ記入ス可シ

第十五條 演劇及興業ヲ營ムモノハ其數及木戸錢中錢等ノ額ヲ詳記シ第四號書式ニ依リ興行開始前郡市役所ニ届出ツヘシ

第十六條 左ニ掲クル營業者ハ開業届出ノ際鑑札ヲ受ケ出稼スル者ハ之ヲ携帯スヘシ

- 職工 理髮人 遊藝師匠 遊藝稼人 相撲(年寄行司共) 俳優 帮間 藝妓 漁業採藻者
- 牛馬賣買業

第十七條 行商ヲ爲サントスルモノハ第五號書式ニ依リ郡市役所ニ願出テ行商鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ

但他ノ規則ニ據リ行商鑑札ヲ所持スル者ハ此限ニアラス

第十八條 鑑札ヲ亡失毀損シタルトキハ第六號書式ニ依リ郡市役所ニ願出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第十九條 鑑札ハ貸借賣買及讓與ヲ爲スヲ得ス

第二十條 營業人住所氏名ヲ變更シタルトキハ其旨郡市役所ニ(他郡市ニ移轉シタルトキハ其郡市役所ニ)届出ツヘシ

但鑑札アル者ハ之ヲ届書ニ添付シ書換ヲ請フヘシ
相續讓渡等ニテ營業ヲ繼續スルトキハ双方連署ノ上届出ツヘシ

第二十一條 營業人廢業スルトキハ郡市役所ニ届出ツヘシ

但鑑札アル者ハ之ヲ届書ニ添付スヘシ

第四章 船

第二十二條 船舶ヲ所有スル者ハ其定繫場ヲ定メ第七號書式ニ依リ定繫場所在ノ郡市役所ニ願出テ鑑札ヲ請フヘシ

但商船規則及船鑑札規則ニ據リ登録船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ハ其定繫場及ヒ船名並噸石數ヲ記載シ定繫場所在ノ郡市役所ニ届出ツヘシ

課税外ニ屬スル船舶ハ其種類並用途ヲ詳記シ郡市役所ニ願出テ免税ノ檢印ヲ請フヘシ

免稅船ヲ有稅船ト爲サントスルトキハ第一項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ請フヘシ

第二十三條 船鑑札ハ其船ノ艙外部後面ニ釘付スヘシ

但西洋形船ハ其船ニ備ヘ置クコトヲ得

第二十四條 船舶ヲ賣却讓與シタルトキハ雙方連署ノ上買受人又ハ讓受人ノ定ムル定繫場所在ノ郡市役所ニ届出テ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

但第二十二條但書ニ依リ届出テタル船舶ヲ買却讓與シタルトキハ本條ニヨリ届出ツヘシ

第二十五條 左ノ場合ニ於テハ速ニ郡市役所ニ届出テ船鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一 鑑札ノ磨滅又ハ之ヲ亡失毀損シタルトキ

一 船体ヲ變更シ又ハ積量間數ニ増減ヲ生シタルトキ

一 住所又ハ定繫場ヲ變更シタルトキ

一 四改名又ハ代替ノトキ

第二十六條 船舶ヲ破壊シ亡失シ又ハ解散シタルトキハ速ニ鑑札ヲ添ヘ郡市役所ニ届出ツヘシ

但鑑札ヲ添付シ難キモノハ其事由ヲ詳記スヘシ

亡失シタル船舶ノ所在ヲ發見シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第五章 車

第二十七條 車ヲ所有スル者ハ其種類ヲ記載シ第八號書式ニ依リ郡市役所ニ願出テ檢印ヲ請フヘシ

但課税外ニ屬スルモノハ其種類并用途ヲ詳記シ免税ノ檢印ヲ請フヘシ

免稅車ヲ有稅車ト爲サントスルトキハ前項ノ手續ニ依リ檢印ヲ請フヘシ

第二十八條 車ヲ賣却讓與シタルトキハ雙方連署ノ上買受人又ハ讓受人ノ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ速ニ郡市役所ニ届出テ車ノ檢印ヲ請フヘシ

一 檢印ヲ取換ヘタルモノハ檢印ヲ切取り届書ニ添付スヘシ

一 檢印ノ磨滅又ハ毀損シタルトキ

一 二挽手ヲ取換ヘタルトキ

一 三馬車馬ノ匹數ヲ増減シタルトキ

一 四普通荷臺ノ外別ニ積載ノ場所ヲ加設シ又ハ之ヲ變更シタルトキ

一 五車ノ種類ヲ變更シタルトキ

第三十條 左ノ場合ニ於テハ速ニ郡市役所ニ届出ツヘシ

一 但破壊又ハ解散シタル車ハ其檢印ヲ切取り届書ニ添付スヘシ

一 車ヲ亡失シ破壊シ又ハ解散シタルトキ

一 二亡失シタル車ノ所在ヲ發見シタルトキ

三改名又ハ代替ノトキ
四住所ヲ變更シタルトキ

第六章 罰則

第三十一條 第三條第十四條第十五條第二十二條第二十七條ニ違背シタル者及第五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十二條 第三條第四條第八條第九條第十一條第十二條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十八條第二十九條第三十條ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

◎茨城縣備荒儲蓄法施行規則

茨城縣備荒儲蓄法施行規則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通相定ム

明治三十年一月廿五日縣令第二號

茨城縣備荒儲蓄法施行規則

第一章 管守及利殖

第一條 備荒儲蓄金ハ縣廳ニ保管シ、毎年度支出豫算ノ外ハ公債證書ニ交換シ利殖スルモノトス

第二章 給與

第二條 非常ノ災害ニ罹リタルモノニ食料ヲ給スルハ左ノ區別ニ依ル

第一 災害ノ爲メ目下飢餓ニ迫ルノ事實明瞭ナルトキハ一人一日白米三合ノ割合トシ其地前月下白米相場ニ相場立無之處ハ最寄ノ相場ニヨルヲ以テ二十日以内食料ヲ給ス

但國稅點稅ヲ通シテ七圓以上納ムルモノハ此限ニアラス

第二 災害ノ爲メ炊事ヲ行フ能ハサル場合ト認ムルトキハ時宜ニ依リ日數十日以内焚出米ヲ給與スルコトアルヘシ

第三條 非常ノ災害ニ罹リタルモノニ小屋掛料ヲ給スルハ左ノ區別ニ依ル

第一 家屋ヲ失ヒ雨露ヲ凌ク能ハサルモノニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸八口以上金拾圓以内五口以上金八圓以内四口以下金六圓以内ヲ給ス

但國稅點稅ヲ通シテ十圓以上ノ納ムルモノ其他同居及借住ノモノハ此限ニアラス

第二 災害ノ爲メ立退場ニ差支アリト認ムルトキハ時宜ニ依リ避難所ヲ設ケ一時ノ急ヲ救フコトアルヘシ

第四條 非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リ農具及種穀ヲ失ヒ自ラ購フ能ハサルモノニ農具料及種穀料ヲ給與スルハ左ノ區別ニ依ル

但地租五圓以上納ムモノ又ハ耕地反別一町歩以上所有スルモノハ此限ニアラス

第一 農具料反別町歩以上耕耘スルモノハ一戸金七圓以内五反歩未満耕耘スルモノハ一戸金五圓以内ヲ給ス

第二 種穀料(米麥黍稗菽)ハ反別五反歩以耕耘スルモノハ一戸金參圓以内全五反歩未満耕耘スルモノハ一戸金貳圓以内ヲ給ス

第三 農具料種穀料ハ農ヲ以テ本業トスルモノニアラザレハ之ヲ給セス

第三章 地租貸與及補助

第五條 非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リ土地又ハ家屋ヲ賣却スルニ非サレハ地租ヲ納ムル能ハサルモノニ地租ヲ貸與シ若クハ補助スルハ左ノ區別ニ依ル

但地租五圓以上納ムルモノ耕地反別一町歩以上所有スルモノ及收穫皆無ニ屬スル反別全所有耕地ノ半ニ至ラザルモノハ此限ニアラス

第一 本條ノ場合ニ遭遇シ收穫皆無ニ屬スルモノ全所有耕地反別ノ半以上ニ至ルトキハ其皆無

ニ屬スル地租ノ全額又ハ幾分ヲ貸與シ返納ハ其翌年ヨリ無利息七ヶ年賦トシ毎年十月返納セシム

第二 貸與年賦中本條ノ場合ニ遭遇シ第一項ノ趣旨ニ該當スルトキハ其收穫皆無ニ屬スル耕地ノ租額又ハ幾分ヲ補助シ其年納ムヘキ年賦金ハ免除ス

第三 土地又ハ家屋ヲ賣却讓與スルトキハ貸與金ヲ一時ニ返納セシム
但家督相續者ニ讓與スルカ又ハ滞納處分ニ係ルモノハ此限ニアラス

附則

第六條 罹災ノ爲ノ給與補助貸與ヲ出願スルハ左ノ日限内トス
食料小屋掛料農具料 罹災後十五日以内
穀種料地租貸與及補助 罹災後六十日以内
但作物收穫以前トス

第七條 家族ノ所有地及納税額ハ第二條第三條第四條第五條中ノ地租國稅縣稅及反別中ニ合算スルモノトス

第八條 此規則ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス但明治二十四年縣令甲第九號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

◎縣稅徵收費用交付手續
明治三十年五月十九日訓令甲第十七號 (郡市、町村)
縣稅徵收費用交付手續左ノ通り相定ム
但明治二十四年訓令第五十八號及全二十五年訓令百四十二號ハ廢止ス

縣稅徵收費用交付手續
縣稅徵收費用交付手續ニ依リ算出スルモノトス

第一條 徵收費ハ地租割外ノ縣稅實收額ニ依リ算出スルモノトス

但府縣稅徵收法第七條ニ依リ市ノ徵收額及町村役場ヲ經テ徵收セサルモノハ除算ス

第二條 徵收費ハ二期ニ分チ其年四月ヨリ九月マテニ徵收シタル分ハ十月ニ十月ヨリ翌年三月マテニ徵收シタル分ハ四月ニ交付スヘシ

第三條 既納税金ノ内過誤納下戻ニ係ル徵收費用ハ之ヲ交付セズ

第四條 郡市町村長ハ別紙書式ニ據リ計算書ヲ調製シ郡市長ハ每期十日限リ知事ニ町村長ハ全二十日限リ郡長ニ請求スヘシ

(別紙)

明治何年度第何期何郡縣稅徵收費用交付金計算書

町村名	營業稅種	稅種	營業稅附加稅戶數	割過年度收入	計	交付金額
明治何年度第何期何郡縣稅徵收費用交付金計算書						
營業稅種	稅種	營業稅附加稅戶數	割過年度收入	計	交付金額	
計						

◎茨城縣慈善救濟基本金管理法 明治三十年四月廿二日告示第九十三號

本縣慈善救濟基本金管理法臨時總會ノ議決ヲ經テ左ノ通り相定ム

茨城縣慈善救濟基本金管理法
第一條 明治三十年一月三十一日慈善救濟ノ爲メ本縣ヘ御下賜相成タル公債證書額面九千四百圓ト有志者ノ義金トヲ以テ慈善救濟基本金トシテ永久之ヲ蓄積スルモノトス

第二條 慈善救濟基本金ハ現金五拾圓以上ニ至ルトキハ公債證書ニ交換スルモノトス
第三條 慈善救濟基本金ヨリ生スル利子ハ將來確實ナル事業成立迄ノ間之ヲ蓄積スルモノトス
第四條 現金ハ總テ預金規則ニ依リ金庫ニ預ケ入ルモノトス

◎茨城縣現金取扱規程

明治三十年三月三十日令縣第十二號
茨城縣現金取扱規程左ノ通相定メ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第一章 總則

第一條 縣廳郡役所警察署監獄支署學校ハ縣本金庫縣支金庫現金管守方ト此規程ニ依リ使用スル印鑑ヲ互ニ交換シ差數ニ供スヘシ
第二條 縣本金庫縣支金庫現金管守方ノ事務取扱時限ハ知事又ハ所長（郡長警察署長監獄支署長學校長ヲ云フ以下同シ）ノ指定シタル日ノ開廳時間ヨリ退廳前壹時間マテトス但臨時至急ヲ要スルトキ又ハ收支ノ幅濶シタル場合ハ此限ニアラス
第三條 縣本金庫縣支金庫現金管守方ニ於テ受領スル現金ハ持參人ノ目前ニ於テ其眞贋ヲ鑑定スヘシ

第二章 縣本金庫

第四條 縣本金庫ハ納人ヨリ第一號様式ノ收入命令ニ添付シタル現金ヲ受領シタルトキハ左ノ如ク記入捺印シ領收證ハ納人ニ交付シ收入命令ハ之ヲ內務部第四課長ニ差出スヘシ
第五條 內務部第四課長ハ縣廳ニ到達シタル現金ニシテ直チニ收入シ得ルモノハ第三號様式ノ拂込書其收入シ得ルモノハ第四號様式ノ管守通知書ヲ添ヘ之ヲ縣本金庫ニ送付スヘシ
第六條 縣本金庫ハ前條管守通知書ニ添付シタル現金又ハ各所ヨリ送達スル手形ヲ領收シタルトキハ第四號様式ノ管守證ヲ造リ直チニ之ヲ內務部第四課長ニ差出スヘシ
第七條 內務部第四課長ハ縣本金庫ヨリ差出シタル管守證ニシテ收入シ得ヘキトキハ該管守證ニ第三號様式ノ拂込書ヲ添ヘ之ヲ縣本金庫ニ送付スヘシ
第八條 縣本金庫ハ內務部第四課長ヨリ第二號様式ノ拂込書ニ添付シタル現金若クハ管守證ヲ領收シタルトキハ拂込書ニ式ノ如ク記入捺印ノ上直チニ之ヲ還付シ管守金ヲ保管金ニ移スヘシ
第九條 縣本金庫ハ第二號様式ノ支出命令ヲ持參シ現金ノ拂渡ヲ要求スルモノアルトキハ會計事務管理者ノ調定及按内支出命令ノ符合ヲ認メタル上現金ヲ交付シ支出命令及按内支出命令ニ式ノ如ク記入捺印シ案内支出命令ハ金庫ニ留置キ支出命令ハ第十三條ノ日計表ト共ニ之ヲ內務部第四課長ニ差出スヘシ
第十條 縣本金庫ハ左ノ場合ニ於テハ其事由ヲ支出命令持參人ニ告ケ現金ノ仕拂ヲ拒ムヘシ
一 按内支出命令未到達ノトキ
二 支出命令及按内支出命令ニ規定ノ記入捺印ナキトキ
三 支出命令ト按内支出命令ト符合セサルトキ若クハ汚損シテ其符合ヲ認メ難キトキ
四 會計事務管理者ノ調定ナキトキ

第十一條 縣本金庫ハ毎日收領及仕拂ノ金額ヲ集計シ第五號様式ノ保管金出納帳乙號ニ左ノ如ク記入捺印シ即日内務部第四課長ニ差出スヘシ

第十二條 内務部第四課長ハ其管理スル帳簿ノ結果ニ依リ第五號様式ノ保管金出納帳甲號ニ式ノ如ク記入捺印シ縣本金庫ヨリ差出ス所ノ乙號ニ照査シ其符合ヲ認メタルトキ證印ノ上甲乙號兩帳ニ割印シ甲號ヲ縣本金庫ニ交付スヘシ

第十三條 縣本金庫ハ第六號様式ノ日計表ヲ調製シ即日内務部第四課長ニ差出スヘシ

第十四條 内務部第四課長ハ送金ヲ要スルトキハ第七號様式ノ送金申込書ニ支出命令及按内支出命令ヲ添付シ之ヲ縣本金庫ニ送付スヘシ

第十五條 縣本金庫ハ前條ノ申込ニ接シタルトキハ支出命令及按内支出命令ハ第九條ノ手續ニ依リ取扱ヒ且送金申込書ニハ式ノ如ク記入捺印シ之ヲ内務部第四課長ニ差出シ置キ送り先キノ領收證書ヲ得テ之ト交換スヘシ

第三章 郡役所監獄支署學校及支金庫所在地ノ所長及縣支金庫

第十六條 所長ハ收入金ヲ收入セントスルトキハ第八號様式甲號ノ保管通知書ヲ納人ニ交付シ縣支金庫ニ現金ヲ納付セシムヘシ

第十七條 所長ハ現金又ハ送金通知書ヲ受ケタルトキハ(縣支金庫ニ送金通知書ノ金員到達セシヤ否ヲ確メ)第八號様式乙號ノ保管通知書ヲ添付シ之ヲ縣支金庫ニ送付スヘシ

第十八條 縣支金庫ハ納人ヨリ第一號様式ノ收入命令ニ添付シタル現金ヲ領收シタルトキハ式ノ如ク記入捺印シ領收證ハ納人ニ交付シ收入命令ハ之ヲ所長ニ差出スヘシ

第十九條 縣支金庫ハ納人ヨリ第八號様式甲號保管通知書ニ添付シタル現金ヲ領收シタルトキハ式ノ如ク記入捺印シ領收證ハ納人ニ交付シ通知書ハ之ヲ所長ニ差出スヘシ

第二十條 縣支金庫ハ所長ヨリ第八號様式乙號ノ保管通知書ニ添付シタル現金又ハ送金通知書ヲ領收シタルトキハ保管通知書ニ式ノ如ク記入捺印シ之ヲ所長ニ差出スヘシ

第二十一條 所長ハ現金ヲ仕拂ハントスルトキハ第九號様式ノ保管金引出切符ヲ調製シ之ヲ債主ニ交付シ縣支金庫ヲテ現金ヲ仕拂ハシムヘシ

第二十二條 縣支金庫ハ第九號様式甲號保管金引出切符ヲ以テ現金ノ仕拂ヲ要求スルモノアルトキハ第九號様式乙號案内引出切符ヲ照査シ其符合ヲ認メタル上現金ヲ交付シ甲乙號切符ハ式ノ如ク記入シ乙號切符ハ之ヲ留置キ甲號切符ハ第廿六條ノ日計表ト共ニ之ヲ所長ニ差出スヘシ

第二十三條 縣支金庫ハ左ノ場合ニ於テハ其事由ヲ現金引出切符持參人ニ告ケ現金ノ仕拂ヲ拒ムヘシ

一 案内引出切符未到達ノトキ

二 現金引出切符及案内引出切符ニ規定ノ記入捺印ナキトキ

三 現金引出切符案内引出切符ト符合セザルトキ若クハ汚損シテ其符合ヲ認メ難キトキ

第二十四條 縣支金庫ハ毎日領收及仕拂ノ金額ヲ集計シ第五號様式保管金出納帳乙號ニ式ノ如ク記入捺印シ即日所長ニ差出スヘシ

第二十五條 所長ハ其管理スル帳簿ノ結果ニ依リ第五號様式ノ保管金出納帳甲號ニ式ノ如ク記入捺印シ縣支金庫ヨリ差出ス所ノ乙號ニ照査シ其符合ヲ認メタルトキ證印ノ上甲乙號兩帳ニ割印シ甲號ヲ縣支金庫ニ交付スヘシ

第二十六條 縣支金庫ハ第六號様式ノ日計表ヲ調製シ即日所長ニ差出スヘシ

第二十七條 所長ハ送金ヲ要スルトキハ第七號様式ノ送金申込書ニ保管金引出切符及案内引出切符ヲ添付シ之ヲ縣支金庫ニ送付スヘシ

第廿八條 縣支金庫ハ前條ノ申込ニ接シタルトキハ第廿二條ノ手續ニ準シ取扱ヒ且送金申込書ニハ式ノ如ツ記入捺印シ之ヲ所長ニ差出シ置キ送り先キノ領收證書ヲ得テ之ト交換スヘシ

第四章 警察署及現金管守方

第二十九條 所長ハ現金ヲ領收シタルトキハ之ヲ現金管守方ニ預ケ入ルヘシ

第三十條 所長ハ仕拂ヲ爲サントスルトキハ豫テ所要ノ金額ヲ現金管守方ニ通知シ當日之ヲ受取債主ニ仕拂フヘシ

第三十一條 現金管守方ハ定期出張又ハ臨時出張ノトキハ所長ヨリ通知ノ金額ヲ持參シ所長ニ拂渡スヘシ

第三十二條 現金管守方ハ所長ヨリ現金ヲ領收シタルトキ又ハ前條ニ依リ現金ヲ拂渡シタルトキハ第五號様式管守金出納帳乙號ニ式ノ如ク記入捺印シ之ヲ所長ニ差出スヘシ

第三十三條 所長ハ其管理ナル帳簿ノ結果ニ依リ第五號様式ノ管守金出納帳甲號ニ式ノ如ク記入捺印シ現金管守方ヨリ差出ス所ノ乙號ニ照査シ其符合ヲ認メタルトキ證明印之上甲乙號兩帳ニ割印シ甲號ヲ現金管守方ニ交付スヘシ

第三十四條 所長ニ於テ收入スル所ノ現金ハ納金ニ領收證書ヲ交付シタル後直ニ郵便爲替又ハ送金手形ヲ以テ縣廳ニ送達スヘシ

附則

第三十五條 此規程中第一號第二號第七號第八號(甲號)第九號様式ハ本年四月三十日迄仍ホ從來ノ分ヲ使用スルコトヲ得 (様式ハ零ノ)

◎縣歲入歲出收支證明規程

明治三十一年四月四日訓令之第九十三號 (郡市、警、監支署、縣立學校、娼妓檢査所)

縣歲入歲出收支證明規程左ノ通相定メ明治三十一年度ヨリ施行ス

次城縣歲入歲出收支證明規程

第一條 各所長ハ毎月收入(縣稅ヲ除ク)報告及支出報告書ヲ調製シ收入報告書ハ翌月三日限り支出報告書ハ翌月十日限り之ヲ縣知事ニ提出スヘシ

第二條 各所長ハ各年度歲入(縣稅ヲ除ク)歲出ノ收支決算報告書ヲ調製シ收入決算報告書ハ翌年度四月三十日限り支出決算報告書ハ翌年度五月十日限り之ヲ縣知事ニ提出スヘシ

第三條 證憑書類ハ正當受取人ノ領收證書精算書戻入仕譯書其他支出ノ事實ヲ詳記セル仕拂人ノ證明書ヲ以テ之ニ代フヘシ

第四條 證憑書類ハ原本ニ限レ若シ其原本ヲ提出シ難キトキハ各所長ノ證明シタル謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五條 證憑書類中金員ノ數字ハ壹貳參拾ノ文字ヲ使用スヘシ

第六條 證憑書類ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ但事項複雜ニ涉ルモノハ別紙ヲ添付シ之ニ記載スヘシ

第一 俸給其他給與ニ屬スル領收證書ニシテ任免黜陟若クハ欠勤等ノ事故ニヨリ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ事由年月日

第二 旅費本拂ニ係ル領收證書及概算精算書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日往復里數宿泊場所等

第三 物品購入ニ係ル領收證書ニハ每品ノ數量單價及物品出納簿ニ登記シ年月日(出張先ニ於テ購入シ直チニ消費シタル者ハ之ヲ除ク)又特別ノ物品ハ其使用ノ目的

第四 運搬費ニ係ル領收證書ニハ其發着地名年月日品目數量里程

右ノ特別ノ支出ニシテ認許ヲ要スルモノ等ハ其事由

第七條 謄憑書類ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

第一 退官賜金領收證書ニハ履歷書

第二 旅費本拂ニ係ル領收證書及概算拂ノ精算書ニハ迂路ヲ經過シ若クハ病氣其他ノ事故ニ依リ公務外ニ日數ヲ要シタルトキ又ハ車馬賃ノ實費拂割増拂ヲナシタルトキハ當該上官ノ認許書

第三 競争ニ依リ物件ヲ購買シタルモノニ係ル領收證書ニハ其契約書

第八條 前二條ニ據リ難キ事項ハ適實ノ方法ヲ以テ各其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第九條 證收書類ノ整理ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

第一 一欸毎ニ別冊トシ各冊トモ科目ノ順序ヨ從ヒ編纂シ各目ノ表紙ニ目及節ノ名稱並ニ其金額(戻入ニ係ルモノハ外金何程ト朱書)ヲ記載シ尙該表紙ニ目ノ名稱ヲ記載シタル見出チ點付スヘシ

第二 概算拂ニ係ル領收證書ハ追テ精算ノトキ該精算書ニ添付シ本拂證書中ニ編纂スヘシ

第三 戻入仕譯書ハ本拂證書中ニ編纂スヘシ

第四 領收證書中未到達ノモノアルトキ其仕譯書ヲ調製シ毎月支出報告書ニ添付スヘシ此場合ニ於テハ證收書ノ表紙ヨ目節ノ名稱及其金額(外金何程トスル)ヲ朱書スヘシ
未到達證書到達シタルトキハ各相當目毎ニ區別シ前各項ヨ準シテ整理スヘシ

第十條 報告書仕譯書領收證書ハ別紙書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ人民ヨリ徵スル領收證書モ成ルヘク別紙書式ニ準シテ調製セムヘシ

縣稅徵收法施行細則第二十一條ノ每月收入報告書及收入決算報告書モ別紙書式ニ依リ縣稅外諸收入報告書ト一紙ニ調製ス可シ

第十一條 此規程ニ於テ所長ト稱スルハ都市長警察署長監獄支署長縣立學校長(分校ハ主席教諭)及娼妓檢査所幹事ヲ云フ

(書式ハ略ス)

◎茨城縣有財產管理規則

明治三十年三月六日訓令乙第六三號

(師範、中學、簡易農)

茨城縣有財產管理規則左之通相定ム

茨城縣有財產管理規則

第一條 本則ニ於テ財產ト稱スルハ縣ノ所有ニ屬スル動產不動產ヲ云フ

第二條 財產ノ賣却讓與交換貸付及保管ハ特ニ定ムルモノヲ除ク外總テ本則ニ依ル

第三條 財產ノ保管ハ左ノ區別ニ依ル

一 有價證券ハ縣廳ニ於テ保管ス

二 現金ハ縣金庫又ハ現金管守者ヲシテ保管セシム

其他ノ財產ハ縣廳又ハ直接之ヲ使用スル官署學校等ニ於テ之ヲ保管ス但特ニ保管人ヲ置キ保管セムルコトアルヘシ

第四條 財產ノ賣却代金ハ物件引渡前ヨ納付セシムルモノトス

但官署ニ對シ賣却スル場合ハ此限ヨアラス

第五條 財產ノ賣却又ハ質貸ハ公入札ニ付スルモノトス

但左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ爲スコトヲ得

一 緣故ニ由リ又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ賣却又ハ質貸スルトキ

- 二 季節アル生産物ヲ賣却スルトキ
- 三 腐敗ノ虞アル物品ヲ賣却スルトキ
- 四 豫定價格百圓以内ノ不動産又ハ五拾圓以内ノ動産ヲ賣却又ハ賃貸スルトキ
- 第六條 財産ノ使用貸ノ緣故アル場合又ハ公共ノ用
- 第七條 財産ノ交換ハ同一種ノ財産ニシテ少クモ評定價格相均シキモノニ限ル
- 第八條 財産貸付ノ契約中ニ記載スヘキ要件左ノ如シ
 - 一 貸付期限中ト雖モ縣又ハ公共ノ用ニ供スル必要アルトキハ之ヲ返還セシムルコト
 - 二 右ノ場合ニ於テハ既納ノ料金ハ月割又ハ日割ヲ以テ還付スルコト
 - 三 許諾ヲ得スルテ物件ノ原形ヲ變更シタル場合ニ於テハ借人ノ自費ヲ以テ原形ヲ復セシムルコト
- 四 物件ヲ目的以外ニ使用シ又ハ轉貸シ荒廢シ毀損シ其他契約ヲ履行セサル場合ニ於テハ隨時之ヲ返還セシムコト
- 五 右ノ場合ニ於テ損害アルトキ又ハ物件ヲ亡失シタルトキハ之ヲ賠償セシムルコト
- 六 修理其他ノ費用ヲ負擔スル方法
- 第九條 財産ノ賣却又ハ貸料ノ豫定價格ハ知事之ヲ定ム
- 第十條 入札者ナキトキ又ハ入札再度ニ及ブモ尙豫定價格ニ達セサルトキハ知事ニ於テ隨意約ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 前各條ノ外管理上必要ナル事件ハ縣參事會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十二條 本則ハ明治卅年一月一日ヨリ施行ス

◎縣有財産公賣手續

縣有財産公賣手續別冊之通相定ム

明治三十年六月三日
訓令乙第一七二號

(内務、警、監)

但本手續ニ抵觸スル從前ノ規定ハ廢止ス

公賣手續

- 第一條 公賣物件ヲ入札セントスルモノハ見積價格十分ノ一以上ノ入札保證金ヲ添ヘ第一號書式ニ依リ入札ス可シ
- 第二條 入札ハ一旦差出シタル後ハ引換及取消ヲ許サス
- 第三條 入札ハ單價ヲ算當シ總額ノ誤謬ハ之ヲ改ムルヲ得ルモ單價ヲ改ムルヲ得ス
- 第四條 入札ハ總額ニ於テ最高額ノモノヲ以テ落札トス
- 第五條 入札ハ入札人ノ面前ニ於テ開札シ落札人ヲ定ルモノトス
- 第六條 左ノ入札ハ無効トス
 - 一 開札ノ際入札人又ハ代理人居合セサルモノ
 - 二 誤字脱字其他文字ノ明瞭ナラサルモノ
 - 三 記名調印ナキモノ
 - 四 豫定價格ニ達セサルモノ
 - 五 入札保證金第一條ノ割合ヨリ少額ナルモノ
- 但シ再入札ノ場合ハ此限リニアラス
- 第七條 入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ハ封書トナシ之ヲ開札ノ場所ニ置クモノトス
- 第八條 開札ノ上豫定價格ニ達スルモノナキトキハ直ニ其入札人ヲシテ再入札ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 豫定價格ニ達スルモノナキトキ入札人中豫定價格ヲ以テ拂下テ望ム者アルトキハ之ニ拂下ルコトアルヘシ

其望人數名アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第九條 落札トナルヘキ同價ノ入札アルトキハ直ニ其ノ入札人ヲシテ再入札ヲ爲サシメ尙同價アルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムルモノトス

第十條 落札トナルヘキ者入札ヲ取消シタルトキハ順次豫定價格迄繰下ケ落札人ヲ定ムヘシ

第十一條 入札保證金ハ落札人確定ノ後之ヲ還付ス

但落札人ノ入札保證金ハ契約書取換セノ後ニアラサレハ還付セス

第十二條 左ノ場合ニ於テハ入札保證金ヲ還付セス縣ノ所得トス

一開札ノ際入札人又ハ代理人居合セサルトキ

二開札後ニ入札取消チナシタルトキ

三落札人ニ於テ契約書ノ取換セチナサハルトキ

第十三條 落札ヲ告知シタルトキハ即時ニ仮受書ヲ差出シ其當日ヨリ何日以内ニ第二號書式ニ依リ契約書式通チ制シ落札代金十分之一ニ相當スル契約保證金ヲ添ヘ差出スヘシ

但場合ニ依リ契約書式要セサルコトアルヘシ此場合ニ於テハ入札保證金ヲ以テ直ニ契約保證金トナス

第十四條 契約保證金ハ契約履行後ニアラサレハ還付セス

第十五條 左ノ場合ニ於テハ契約ヲ解除シ保證金ハ縣ノ所得トス

一買受人約定ノ期限内ニ代金ヲ納付セサルトキ

二買受人ノ都合ニ依リ契約ヲ取消シタルトキ

三買受人約定ノ期限内ニ物件ノ受取ヲ拒ミ又ハ引取テ了セサルトキ

第十六條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第二號書式ニヨリ領收證ヲ差出ス可シ

第十七條 落札後物件ノ滅失毀損ハ賣渡人ニ於テ其責ニ任セス
第一號書式

入札書

何郡市町村大字何々

字何々第何番

一 地目反別 何程

此代金何程

何郡市何町村大字何々

字何々第何番(地目)地内

一 立木 何本

此代金何程

内

何 何本

此代金何程

何郡市町村大字何々何番地

一 建家 幾棟

此代金何程

内

何 幾棟

此代金何程

但何々家間口奥行

但目通長間

何 幾棟 但同

此代金何程 (品名) 個數或ハ量數

但壹ケニ付金若干或ハ金壹圓ニ付量數若干

右代金ヲ以テ御拂下相成度公賣手續ノ條項ヲ遵守シ保證金相添ヘ入札候也
年 月 日 何那市町村大字番地

宛 氏 名 印

第二號書式

契約證

茨城縣知事ハ縣參事會ノ議決ヲ經テ何某ト左ノ賣買契約ヲ締結ス

一何々 (記載ノ事ハ入札ノ通りニ付略ス)

一代金納付期限、、、、

一物件引渡期限、、、、

一物件引取期限、、、、

一茨城縣公買手續ヲ遵守スルコト

此契約書ハ正本貳通ヲ作リ雙方署名捺印シ各壹通ヲ領收シ置クモノ也

年 月 日 賣渡人 茨城縣知事 氏 名 印
茨城縣名譽職參事會員 氏 名 印

同 氏 名 印

一何那市何町村大字番地

買受人 氏 名 印

第三號書式

領收證

一何々 (記載ノ事項入札書ノ通りニ付略ス)

右引渡ニ相成正ニ領收候也

年 月 日 何那市何町村大字番地

宛 氏 名 印

◎縣有財産公賣手續

縣有財産公賣手續別冊之通相定ム

但本手續ニ抵觸スル從前ノ規定ハ廢止ス

(別冊ハ明治三十年六月三日訓令乙第一七二號縣有財産公賣手續ト同一ニ付略ス

全手續參觀スヘシ)

◎船車等買受讓受届出ニ付通報ノ件

他管ヨリ船車ヲ買受ケ若シハ讓受ケノ結果買受又ハ讓受人ヨリ届出タルトキ其所轄郡市役所ヨリ

元所有者關係ノ郡市役所ヘ通知方ニ關シ他縣ヨリ往々依頼ノ向モ有之ニ付自今右等ノ場合ハ元所

屬郡市役所ヘ該事項通報スヘシ

◎縣歲入出納閉鎖ノ件

明治三十年一月廿八日訓令乙第一八號

(知事官房、内務、警、監、郡、縣立學校、娼妓検査所)

縣歲入歳出ノ出納ハ各所ニ在リテハ翌年度四月三十日限り本廳ニ在リテハ翌年度五月十五日限り之ヲ閉鎖ス可シ

但特ニ其出納ヲ命シタル場合ハ此限ニアラス

◎娼妓並娼妓貸坐敷引手茶屋賦金規則

娼妓並娼妓貸坐敷引手茶屋賦金規則左之通相定本年八月一日ヨリ施行候條此旨布達候事
明治十五年七月二十六日
第六百二十七號

但此規則ニ抵觸スル布達ハ總テ廢止ス

娼妓并娼妓貸坐敷引手茶屋賦金規則

第一條 娼妓并娼妓貸坐敷引手茶屋ノ營業免許ヲ受ケタルモノハ毎月左ノ賦金ヲ其月二十日限り上納スヘシ

但娼妓ハ揚代金ノ區別ニ據リ納ムヘシ

一娼妓 月額

一等揚代金三十錢以上 金二圓

二等同金三十歳未満二十錢以上 金一圓七十五錢

三等同金二十錢未満 金一圓五十錢

一娼妓貸坐敷 月額

一等磯濱 潮來 古河 金六圓

二等筑波 中田 取手 金五圓

三等平潟 金四圓

一引手茶屋 金一圓(明治三十年六月縣令第三十五號追加)

第二條 娼妓揚代金ノ額ハ取締連署ノ上所管郡役所へ届出ヘシ

但揚代金増減スルトキモ本條ニ準ス

第三條 娼妓ノ驅棧院ニ入リ一ヶ月休業日數十五日ニ滿スルモノハ其月賦金ノ半額ヲ免ヌ又一ヶ月中休業日數三十日(二月ハ二十八日)ニ滿スルモノハ全額ヲ免ヌ

但入院退院ノ都度其旨郡役所ニ届出ヘシ

第四條 徵收期限後十日ヲ過キ尙意納スルモノハ其營業ヲ停止スヘシ

第五條 賦金怠納ニ依リ營業ヲ停止セラレタルモノ再ヒ營業セントスルトキハ最前未納ノ金員更ニ上納スヘシ

○賦金領收順序

明治十五年八月七日
第二號

賦金領收順序別冊之通リ相定本年九月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

賦金領收順序(別冊)

第一條 賦金領收ノ順序ハ戶長ニ於テ取纏メタル賦金ヲ爲換方へ相渡シ其預リ切符ヲ以テ郡役所へ納メ郡役所ハ其預リ切符ヲ爲換券ヲ添ヘ縣廳へ送納スヘシ

第二條 戶長ハ其月分二十日限り賦金取纏メ別紙第一號ノ如キ納稅切符ヲ製シ而シテ一印ノ如ク調印シ之ニ現金ヲ添ヘ爲換方へ差出スヘシ

第三條 爲換方ハ金額ヲ預リタルコトヲ證スル爲納稅切符金員ノ下へ二印ノ如ク證印ヲ捺シ仍ホ三印ノ如ク預リ金元帳ノ割印シ之ヲ戶長へ相渡スヘシ

第四條 戶長ニ於テ前條爲換方ノ預リ證印ヲ受ケレハ之ヲ郡役所へ上納スヘシ

第五條 郡役所ハ戶長ヨリ上納及年月日ヲ納額元帳ニ記入シ而シテ領收證ヲ調製シ之ヲ戶長ニ附

親スヘシ

第六條 前條領收ノ金員ハ別紙第二號ノ如キ上納證ヲ製シ之ニ爲換券ト納稅切符ヲ添付シ縣廳ヘ送納スヘシ

但別紙第五號ノ如キ明細表ヲ添付スルヲ要ス

第七條 縣廳ハ爲換券等ヲ請取タル日ヨリ遲クモ五日以内ニ別紙第三號式ノ領收證ヲ郡役所ヘ送附スヘシ

第八條 郡役所ハ一周年度其年七月ヨリ翌年六月マテ皆濟ニ至テハ別紙第四號ノ如キ皆濟帳ヲ製シ縣廳ヘ差出シ之カ決算ヲナスヘシ

第九條 上納助限ニ至リ若シ納メサルモノアルトキハ別紙第六號ノ如キ納メ切符ヲ製シ第(二四)條ノ例ニ準シ郡役所ヘ上納シ且納者ノ住所姓名事由ヲ詳記シテ郡役所ヘ差出スヘシ郡役所ハ之ヲ得テ先ツ其不納金額ヲ別紙第九號式ノ如ク不納額帳ニ登記シ其現納金額及ヒ年月日ヲ納額元帳ニ記入シ而シテ領收證ヲ製シ之レヲ戶長ニ附與スヘシ

第十條 戶長ニ於テ前條不納ノ金額徵收シタルトキハ第(二四)條ノ例ニ準シ郡役所ヘ上納スヘシ郡役所ハ之ヲ不納額帳ニ照查シテ領收證ヲ交付スヘシ

第十一條 第(九十)條ニ據リ領收ノ金員縣廳ヘ送納等ノ手續ハ渾テ前數條ノ例ニ準ス(様式ハ略ス)

◎地租制限超過ノ課稅及特別稅新設等許可申請期限ノ件

明治二十六年四月八日訓令三號 (郡市)

地租制限超過ノ課稅及特別稅新設等ノ許可ヲ請フモノハ前年度若クハ其年度ノ始メニ於テ進達可致旨明治二十三年七月本縣訓令第六號ヲ以テ訓令候處其年度ニ於テ徵收スヘキモノヲ年度末ニ至リ真請スルモノ往々有之不都合不少候條自今町村制第七條ニ依リ調製シタル豫算表ニシテ町村制

第二百二十六條ニヨリ許可ヲ請フモノハ豫算議決後速ニ真請候様注意セララルヘシ

但災害其他豫知スヘカラサル場合ニ於テ臨時收支ヲ要スルトキハ時日ヲ遷サス追加豫算ヲ議決シ真請セシムヘシ

◎附加稅特別稅稟請書類ニ關スル件

明治二十六年六月訓令第一二號 (郡)

町村ニ於テ地租制限外其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅又ハ間接國稅ノ附加稅ヲ賦課シ若クハ特別稅ヲ新設スル町村會議決ノ許可稟請ニ關シテハ賦課ノ適否負擔ノ如何等詳細意見ヲ具シ進達スヘキ旨明治二十三年二月訓令第一三號ヲ以テ訓令及ヒ置候處理由簡單ニ失シ調査上差支ユルノミナラス豫算表其他添付ノ書類調査不充分ニシテ之レカ訂正ニ基テ手數ヲ費シ不都合不少候條將來ニ層注意ヲ加ヘ尙左掲ノ書類ヲ添付進達スヘシ

但從來ノ賦課總額一覽表ハ添付ヲ要セス

右訓令ス

一 町村歳入一覽表 別紙第一號表式ニ準ス

一 町村歳出一覽表 別紙第一號表式ニ準ス

但此歳出一覽表ハ地租制限外其他國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅又ハ特別稅若クハ間接國稅附加稅ノ賦課ニ關シテ豫算ノ議決シタル豫算ノ歳出ヲ掲クヘシ若シ其豫算二種以上ニ涉ルモノハ格別ニ調製スヘシ

一 地租制限外其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅又ハ特別稅若クハ間接國稅附加稅賦課ニ關スル市町村會議決書ニハ賦課ノ年度地租制限外其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ハ超過金額及其課率(課率金額厘以下三位ニ止ム)特別稅間接國稅附加稅ノ課稅物件課率等ヲ明記スヘシ

(表ハ略ス)

◎地方税及町村税滞納處分取扱方

明治二十三年五月二十一日訓令第五四號

(郡)

明治二十二年(十二月)法律第三十二號ニ依リ地方税市町村税滞納處分ニ付取扱方左之通心得ヘシ
但本年二月訓令第九號ハ廢止ス

第一條 國稅滞納處分法第二條其他ニ掲グル收入官吏ノ事務ハ地方税ハ部長町村税ハ町村長ニ於テ取扱フヘシ

第二條 國稅滞納處分法第十二條ノ財産差押命令書ハ地方税ハ郡長ヨリ之ヲ發シ町村税ハ町村長ヨリ之ヲ發スヘシ

第三條 國稅滞納處分法第四十條ノ買受望人ナキ物件ノ買上代金ハ地方税ニ於テ其時々仕譯書ヲ以テ縣廳ヘ請求シ町村税ハ雜支出ヨリ支辨スヘシ

第四條 國稅滞納處分法第十一條ノ囑托ハ町村長ニ在テハ經由ヲ要セス直ニ他ノ市參事會又ハ町村長ニ囑托スヘシ

第五條 町村税ノ督促ニ關スル規定ハ町村制百二條ニ依ルヘシ

第六條 各滞納税金扣除ヲ要スルトキハ順序ハ從來ノ例ニ依リ取扱フヘシ

◎滞納處分ニ要スル費用ノ件
明治二十五年五月十六日訓令第六十六號 (郡市町村)
國稅滞納處分法第十一條ニヨリ(地方税市町村税)ノ滞納處分ヲ囑托シ及囑托セラレタルトキハ其送金ニ要スル爲換料及遞送費等仕拂方自今左ノ通心得ヘシ

一囑托ニヨリ徵收シタル金額送付ニ要スル爲換料及遞送費ハ徵收金額ノ内ヨリ控除シ其領收書ヲ添付送金スヘシ
但徵收金額ニシテ該費用ニ充タサルトキハ其不足金ヲ請求スヘシ

一囑托シタルトキ前項ノ爲換料及遞送費ノ徵收金ノ内ヨリ控除セラレタルトキハ郡市役所町村役場經費ヨリ支出税金ハ充タスヘシ

一本縣内ニシテ甲郡ヨリ乙郡ヘ囑托シタルトキ地方税ニ係ル前項ノ費用ハ囑托ヲ受ケタル郡役所費ヨリ支出スヘシ

但郡ヨリ市ヘ市ヨリ郡ヘ囑托ノ場合ハ第一項第二項ニヨル

◎地方税表調理順序

明治二十年一月十八日縣令丙第四號

地方税表調理順序別冊ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス
但別冊ハ別ニ送付ス

(別冊)

地方税表調理順序

第一條 地方税表ハ其年度間賦課シタル税金及物件ヲ掲載シ之ニ對シテ其年度ノ決算ヲ爲スモノトス但税金不納ニ由リ公賣處分ノ未償損ニ歸シ或ハ勘定除却ノ手續ヲ經シモノト雖トモ仍ホ本表ニ掲載スヘシ

第二條 地方税表ノ員數ハ臺帳ニ據テ記入スヘキモノトス

第三條 地方税金ノ收入シタルモノ又ハ收入スヘキモノノ内事故ニ由リ其年度ニ於テ之ヲ拂戻シ若シクハ免除シタルトキハ都テ税表ニ掲載セサルモノトス

第四條 既往年度ノ過誤納金ヲ拂戻スコトアルモ地方税表ノ金額ハ控除セサルモノトス

第五條 地方税決算後誤謬又ハ脱税ヲ發見シ既往ニ溯リ税金追徵シタルトキハ其年度ニ於テ追加税表ヲ製ス可シ

第六條 地方税表送付ノ後已ムヲ得サル事故ニ由リ訂正又ハ引換ヲ要スルトキハ地方税收入皆濟

報告書進達以前ニ限リ詳細事由ヲ具シ稟申スルヲ得

第七條 地方税表ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル様式ニヨリ調製シ翌年度五月十五日限リ進達スヘシ
第八條 表面ノ金員等四捨五入ノ算則ニヨリ生スル過不足ハ表中金員ノ左傍ヘ内(外)算出不足
(過)若干ト朱書スヘシ

第九條 地方税表料紙ハ普通美濃紙ヲ用フヘシ

第十條 地方税表ノ員數ハ單數(一ニ三等ヲ云フ)ヲ以テ記入シ三字毎ニ、点ヲ付スヘシ但金員ハ
圓錢ノ間ニ朱線ヲ畫スヘシ

第十一條 地方税表ニ掲クル計數區畫ノ劃線及其區畫内ノ文字ハ之ヲ他ノ罫紙及文字ヨリ肉太ク
記載シテ視易カラセムヘシ
(表式ハ略ス)

◎縣稅取扱規程

明治二十四年二月
十九日官第百三十二號

(內務部、警、監)

縣稅取扱規程別冊ノ通相定ム
(別冊)

縣稅取扱規程

第一章 綱領

第一條 一會計年度歲入歳出ノ出納ハ納期アル收入及第二條ヲ除ク、外毎年四月一日ヲ以テ開始
ス

第二條 左ニ掲クル經費ニシテ前年度内ニ支出スルノ必用アルトキハ出納開始前ト雖モ豫算年額
十二分ノ一ヲ交付スルコトヲ得
郡役所費 監獄費 警察費 學校費 檢煤費

第三條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニヨル

第一納期ノ一定ナル收入、其規則ノ定ムル所ニヨル

第二納期ノ一定セサル收入ハ其事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

第四條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニヨル

第一 諸拂戻及欠損補填ハ其決定ヲシタル日ノ屬スル年度但出納閉鎖以前ハ此限ニアラス

第二 俸給手數料旅費手當ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第三 廳中諸給土木建築費其他物件購入代價

但前年度ニ於テ契約ヲナスノ必用アルトキハ其事實ヲ具シ特裁ヲ經ヘシ

第四 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ム
ヘシ

第五條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ縣廳ニ於テ出納スルニ翌年度六月三十日限リトス

第六條 部署課ノ主擔ハ處務細則ニヨル
但別段ノ規定ナキ歳入ハ總テ第四課ニ於テ取扱フヘシ

第二章 豫算

第七條 收支豫算ハ前々年度ノ實額及前年度ノ豫算ニ基キ仍ホ該年度ノ實況ヲ斟酌シテ之ヲ調製
スヘシ

第八條 支出豫算ハ各部署課ニ於テ取調前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ事由ヲ詳悉シ之ニ金額ノ算出
ニ係ル細書ヲ添付シ七月十五日限第一課ヘ回付スヘシ

第九條 第一課ニ於テハ支出議按ハ八月三十一日收入議按ハ九月十五日限調製了シ部署台議ノ
上知事ノ裁可ヲ受クヘシ

第十條 凡ソ裁決濟ノ議按ハ速ニ印刷ノ上進クモ十月十日迄ニ常置委員ニ下付スヘキ
第十一條 臨時會若クハ急施會ニ付スヘキ議案ハ總テ前數條ノ手續ニ準シ取調ヘ急施會ハ直ニ臨時會ハ開會十日前常置委員ニ下付スヘシ

第十二條 縣會決議開申ハ第一課ニ於テ之ヲ受テ速ニ指令案ヲ起草シ主務課合議ノ上知事ノ裁可ヲ得テ指令シ其旨ヘ稟申ヲ要スルモノハ認可ヲ待テ更ニ指令ノ手續ヲ了スヘシ

第十三條 前條指令濟ノ上ハ主務省報告管内令達及各部署課ノ達諸案ハ第一課ニ於テ起草シ知事ノ決判ヲ得テ施行スヘシ
但警察費郡役所費學校費監獄費檢煤費ノ豫竹配當額ヲ定ムルハ各部署各課ノ擔任トス

第二章 精算

第十四條 土木營繕ニ係ル費用ハ每一工事竣功ノ時々其他概算ヲ以テ交付シタモノハ支出結了後十日以内第四課ニ精算報告スヘシ

第十五條 各部署課ニ於テ警察署郡役所監獄署學校檢煤所等ヨリ支出計算書及證憑書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ豫算簿ニ登記シ其計算書類ヲ翌日限第四課ニ送付スヘシ

第十六條 第四課ニ於テハ(十日廿日未ト休日ニ當ルトキハ繰下ク)地方稅收支豫算殘高表及備考儲蓄財產在高表並ニ市町村立小學校教員恩給ニ關スル收支豫算殘高表ヲ調製シ之ヲ第一課ニ回付スヘシ(二十八八月訓令乙第二六〇號ヲ以本條改正)

第十七條 各部署課ニ於テハ豫算ニ比シ増減ノ事由ヲ詳記シタル各年度地方稅收支計算書ヲ調製シ之ヲ翌年度八月十日限り第四課ニ回付スヘシ(全上)

第十八條 第四課ニ於テハ各年度地方稅及備考儲蓄金並ニ市町村立小學校教員恩給ニ關スル收支精算書及說明書ヲ調製シ之ヲ翌年度九月十五日迄ニ各部署課ヘ合議シ知事ノ判決ヲ經テ之ヲ第一課ニ回付スヘシ(全上)

一課ニ回付スヘシ(全上)

但シ第一課ニ於テハ第十條ノ手續ニ準シ十月十日迄ニ之ヲ常置委員會ニ交付スルモノトス

第十九條 各部署課ニ於テハ便宜帳簿ヲ置キ其收支ヲ登記シ之レカ整理ヲ爲スヘシ(全上)

第二十條 (全上刪除)

第二十一條 (全上)

第二十二條 縣廳外各所ノ經費ハ其爲替方ノ設ケアルモノハ年額ヲ四分シ爲換方ノ設ケナキモノハ十二分シテ交付スヘシ

第二十三條 收支回議ハ各主務ノ部署課ニ於テ起草シ之ニ原案ヲ添付シ第四課ヘ合議ノ上知事ノ裁可ヲ得テ第四課ヘ回付シ同課ニ於テ出納スヘシ(二十八八月訓令乙第二六〇號中道字)
但別ニ規則アルモノハ此限コアラズ

第二十四條 地方稅ニ係ル事業ノ執行及經濟ニ關スル回議書ハ總テ第一課ヘ合議スヘシ

第二十五條 豫算ノ増減又ハ流用等ニ係ルモノハ主務部署課ニ於テ該事由ヲ詳記シ第一課及第四課合議ノ上知事ノ裁可ヲ得相當ノ手續ヲ了シタル后其結果ヲ第四課ヘ通知スヘシ(二十八八月訓令乙第二六〇號道字)

第二十六條 第四課ニ於テ前條ノ通知アレハ更ニ知事ノ決判ヲ得テ其増減流用ノ金額事由ヲ簿冊ニ詳記スヘシ

第二十七條 第四課ニ於テハ收支日計表ヲ調製シ第一課ヲ經由シテ知事ノ閱覽ニ供スヘシ

雜則

第二十八條 備荒儲蓄金ノ出納モ本則ニヨル

第二十九條 (明治二十八年八月訓令乙第二六〇號刪除)

第三十條 本廳爲換方及各所ノ爲換方並ニ現金管守方ハ第四課ニ於テ管理スヘシ(全上改正)

第三十一條 縣有公債證書及爲換方並現金管守方抵當公債證書ノ保管ハ第四課ニ於テ保管スヘシ

(今上追字)

第三十二條 金庫ノ開閉ハ内務部長第四課及第四課検査係地方係各一名立會スヘシ

但事故アルトキハ代理者ヲ以テスルキ得

第三十三條 縣稅及備荒儲蓄金出納ノ實況検査ハ第一課員及第四課員ヲ以テ之ニ充ツ

第三十四條 本則ニ掲グル帳簿様式ハ従前ノ式ニ由ル

第三十五條 左ノ各項ハ常置委員ニ諮問ノ上施行スヘシ

一 豫備費ノ支出

一 小科目ノ流用

一 事業ノ伸縮變更ニ係ル方法順序

一 不用財產處分ノ方法順序

一 町村土木補助費ノ支出

但縣會議定ノ旨趣ヲ變更セサルモノハ此限リニアラス(明治二十九年四月訓令第(二〇六號ヲ以テ但書追加)

一 備荒儲蓄經濟ニ屬スル公債證書等ノ賣買及交換

右ノ外其事柄ニヨリ特ニ諮問若クハ報告スルコトアルヘシ

第三十六條 常置委員ハ諮問及報告案ハ主務部署課ニ於テ起草シ第一課合議ノ上知事ノ裁決ヲ經テ其案ヲ第一課ニ送付スヘシ

第三十七條 第一課ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ速ニ謄寫シ諮問ノ手續ヲナスヘシ

但緊急ノ事件ニシテ謄寫ノ違ナキモノハ原案ヲ以テ提出スルコトヲ得

第三十八條 常置委員ノ諮問答議ハ第一課ニ於テ取纏メ知事ノ閱覽ニ供シ其謄本ヲ主務部署課ニ

回付シ主務部署課ハ更ニ第四課ヘ報告スヘシ

第三十九條 郡役所ヨリ豫算細科目流用ノ報告アルトキハ第一課之ヲ受ケ記帳濟ノ上其書類ヲ第

四課ヘ回付スヘシ

第四十條 第四課ニ於テ前二條ノ回付ヲ受ケタルトキハ其記帳ヲ要スルモノハ經伺ノ上記帳ノ手

續テナスヘシ

◎市町村立尋常小學校高等小學校經費豫算額報告書式

(郡、市)

市町村立尋常小學校高等小學校經費豫算額ハ左ノ書式ニ據リ毎年四月十日迄ニ報告スヘシ

何郡尋常(高等)小學校何年度經費豫算

學校	總額	俸給	雜給	諸給與旅費	試驗費	備品費	消耗品	修繕費	教員集會費	雜費

右及報告候也

明治何年何月何日

茨城縣知事殿

郡市長、氏

名印

◎土木工費正當證書ノ件

明治二十五年六月二

(郡長宛)

土木工費ノ義ハ二十五年分ヨリ送金一際ノ支拂ヲ了シタル後五日以内ニ其工事ノ異ナル毎ニ仕

譯書ヲ製シ正當證書ヲ差出スヘシ

◎直轄工事土木工費正當證書ノ件

本廳直轄工事ニ係ル土木工費ノ義ハ二十五年分ヨリ仕拂一ヶ月分取纏ノ翌月五日マテニ送金一限
限リ其工事ノ異ナル毎ニ仕譯書ヲ製シ正當證書ヲ差出スヘシ
明治二十五年七月九日訓令第九九號 (市長宛)

◎經費金收支證書類差出方

經費金收支ニ屬スル證書類二十三年度以降左ノ各項ニ依リ調理。現計書ニ添付シテ差出スヘシ
但四五兩月分ニシテ已ニ現計書進達済ノ分ハ此際取纏メ差出スヘシ
一證書類ハ該年度豫算ノ每細科目ニ區分類表シ編紙ニ金圓ノ合計所屬ノ小科目及證書ノ枚數ヲ揭
記スヘシ

- 一證書ハ每細科目各別ニ調製セシムヘシ若シ甲乙科目混併記載シタルモノニシテ訂正ニ難キモノ
アルトキハ乙科目ノ分ハ金員ノ肩ニ其朱ヲ旨記シ該證書ハ之ヲ甲科目ニ編入シ乙科目ニ於テハ
其所屬金員及ヒ證書ノ番號ヲ朱記セル寫書ヲ編入スヘシ
- 一證書ハ正當受取人ノ領收證書ニ限ル

- 但事實證書ヲ得難キ場合ニ於テハ其事由ヲ評記セル仕拂人ノ仕拂證明書ヲ以テ代理スヘシ
- 一假渡精算ニ屬スル證書ハ其假拂金ノ領收證書添付スヘシ但一ツノ假渡金ニシテ何ケ度ニモ精算
スルモノ、如キハ當初ノ假渡額等本項金額ノ内外ニ付記シ一目瞭然タラシムヘシ
- 一假渡金ニ對シ不足金若クハ過剩金ヲ生スルトキハ其領收及返納證書ヲ添付スヘシ其證書ニハ全
部精算ノ明細及拂金ノ對比計算等ヲ詳悉セシムヘシ
- 一本拂ニ係ル證書ハ物件事由數量一個當リ金額等都テ本項金額ノ算出ニ係ル事項ヲ詳細掲記セシ
ムヘシ但明細ハ別書ヲ以テ領收證書ニ添付スルモ妨ケナシ
- 一證書類ハ都テ半紙ヲ以テ調セシムヘシ但半切其他編綴ニ不便ナル證書ニシテ訂正セシメ難キト

キハ半紙ニ糊付シテ編入スルモ妨ケナシ

- 一證書編纂スルトキハ其書面上端ニ於テ各順序ヲ逐ヒ該年度ヲ過シタル番號ヲ朱記スヘシ但添付
ノ書類ニハ一又ハ二ト記載スヘシ

◎署、校、所、經費仕拂領收證書ニ委任狀添付ノ件

其(署、校、所)經費ノ仕拂ニ對スル領收證書ノ内、代理者ノ領收證書ニ自今委任狀ヲ添付セシメ證
書ト共ニ進達スヘシ
但委任狀ヲ添付スルヲ得サル事故アルモノハ、副書ヲ出サシメ割印ヲ爲シ之ヲ添付スヘシ又委任
狀ノ數口ニ涉ルモノハ主任ニ於テ領收證書ノ餘白ヘ委任狀何證書ニ添付シアルコトヲ朱記證明
スヘシ

◎市町村費精算表書式

市町村費精算表ハ當分ノ内明治廿二年內務省令第二號書式ニ準據シ調製スヘシ
但該表式前年度豫算額ノ欄ヲ本年度豫算額トシ又本年度豫算額ノ欄ヲ本年度精算額トシ共ニ其
金額ヲ掲記シ且ツ附記ノ欄ヘ増減ノ事由ヲ記入スヘシ
茨城縣令號外 明治二十四年一月八日 (水戸市)

◎町村費取調期限及雛形

町村費取調之義ハ明治十九年縣令乙第二號ヲ以テ相達箇候處自令別紙雛形照準調製シ豫算額ハ
其年精算額ハ翌年度八月十五日限リ進達スヘシ
但明治二十三年度豫算額全二十二年度精算額ハ來ル明治二十四年四月一日限リ差出スヘシ

四 筆紙墨文具

五 薪炭油類

六 郵便稅 (調査委員會長又ハ委員ノ名ヲ以テ發スル者ニ限ル)

七 借家料 (郡役所外ニ於テ開會ノ時ニ限ル)

第二條 第一條第一第三ノ經費及本條第五項ノ費用ハ會長ニ於テ正當受取人ノ請求書并仕譯書

(第一號式)ヲ取纏メ閉會后三日以内ニ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ

第一條第二ノ旅費ハ各自ノ旅行日誌ニ據リ縣廳ニ於テ金額ヲ算定交付スルニ由リ會長ニ於テ該

日誌(第二號式)ヲ取纏メ前項期日內ニ縣廳ニ差出スヘシ

第一條第四乃至第六ノ物品ハ開會中ノ所要高ヲ見積リ開會前委員會書記ニ於テ該請求書(第三

號式)ヲ製シ之ニ地方營業者ノ價格見積リ書郵便切手ハ除ク)ヲ屬シ物品出納命令官ニ請求スヘ

シ

前項請求品中運搬ニ不便ナルモノハ便宜委員會書記ニ囑托シテ購入セシムルコトアルヘシ

委員會書記ニ於テ前項ノ囑托ヲ受ケ物品ヲ購入シ又ハ現品ノ送付ヲ受ケタルトキハ領收證書

(第四號式)ヲ製シ内國稅徵收費所屬物品會計官吏ニ差出スヘシ伊囑托ヲ受ケ購入シタル物品ハ

該營業者ヨリ每品格別ニ調製シタル物品ノ上納書第五號式ヲ徵シ添付スルモノトス

第三條 第二條第一項第二項ノ金員ハ水戸本金庫ヨリ正當受取人ニ向ケ直チニ回送スルモノトス

第四條 第二條第五項ノ物品ハ委員會書記ニ於テ受拂報告書(第六號式)ヲ製シ會長ノ檢閲ヲ經テ

閉會後五日以内ニ之ヲ内國稅徵收費所屬物品會計官吏ニ報告スヘシ

(書式ハ略ス)

◎縣吏員月額旅費支給規則

明治三十一年五月十四日訓令乙第一五六號

(內務)

縣吏員月額旅費支給規則左ノ通相定ム

但明治三十年十二月訓令乙第三八五號ハ廢止ス

縣吏員月額旅費支給細則

第一條 工事監督及測量ニ從事スル者ノ旅費ハ左ノ區分ニ依リ月額ヲ以テ之ヲ支給ス

甲 月額金貳拾壹圓

但特ニ指定シタルモノニ支給ス

乙 月額金拾八圓

但土木工區受持ノモノ他ニ土木工區ヲ兼務スル場合ニ之ヲ支給ス

丙 月額金拾五圓

第二條 月額旅費ハ出發ノ日ヨリ歸廳ノ日迄執務日數ニ應シテ之ヲ支給ス其一ヶ月ニ滿タサル場

合ハ一ヶ月ヲ三十日トシ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第三條 出發歸廳及甲乙受持區ヲ轉スルトキハ月額旅費ノ外旅車賃及車馬賃ヲ支給ス

◎有價證券及現金取扱規程

明治三十年七月二十二日訓令乙第三二一號

(內務)

有價證券及現金取扱規程

有價證券及現金取扱規程

第一條 縣廳ニ於テ管理スル公債證書金券又ハ現金ヲ取扱フ場合ニ於テハ別段ノ規定アルモノヲ

除クノ外總テ本規程ニ依ルヘシ

第二條 公債證書金券又ハ現金ハ鐵庫若クハ堅牢ナル函内ニ收藏スヘシ

前項鎖鑰 鍵ハ內務部長之ヲ保管スヘシ

第三條 公債證書金券ノ出納又ハ現金ヲ取扱フ場合ニ於テハ內務部長之ヲ立合フヘシ

第四條 公債證書金券ノ出納又ハ現金ヲ取扱フトキハ各其帳簿ニ證書ノ種類員額其他出納ノ大要ヲ登記シタル後之ヲ執行スヘシ

第五條 公債證書金券及現金ノ領收證書ハ臨時高等官ヲシテ検査セシム

第六條 各帳簿ハ別紙第一號第二號様式ニ依ルヘシ

◎土木出張旅費支給方

明治二十九年五月十一日訓令乙第二一九號

(内務)

土木出張旅費支給方

一 旅費月額ハ出發ノ日ヨリ歸廳ノ日マテ執務日數ニ應シテ支給シ其一ヶ月ニ滿タサル端日數ハ月額三十分一ノ割合ヲ以テ日割支給ス

二 出發歸廳ノ際及甲乙持區ヲ轉スルトキ又ハ持區外ニ旅行セシムルトキハ月額ノ外瀛車賃一哩

金貳錢車馬賃一里金七錢ノ割合ヲ以テ支給ス

三 他區兼務ノ場合ニ於テハ兼務ニ從事中二割ヲ増給ス

四 持區ヲ定メス出張セシムルトキハ日常金四拾錢及第二項割合ノ瀛車賃車馬賃ヲ支給ス

但出張中陸路六里未滿ノ旅行又ハ用務打合ノ爲メ縣廳ニ往復スルモノハ瀛車賃車馬賃ヲ支給セス

五 河川測量ノ爲メ出張スル旅費ノ内瀛車賃車馬賃ハ第二項ニ準ス

但測量ノ爲メ陸路六里以上ノ旅行ヲ爲スト雖モ瀛車賃車馬賃ハ別ニ支給セス

◎郡役所學校及監獄支署帳簿様式

明治三十年三月七(郡、師、中、監、支)日訓令乙第六十四號

郡役所尋常師範校尋常中學校及監獄支署ノ諸帳簿明治三十年度ヨリ別紙様式ノ通改正ス

郡役所學校及監獄支署帳簿様式

一 郡役所學校及監獄支署ノ帳簿左ニ掲グルモノトス

現金受拂簿

第一號様式ニ依ル

原簿

第二號様式ニ依ル

内譯簿

第三號様式ニ依ル

仮拂金整理簿

第四號様式ニ依ル

雜部整理簿

第五號様式ニ依ル

此他郡役所ニ於テハ備荒儲蓄地租貸與明細簿(第二號様式)ヲ置クヘシ但各所トモ必要ニ應シ補助簿ヲ設クルハ適宜トス

一 帳簿ハ會計年度ニ區分ス但現金支拂簿雜部整理簿及備荒儲蓄地租貸與明細帳ハ此限リニアラス
一 帳簿ハ必ス其首ニ於テ目次ヲ掲ケ科目及見出丁數ヲ記載シ又記帳ノ次葉ニ移ルトキハ各欄ノ計數ヲ各別ニ合算シ之ヲ追次締高トシテ末日ニ記入シ次葉ニ於テ前葉締高トシテ之ヲ初野ニ記載スヘシ

一 帳簿ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ其正確ナルモノヲ墨書シ誤記ニ係ル金額及事項ハ之ヲ朱書シ次葉ニ繰越ノトキ又ハ次葉繰越サスシテ決算ヲ爲スモノハ其決算ノ時ニ於テ該金額ヲ扣除スヘシ

但日計月計累計ヲ付スルモノハ日計月計累計ヲ爲ス時ニ扣除ス

一 帳簿ニ誤記セシ際直チニ發見シタルトキハ其誤セシ事項又ハ金額ノ正中ニ朱ノ二線ヲ横書シ其上部ニ正確ナルモノヲ墨書スヘシ決シテ刪除改描スルヲ得ス

(様式ハ零ス)

◎縣稅經濟ニ屬スル不動産調様式

明治三十年四月二十六(簡易農學校)日訓令乙第一一九號

縣稅經濟ニ屬スル不動産調製様式別紙之通り相定候條明治二十九年以降本表ニ據リ調製シ毎年四月十五日限報告スヘシ

但土地建物(平家ニ階家等ヲ明記ス)ハ二十九年以限三十年三月三十一日現在明細圖ヲ製シ本表ニ添附シ爾後異動ヲ生シタルトキハ其時々異動ニ係ル圖面ヲ提出スヘシニ拾九年度分ハ來四月三十日限リ報告スヘシ

◎各學校會計規程

明治二十二年五月二日縣令號外

(師範、中學)

各學校會計規程別冊ノ通り更正ス

各學校會計規程

第一條 會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納シ決算ニ結了ス

第二條 會計ハ其年四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ一周年度トス

第三條 收入ノ科目ヲ分テ大科目小科目トシ支出ノ科目ヲ分テ大科目小科目細科目トス

第四條 各學校ニ於テハ收入金ヲ以テ直チニ經費ニ移用シ若クハ甲年度ノ收支ニ係ル金額ヲ以テ乙年度ノ收支ニ混用スルヲ得ス

第五條 (明治廿三年八月廿六日縣令號外ヲ以テ第五條削除)

第六條 (同上第六條削除)

第七條 各學校校長ハ非常事變ノ場合ヲ除クノ外豫算外ノ費用ヲ請求スルヲ得ス

第八條 經費豫算額ノ内細科目ノ流用ヲ要スルトキハ校長ヨリ豫メ其事由ヲ具シ知事ノ指揮ヲ請フヘシ

但師範學校ハ此限ニ非ス

第九條 各學校ニ於テ會計年度内ニ地方稅ヲ收支シ結了セザルトキハ整理ノ爲メ六月三十日迄該

年度ニ屬アル出納ヲ爲スコトヲ得

第十條 收入金ハ每一ヶ月分ヲ取纏メ上納書ヲ添ヘ翌月五日限リ縣廳ヘ送納スヘシ

第十一條 各學校ノ經費ハ其豫算額ニ基キ年額ヲ四分シ毎三ヶ月ニ交付スヘシ

第十二條 各學校需用ノ物品ニ廉(一種類ノモノ)拾圓以上ハ經伺ノ上購求スヘシ

第十三條 金錢ノ收支ヲ總テ其證書ニ依リ校長名ノ切符ヲ以テ執行スヘシ

第十四條 各學校金錢出納ノ記簿ハ左ノ目ニ據リ之ヲ作り一切ノ出納ハ總テ之ヲ登記スヘシ

現金受拂簿

日記簿

原簿

內譯簿

第十五條 前條ノ帳簿ヲ變更又ハ廢置セントスルトキハ許可ヲ受クヘシ

第十六條 各學校會計主任ハ例規ニヨリ第十四條帳簿ノ記帳ヲ了シタルトキハ日記表ヲ作り翌日午前十時迄ニ校長ノ閱覽ニ供スヘシ

第十七條 校長ハ每一ヶ月其出納スル所ノ金圓科目ヲ摘記シタル收支現計書ニ月末ノ日記表ヲ添ヘ翌月五日限リ縣廳ニ進達スヘシ

但現計書式ハ別段ノ達ニ據ル

第十八條 各學校校長ハ收入經費決算帳附錄第參號書式ヲ調製シ翌年度七月十日限リ縣廳ニ進達

證明スヘシ

第十九條 各學校經費ノ決算檢査ヲ了セハ縣廳ヨリ決算證書ヲ付與スルモノトス

第二十條 各學校ニ於テ諸費ノ決算上殘餘アルトキハ之ヲ縣廳ニ還納スヘシ

第二十一條 各學校ニ供用スル諸物品ハ左ノ目ニ依リ帳簿ヲ製シ總テ之ニ登記スヘシ

物品渡帳

物品諸拂帳

物品臺帳

物品貸渡帳

第二十二條 各學校ニ於テ管理スル所ノ金錢ニシテ棄捐ヲ要スルモノアルトキハ其事由ヲ具シ知事ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十三條 經費ノ支出ニ係ル證書ハ細科目毎ニ區分類編シ證書類調理順序ニ依リ之ヲ整理スヘシ

第二十四條 各學校出納ノ實況ハ臨時又ハ歲次ニ議事課員ヲ派出シ検査セシムルモノトス

第二十五條 前條ノ派出員ハ印鑑附録第四號式ヲ携帯スヘシ若シ之ヲ携帯セサルトキハ校長ハ現金ノ検査ヲ拒ムヲ得

(書式ハ略ス)

◎郡役所會計規程

明治二十七年一月卅一日訓令乙第三八號

郡役所會計規程左ノ通改定ス

會計規程

第一條 地方税其他歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定メタル歳入ハ其規則ノ定ムル所ニ據ル

第二 納期ノ定セサル歳入ハ其事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

第二條 地方費其他歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 俸給諸給旅費手當賜金手数料救助費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

第二 物件ノ購入代價及建築費ノ類ハ其契約ヲナシタル日ノ屬スル年度

第三 前各項ニ掲ケル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂切符ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三條 各年度ニ屬スル歳入支出ノ結了セサレモノヲ整理スルカ爲メ翌年度六月三十日迄出納ヲナスコトヲ得

第四條 歳出豫算ニ定メタル目的外ニ其定額ヲ使用シ若クハ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第五條 地方税及其他ノ歳入ハ各其規程ニ從ヒ徵收シ之ヲ縣廳ニ送納スヘシ

第六條 歳出豫算中郡吏員給料旅費及廳中諸費ハ年額ヲ四分シ毎三ヶ月之ヲ交付シ其他ノ經費ハ其時々交付スヘシ

第七條 歳出豫算中流用ヲ要スルモノアルトキハ明細仕譯書ニ理由ヲ附シ其時々許可ヲ受クヘシ但其許可ヲ受クルハ該年度一月十五日限トス(二十年十一月訓令(第四〇二號改正))

第八條 刪除、以下順次繰上ク(全上)

第九條 歳出ノ決算ハ豫算ノ科目ニ隨ヒ之ヲ調製シ年度經過后四ヶ月以内ニ之ヲ縣廳ニ提出シ豫算不用額トナリタル金額ハ第三條ノ期日迄ニ還納スヘシ

第十條 整理期限後ニ於テ過誤納又ハ仕拂未済ヲ發見セシトキハ其旨具申スヘシ

第十一條 金錢ノ保管及出納ハ郡長其責ニ任ス

第十二條 郡長ハ仕拂ノ決議ヲナサントスルトキハ其仕拂ハ正當ニシテ豫算額ニ超過スルコトナキヤ又支出科目及其所屬年度ノ相違ノ債主ノ當否等ヲ調査スヘシ

第十三條 金錢ノ收支出納ハ郡長名ノ切符ヲ以テ之ヲ執行スヘシ

- 第十四條 郡長ハ規定ノ納付證書及仕拂切符ヲ發セントスルニ當リ原符ニ捺印シタル後記名ノ下ニ調印スルモノトス
- 第十五條 繰替拂チナスハ規定アルモノ若クハ豫メ許可ヲ得タルモノニアラサレハ爲スコトヲ得ス
- 第十六條 繰替拂チ爲シタルトキハ其都度戻入ノ手續ヲナスヘシ但規定アルモノハ其定ムル所ニ據ル
- 第十七條 金錢ノ收支出納ハ左ニ掲クル帳簿切符及計算表設備シ日々之ヲ整理スヘシ
 - 一 現金受拂簿
 - 二 原簿
 - 三 金錢(預ケ受取)帳(爲替方命令書ニ掲クルモノヲ云フ)
 - 四 郡役費整理簿
 - 五 郡廳舎建築修繕費整理簿
 - 六 衆議院議員選舉費整理簿(二十七年五月乙第二四四號追加)
 - 七 地方稅取扱費整理簿
 - 八 諸達書及揭示諸費整理簿
 - 九 地方稅收入整理簿
 - 十 備荒儲蓄金整理簿
 - 十一 備荒儲蓄地租貸與金明細簿
 - 十二 雜部金整理簿
 - 十三 納付切符(爲替方命令書ニ掲クルモノヲ云フ)

十四 仕拂切符(全上)

- 十五 原簿計算表
 - 第十八條 前條ノ外補助簿ヲ設クルノ必要アルトキハ承認ヲ得ヘシ
 - 第十九條 原簿計算表ハ翌日午前限リ調製シ郡長之ニ調印スヘシ
 - 第二十條 爲替方預ケ受取帳ヘ記載ノ金額ハ日々出納シタル證憑書類ノ金額ハ合計ト對照シ郡長之ニ檢印スヘシ
 - 第二十一條 歳出ノ仕拂證明ハ毎月計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十日限之ヲ縣廳ニ提出スヘシ
 - 第二十二條 雜部金ノ出納ハ毎月現計書ヲ調製シ之ニ末日ノ原簿計算表ヲ添付シ翌月十五日限リ縣廳ニ報告スヘシ
 - 第二十三條 郡長ハ決算證明濟ノ後ト雖モ不都合ノ出納ヲ發見シタルトキハ其責ヲ免カサルコトヲ得ス
 - 第二十四條 郡長ハ毎日爲替方預ケ金ヲ預ケ金抵當額ニ照合シ預金超過シタルトキハ爲替方命令ニヨリ直ニ増抵當ヲ徵シ其員額種類ヲ縣廳ニ報告スヘシ但下戻シタルトキモ報告スヘキモノトス
 - 第二十五條 郡長交替ノ節ハ特ニ命シタル検査員ノ立會ヲ以テ會計事務ノ引繼チナスヘシ
 - 第二十六條 前條ノ引繼チナストキハ帳簿ニ受渡年月日ヲ記シ前任者後任及立會検査員之ニ記名調印スルモノトス
 - 第二十七條 郡長死亡シタルトキハ特ニ立會人ヲ命シ前條ノ引繼チナサシム但立會人ハ前變帳簿ニ前任者某郡長死亡ニ付立會人某ト記シ之ニ調印スルモノトス

第二十八條 本規程ニ關スル出納ノ順序ハ郡役所ニ於テ制定シ知事ノ承認ヲ得ヘシ

第二十九條 本規程ニ抵觸スル從前ノ規程ハ本規定施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十條 本規程第十七條ノ施行期限ハ明治二十六年當縣訓令乙第二六號ノ定ムル所ニ據ル

◎現計書式ヲ定ム
明治二十七年二月十日訓令乙第七四號
本年一月本縣訓令乙第三八號會計規程第二十二條ニ依リ報告スヘキ現計書々式別紙ノ通相定ム
(簿記ニ付省略ス)

◎郡役所金錢出納簿記様式
明治二十六年十一月二日訓令乙第二三六號
郡役所金錢出納簿記別紙様式ノ通り改正シ明治二十七年ヨリ施行ス

(様式ハ略ス)
◎流融借受人別簿摸本ヲ定ム
明治廿一年五月二十二日縣令丙第四十一號
流融借受人別簿別紙摸本之通り相定メ廿一年度ヨリ施行ス (郡)

但地租賃與金學貸下等種類ノ異ナル毎ニ口別ヲ設ケ記帳スヘシ

(摸本ハ略ス)
◎郡役所經費支出證明規程
明治二十七年二月十日訓令乙第七五號
郡役所經費支出證明規程左ノ通相定メ本規程ニ抵觸スル從前ノ規定ハ廢止ス

支出證明規程
第一條 會計規程第二十一條ニ據リ提出スヘキ支出計算書ハ別紙書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 毎年度所屬最終ノ支出計算書提出ノ期ニ際シ若シ概算渡現金前渡ノ未精算領收證書ノ未到達科目違其他過渡誤拂等ノ處分未済ニ屬スルモノアルトキハ別ニ各其理由及完結期ヲ記載セル書面ヲ添付スヘシ

前項各事項ハ其完結ニ隨ヒ特ニ其報告書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ提出スヘシ

第三條 科目更正若クハ誤拂過渡其他ノ返納ニ依リ戻入ルヘキ金額アルトキハ其事由ヲ計算書備考ニ記載スヘシ

第四條 支出證明上證憑書トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書其他確實ヲ證スル書類トス

第五條 證憑書類ハ原本ニ限ル若シ其原本ヲ提出シ難キ場合ニ於テハ郡長ノ保證アル謄本ヲ以テスヘシ

第六條 俸給其他給與ニ屬スル支出ニシテ任免黜陟其他欠勤等ノ事故ニ依リ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由年月日ヲ領收證書ニ付記スヘシ

仕拂期限ノ定リタルモノニシテ其期限ニ先チ若シクハ後レテ支出ヲ爲シタルモノアルトキハ其事由ヲ領收證書ニ付記スヘシ

第七條 諸手當死亡賜金等ノ類ハ領收證書ニ各其事由ヲ詳記スヘシ

第八條 旅費ノ領收證書及精算證書ニハ其用務及ヒ旅行ノ日數年月日往復里程宿泊場所ヲ詳記スヘシ

迂路ヲ經テ旅行セシモノ又ハ病氣滯在其他ノ事故ニ依リ公務外日數ヲ要シタルトキ若シハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲タルトキハ認許添付スヘシ

第九條 物件賠償ニ關スル證憑書ニハ每品ノ種類箇數斤量及單價ヲ掲ケ數個ニ付價格ヲ定メタルモノハ其個數ニ對スル價格ヲ示シ又割引ニ係ルモノハ其旨ヲ記スヘシ

物件購買ニ關スル領收證書ニハ備品臺帳又消耗品受拂簿ニ登記セサルモノアルトキハ其事由ヲ付記スヘシ

第十條 前各條ニ據リ難キ事項ハ適宜ノ方法ヲ以テ支出必要ノ事由又ハ其計算ノ基ク所ヲ示シ事ノ複雜ニ係ルモノハ明細書ヲ添付スヘシ

第十一條 不得已事故ニ依リ正當證明書ヲ得難キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル郡長又ハ仕拂證明書ヲ以テ證明スルコトヲ得

第十二條 概算渡ニ對スル領收證書ハ精算ニ至リ該精算證書ト同時ニ之ヲ提出スヘシ

第十三條 證憑書類ノ編纂ハ各目ヲ區分シ其金員枚數ヲ表記シ若クハ概算渡又ハ領收證書未到達ニ係ルモノアルトキハ其金員ヲ付記スヘシ

第十四條 概算渡ニ屬スル領收證書精算證書又ハ未到達ニ係ル領收證書ノ到達セシ分ハ各之ヲ別冊ニ編纂目ヲ以テ之ヲ區分スヘシ領收證書ニハ仕拂ノ番號ヲ附記スヘシ

第十五條 繰替金ニ對シテハ一應限リ金額事由及年月日ヲ記載シタル仕譯書ヲ添付スヘシ

◎市役所町村役場收支規程

明治二十五年八月五日縣令乙第九號

(郡、市、町、村)

市役所町村役場金錢收支規程左之通相定ム
但明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

金錢收支規程

第一章 國稅

第一條 市町村長ハ徵收臺帳(第一號乃至第三號樣式)ヲ製シ之ニ據テ徵稅傳令書(第十號樣式)ヲ調製シ臺帳ニ割印ノ上各納稅人ニ發付スヘシ

第二條 市町村長ハ各納稅人ニ傳令書ヲ發付ストキハ同時ニ收入命令書ヲ調製シ之ヲ收入役ニ送付スヘシ

第三條 市町村收入役ニ納稅人ヨリ税金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證ノ割印ヲ捺シ之ヲ納稅人

ニ交付スヘシ

第四條 納期限ヲ過キ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收入役ニ於テ滯納者報告ヲ製シ市町村長ニ報告スヘシ

第五條 市町村長ハ國稅徵收法第十三條ノ報告ヲナストキハ同時ニ徵收臺帳ニ式ノ如ク登記シ置クヘシ

第六條 市町村收入役ハ收入日計簿第九號樣式ヲ調製シテ毎日各別ニ記入シ置クヘシ

第二章 地方稅

第七條 市町村長ハ徵收臺帳(第五號乃至第七號樣式)ヲ製シ之ニ據テ市長ハ徵稅令書町村長ハ徵令書(第十號樣式)ヲ調製シ臺帳ノ割印ノ上各納稅人ニ發付スヘシ

第八條 市長ハ徵稅令書町村長ハ徵令書ヲ各納稅人ニ發付スルトキハ同時ニ收入命令書ヲ調製シ之ヲ收入役ニ送付スヘシ

第九條 市町村收入役ニ於テ各納稅人ヨリ税金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證ノ割印ヲ捺シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第十條 納期限ヲ過キ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收入役ニ於テ滯納者報告書ヲ製シ市町村長ニ報告スヘシ

第十一條 町村長ハ地方稅徵收細則第十七條ノ報告ヲナシ及同則第二十條ノ通知ヲ受ケタルトキハ徵收臺帳ニ式ノ如ク記載シ置クヘシ

第十二條 市町村收入役ハ收入日計簿第九號樣式ヲ調製シテ毎日各別ニ記入シ置クヘシ

第十三條 市町村稅ヲ徵收スルトキハ市町村長ハ徵收臺帳(第十一號樣式)ヲ製シ之ニ據テ賦課令

狀(第十二號様式)ヲ調製シ臺帳ト割印ノ上各納税人ニ發付スヘシ
第十四條 市町村長ハ各納税人ニ賦課令狀ヲ發付スルトキハ同時ニ收入命令書ヲ調製シ之ヲ收入
役ニ送付スヘシ

第十五條 市町村收入役ニ於テ收入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證ノ割印ヲナシ之ヲ納人ニ交
付スヘシ

第十六條 市町村ノ收入ヲ期限内ニ完納セサルモノアルトキハ收入役ニ於テ滯納者報告書ヲ製シ
市町村長ニ報告スヘシ

第十七條 市町村ノ歳入出ハ左ノ帳簿(第十三號乃至第十六號様式)ヲ製シ總テ之ニ登記スヘシ
一 町村歳入内譯簿
一 町村歳出内譯簿
一 假出金口別簿
一 繰換金書留簿

第十八條 市町村費ノ收支ニ係ル譯書ハ各款ニ依リ一ヶ月毎ニ區分類綴シ表紙ニ科目金員内譯書
ヲ詳記シ保存スヘシ

第四章 雜則

第十九條 市町村ハ市町村費ノ外一時ノ取扱ニ係ル金錢ヲ詳悉記載スル爲メ一時取扱金口別簿
(第十七號様式)ヲ調製スヘシ

第二十條 金錢ノ出納ハ收入役ニ於テ日計表(第十八號様式)ヲ製シ翌日午前ヲ限リ市町村長ノ閱
覽ニ供スヘシ

第二十一條 諸帳簿ニ登記スル字体ハ正格ヲ要ス若シ書損誤脱等アルモ塗抹糊貼セス書損アル處

ノ正中ニ朱ノ二線ヲ從畫シ其側ニ正字ヲ記入スヘシ
(様式ハ略ス)

◎小學校教員恩給基金收支取扱規程

明治二十五年四月
三十日官二十七號

(內務)

小學校教員恩給基金收支取扱規程

小學校教員恩給基金收支取扱規程

第一條 本規程ニ於テ歳入歳出ト稱スルハ明治廿三年法律第九十號ニ據リ收支スル所ノ金員ヲ云
フ

第二條 歳入歳出ノ出納ハ毎年四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル之ヲ一會計年度トス
但整理ノ爲メ翌年度六月三十日迄出納ヲ爲スコトヲ得

第三條 歳出ノ所属年度ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

第四條 歳入金ハ總テ爲換方ヘ預ケ入ヲ爲シ其翌月中大藏省預金局ヘ寄托ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 歳入出金ノ收支ニ關スル回議ハ第三課ニ於テ起草シ第四課ヘ合議ノ上知事ノ裁可ヲ得テ
第四課ニ回付シ同課ニ於テ出納スヘシ

第六條 文部省令第七號第三條ノ手續ニ關スル諸案ハ第三課之ヲ起草シ第一課合議ノ上知事ノ裁
可ヲ得ヘシ

第七條 第三課及第四課ニ於テハ前各條之出納ニ關スル諸帳簿ヲ設ケ其收支ヲ明瞭ニ登記スヘシ
第八條 前各條ニ規程スル外ハ總テ縣稅取扱規程ヲ適用ス

◎市町立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則

明治二十五年四月十
九日縣令乙第五號

(郡市、町村)

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法納金收入規則

第一條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ依リ市町村ヨリ納ムヘキ金員ノ納期ハ左ノ四期ニ區分ス

第一期(四月五月六月) 第二期(七月八月九月) 第三期(十月十一月十二月)
第四期(二月三月)

第二條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條第三項ニ依リ市町村立小學校正教員ヨリ納ムヘキ金員ハ給料支拂ノトキ市町村收入役ニ於テ差引スヘシ但納期ハ第一條ニ同シ

第三條 第一條第二條ノ納金ハ每期其翌月末日迄ニ市長ハ第二號書式ノ任譯書ヲ添ヘ縣廳ニ町村長ハ第一號書式ノ任譯書ヲ添ヘ郡役所ニ納付スヘシ

第四條 郡長ニ於テ第一條第二條ノ納金ヲ領收シタルトキハ第二號書式ノ任譯書ヲ添ヘ其翌月十日迄ニ縣廳ニ送納スヘシ

(書式ハ略ス)

○寄託金種區別

明治二十五年九月二十三日訓令一三五號

(警察署出納官吏)

預金局ニ寄託スル保管金ノ内警察官吏拾得ニ係ルモノハ期滿失効ニ至レハ保管金取扱規程第十三條ニヨリ大藏省預金局ニ於テ歳入ノ處分ヲナシ又人民拾得ニ係ルモノハ期滿失効ニ至レハ拂戻金證明書ヲ交付シ若シ得者ノ所在不明又ハ其他ノ事故ニヨリ拂戻金證明書ヲ交付スル能ハサザトキハ保管金規則第一條第一項ヨリ預金局ハ失効期日ヨリ尙三十年間保管スル義ニシテ警察官吏拾得ニ係ルモノト人民拾得ニ係ルモノトノ區分ハ最モ必要ニ有之候處其區分ヲ寄託金送付書ハ明記セサルモノ往々有之預金局ニ於テ差支不少趣ニ付自今寄託ノ際ハ右區分送付書ハ明記スヘシ
但埋藏掘得金或ハ埋藏掘得物品賣却代モ本文ニ準シ寄託スヘシ

○國稅外收入事務分掌ノ件

明治二十六年十二月十三日訓令乙二八一號

(警)

國稅外諸收入ノ事務及諸收入收納ノ監督ヲ警察署長ニ分掌セシメ候條明治二十六年十一月大藏省訓令第四十二號諸收入收納取扱規程ニ依リ明治廿七年一月一日ヨリ施行スヘシ

但明治二十三年三月官第廿七號ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

○諸收入收納取扱心得ヲ定ム

明治二十八年一月十九日訓令乙一六號

(郡)

諸收入收納事務取扱心得書
一歳入ノ年度所屬ハ會計規則第一條ニ據リテ區別スヘシ

一年ヲ以テ設定シタル諸貸付料金又ハ鳥魚株草等ノ諸雇物ノ代金ニシテ廿四年四月一日以前ノ契約ニ係ルモノハ年中毎七月ニ於テ納入告知書ヲ發付シ全年分ヲ徵收スヘク二十四年四月一日以降契約ニ係ル分ハ官有土地森林原野收入金徵收規程ニ據リテ徵收スヘシ

一地所貸下料其他ノ徵收金ハ縣廳ヨリ徵收報告書到達ノ後七日以内ニ納入告知書ヲ發付シ發付後十日以内ヲ以テ納期ヲ定ムヘシ

但報告書欄外ヘ納期ヲ定メタルモノハ此限ニアラス
一前項報告ハ欄外ヘ經常臨時ヲ區別シ科目印ヲ捺捺スルヲ以テ郡役所ニ於テ納入告知書ヲ發付スルトキハ全樣該科目印ヲ捺捺スヘシ

一甲郡ノ地ヲ乙郡ノ者拜借シ又ハ拂下ヲ受ケタル場合ニ於テハ納入告知書納入ノ頭部ヘ何郡町村大字何分ト記入スヘシ

一官有地所樹木建物物品等ノ公賣入札保證金又ハ契約保證金ニシテ落札人入札ヲ取消シ又ハ契約不履行ノ爲メ保證金ヲ沒收スル場合ニ於テハ直ニ歳入トシテ出納官吏ニ對シ甲號書式ノ納入告知

知書ヲ發付スヘシ(明治廿八年四月訓令乙二五二號改正)

一 諸收入收納取扱規程第二條ニ據リ納人告知書ヲ發付スルトキハ該條ノ調定元帳へ各目毎ニ口取記入ヲナシ割印(郡役所)ノ上分任收入官吏へ送付スヘシ

但納人告知書ヲ發付セサル分ト雖モ各目毎ニ口取記入スルモノトス

一 地所貸下料ノ如キモノニシテ年季中拂下ノ報告ヲ得タルキハ官地貸下料臺帳事由ノ欄内へ拂下ノ年月日ノミ記入シ既納料金ヲ下戻ス可キ場合ニ於テモ之ヲ扣除セズ其儘決算スヘシ

但過誤納ニ依リ下戻スヘキ場合ニ於テモ既納料金ハ凡テ扣除セサルモノトス

一 地所貸下ニシテ年期アルモノハ従前ノ式ニ倣ヒ臺帳ヲ調製シ徵收報告書ニ據リ其時々記入スヘシ

一 科目印ハ歲入科目表ニ據リ適宜製造スルモノトス但科目表ハ別ニ定ムル所ニ據ル

◎官有地所樹木公賣代金徵收ノ件 明治二十四年八月十八日訓令七一號 (郡長宛)

官有地所樹木等令達ニヨリ公賣シタル代金ノ義ハ諸收入收納事務取扱心得書第四項第五項ニ據ラズ直ニ徵收スル義ト心得ヘシ

◎諸收入收納取扱費用支辨ノ件 明治二十五年四月七日官令二十二號 (警)

明治二十三年三月十日官令二十七號諸收入收納取扱ニ要スル費用ハ各其署ノ經費ヨリ支辨スヘシ

◎歲入歲出外現金出收檢定書式 明治二十七年二月九日訓令乙第六七號 全日乙第六六號

明治廿五年四月訓令第五三號及廿六年三月縣令號外檢定書式別紙之通改正ス

(別紙書式ハ略ス) (郡市)

◎地方稅送納什譯書式 明治廿五年四月廿九日縣令丙第二十二號

本年縣令丙第六號地方稅送納什譯書式左ノ通更正ス

但納額並増減報告誤納更訂下戻其他缺損報告モ本文ニ準ス(書式ハ略ス)

◎地方稅收入金報告樣式 明治二十六年十月十八日訓令第三三號

地方稅收入金等ノ義ハ明治二十七年年度以降別紙樣式ニ依リ翌月五日限り報告スヘシ

◎雜收入金額豫定期日 明治二十七年六月二十一日訓令乙第二七五號 (郡)

郡役所費雜收入豫定計算書ハ翌年度ニ於テ收入スヘキ金額ヲ豫定シ毎年六月三十日限り差出スヘシ

◎紙屑、糞尿、公賣ノ件 明治二十二年七月二日訓令第七十六號

郡役所不用品中紙屑糞尿ハ公賣ニ付シ該代金ハ郡役所費雜收入トシテ其時々送納スヘシ

◎地方稅、備荒儲蓄金、送金爲替ノ件 明治二十七年三月三十一日訓令乙第一八四號 全日訓令乙一八五號

其役所爲替方ヲシテ常廳爲替方ヘ送金セシムヘキ金員ハ便宜送金手形ヘ地方稅又ハ備荒儲蓄金ノ區分ヲ記入セシムヘシ

訓令乙第二八五號 明治廿七年三月三十一日 (市)

當廳へ送納スヘキ金員ハ地方稅又ハ備荒儲蓄金ノ所屬ヲ區分シ當廳爲替方へ通報ス可シ

◎會計檢査官吏派遣ノ件 明治二十六年四月五日訓令乙六號 (郡)

會計檢査トシテ檢査官吏ヲ派出セシメタルトキハ檢査官吏ノ需メニ應シ檢査ヲ受クル義ト心得ヘシ

但檢査官吏ハ其辭令書ヲ携帶ス

◎物品出納規程 明治二十七年八月廿七日訓令乙三三八號 官六二號 (郡。師範、中學)

物品出納規程別冊之通相定メ二十七年十月一日ヨリ施行ス

物品出納規程

第一條 本規程ニ於テ物品ト稱スルハ地方費ニ屬スル器具器械書籍備品消耗品其他一切ノ動産ヲ云ヒ之ヲ大別シテ備品消耗品ノ二種トス但シ備品消耗品ノ區別ハ從前ノ例ニ據ルヘシ
第二條 物品ノ出納ハ一般會計年度ニ據リテ區分シ現ニ物品ヲ出納シタル日ヲ以テ年度所屬ヲ區分スヘシ

第三條 本規程ニ於テ所長ト稱スルハ内務部長警察部長郡長監獄署長尋常中學校長及尋常師範學校長ヲ云フ

第四條 物品ノ出納ハ證憑書類ニ對照シ所長ノ命令ニ據リ之ヲ執行スヘシ

第五條 共用物品ヲ取扱ハシムル爲メ物品取扱主任ヲ置ク其任免ハ所長專行スヘシ

第六條 物品ノ購入ハ豫算ノ目的ニ定メタルモノハ所長之ヲ專行シ臨時必需ノ物品ハ所長ニ於テ知事ノ許可ヲ請フヘシ但別段ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第七條 物品ハ知事ノ許可ヲ得スニテ之ヲ賣却シ又ハ棄却スルコトヲ得ス但別段ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第八條 物品ノ賣買ハ總テ公告シテ競争ニ附スヘシ若シ競争ニ附シ難キ場合ニ於テハ其時々知事ノ許可ヲ經ヘシ但價格ノ僅少ナル物品ニ對シテハ細則ヲ以テ一定ノ標準ヲ設ケ隨意契約ノ方法ニ據リ執行スルコトヲ得(明治二十八年三月十五日訓令乙第八七號刪除)

第九條 物品ヲ交付スルトキ其共用ニ係ルモノハ物品取扱主任ヨリ各自專用ニ係ルモノハ各自ヨリ證憑徴スヘシ

第十條 消耗品ノ内共用ニ屬スル薪炭油ノ如キ日常支消スル物品ハ一周乃至二週間ノ需用概算高ヲ以テ仮渡ヲ爲スコトヲ得

第十一條 使用ノ物品不用ニ屬シタルトキハ其返納書ヲ添ヘ速ニ還納セシムヘシ

第十二條 修繕其他ノ事故ニ依リ使用物品ノ引換ヲ要スル如キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル返納書ヲ添ヘ之ヲ還納セシムヘシ

第十三條 物品出納整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備ヘ出納ノ時々記帳スヘシ
備品出納簿
消耗品出納簿

第十四條 前條帳簿ノ外補助簿ヲ設クルハ便宜ニ任テ

第十五條 貯藏ノ物品ハ品種數量ヲ明瞭ニ鎖鑰アル容器又ハ倉庫ニ格護スヘシ

第十六條 貯藏物品ハ所長ニ於テ共用物品ハ物品取扱主任ニ於テ各自專用物品ハ各自ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第十七條 所長ハ共用若クハ專用ノ爲品交付シタル物品ト雖モ其取締上ニ關シテハ總テ監督ノ任アルモノトス

第十八條 物品保管ノ責アル官吏該物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其保管上避ケ得ヘカヲサリシ事實ヲ證明シ知事ノ認可ヲ經ルニアラスハ賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

第十九條 所長交替ノ際ハ特ニ命シタル検査員立會ノ上目録ト現在品ノ照合ヲナサシメ其調書ヲ作リテ事務ノ引繼ヲナスヘシ

第二十條 所長ハ毎年一回以上現存物品 検査ヲ執行スヘシ但物品取扱主任交代ノ際ニ於テハ其都度本條ノ検査ヲ執行スヘシ

第二十一條 所長ハ一周年度ノ物品出納計算簿ヲ製シ毎年六月三十日迄ニ本廳ニ提出スヘシ但出納ニ關スル證憑書類ヲ徴スルコトアルヘシ

第二十二條 本規程ニ關スル細則ハ所長ニ於テ規定シ知事ノ認可ヲ請フヘシ

第二十三條 本規程ニ於ケル所長ノ職務及職權ノ一部若クハ全部ハ警察部長ニ於テハ署長又ハ分署ニ監獄署長ニ於テハ支署長ニ委託フルコトヲ得

但本條ノ委任ハ知事ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第二十四條 前條ニ依リ委任ヲ受タル署長其職務ヲ執行スルニ方リ知事ノ認許ヲ要スル場合ニ於テハ警察部長又ハ監獄署長ヲ經由スヘシ

◎物品出納簿同計算書様式

明治二十七年九月五日訓令第三五一號

本年八月本縣訓令乙三三八號物品出納冊程第十三條出納簿及第二十一條物品出納計算簿様式別紙ノ通相定ム

(別紙略ス)

◎地方稅經濟文具ノ件

明治二十四年五月廿六日訓令第四十七號 官第五十五號 各部署郡師範中學

地方稅經濟ニ屬スル左ノ文具ハ特別事務上必要ト認ムルトキハ共用トシテ備置隨時使用セシムルコトヲ得

保存品

- 一文鎖 製圖用特種ノモノ
- 一コンパス 全上
- 一烏口 全上
- 一定木 雲形定木三角定木長定木
- 一尺度 比例尺 測尺 卷尺

消耗品

一筆 製圖用特種ノモノ又ハ標本等大文字認メ用ノ類

一鉛筆 製圖上特種ノモノ

一ペン先 全上

一墨 全上

一インキ 製圖上特種ノモノ及復寫版用

◎巡查被服器具支給順序

明治二十一年九月二十四日官第七十九號

(警)

巡查被服器具支給順序別紙之通改正來ル十月一日ヨリ施行ス

但施行前渡付タル物品ノ保存期限ハ從前之達ニ據ル

第一條 被服支給期月及其保存期限ヲ定ル左ノ如シ

品目	支給期月	保存期限	員數
夏服上下	毎年六月	一ケ年	一枚
冬服上下	毎年十月	一ケ年	二組
雨覆	隔年十月	一ケ年	一組
外套	隔年十月	二ケ年	一枚
肩掛	隔年十月	二ケ年	一枚
帽子	毎年十月	三ケ年	一枚(明治廿二年二月官)
靴下	毎月	一ケ年	一個
肌着股引	毎年四月十月	一ケ月	二足
		六ケ月	一組

手袋 毎年四月十月 六ヶ月 二双
 短靴 毎年四月十月 六ヶ月 一足
 長靴 毎年十月 一ケ年 一足

第二條 支給スル被服屬具中長靴短靴及肌着股引手袋靴下ハ別表ニ照シ代金ヲ其他ハ現品ヲ以テ支給ス

第三條 手帖捕縄常章呼子笛提灯胴締劍ハ用ニ堪ヘサルヲ待テ授與ス

第四條 支給物品破損スト雖トキ輒シ換與スルヲ許サス然レトモ職務ニ關シ事狀已ムヲ得サルヲノハ検査ノ上換與スルコトヲ得

第五條 第一條ノ物品ニシテ保存期限ヲ經過シタルモノハ本人ニ付與スルコトヲ得

第六條 支給物品保存期限ヲ經過セサル中轉免死亡シタルモノハ總テ現品ヲ返納セシム其代價ヲ以テ支給シタルモノハ別表ニ照シ其殘額ヲ返納セシム但末月ハ端日數ト雖トモ還納セシムルコト及ハス

第七條 第二條ノ支給期月後ニ拜命セシモノ又ハ交換スヘキモノアルトキハ其期節迄現品渡ノ分ハ還納品ヲ代價渡ノ分ハ別表ニ照シ相當代價ヲ支給ス
 (被服屬具代價支給並還納表ハ略ス)

◎巡查轉免ノ者被服屬具返納期限
 巡查轉免ノ者被服屬具本人ヨリハ三日以内ニ還納爲致本署ヘハ五日以内ニ必ス送付可致此段相達候也
 明治十四年一月十七日日本乙六號 (警)

◎巡查夏服着用期限
 巡查夏服着用期限自今六月一日ヨリ九月三十日マテト改正ス
 明治二十五年五月十三日官第三十號 (警)

◎看守(押丁)被服屬具支給規則

明治二十六年一月十七日官第三號

(監)

看守(押丁)被服屬具支給規則更ニ別冊之通相定ム
 但本文ニ概觸スル達ハ總テ廢止ス

看守(押丁)被服屬具支給規則
 第一條 看守(押丁)ニ給與スル被服屬具ハ左表ニ依リ現品又ハ代金ヲ以テ支給ス

現品代金

看守	冬服	夏服	帽雨覆	長靴	短靴	肌着
押丁	冬服	夏服	帽子	靴下	手袋	草鞋
看守	冬服	夏服	帽子	靴下	手袋	草鞋
押丁	冬服	夏服	帽子	靴下	手袋	草鞋

第二條 看守(押丁)ニ貸與スル物品ハ左表ノ如シ
 但シ本條ノ物品ハ實際使用ニ堪ヘサルニ至ラサレハ引換テ許サス

看守 劍 ザンタヨロン 劍總 提灯 呼子笛 縛繩 手帖 勤務心得
 押丁 提灯 縛繩 呼子笛 手帖 勤務心得

第三條 看守(押丁)ニ給與スル被服屬具ニシテ左期限ヲ經過シタルモノハ之ヲ本人ニ付與スル事ヲ得

保存期限

看守 冬服一組夏服二組一年 帽子一ケ一年 帽日覆一枚一年 帽雨覆一枚二年
 外套一枚二年 長靴一足一年 短靴一足六ヶ月 肌着一組六ヶ月 靴下一足半ヶ月 手袋一組六ヶ月
 (明治二十八年三月七日官第九號追加)

押丁 冬服一組夏服一組一年 帽子一個年 帽日覆一枚一年 帽日覆一枚一年 雨衣一枚二年

第四條 保存期限ハ其物品現ニ渡シタル月ヨリ起算ス

第五條 給與品及貸與品ヲ亡失若シクハ破損シタルモノ職務執行上相當ノ事由アリト認メタルトキハ更ニ給與又ハ貸與スヘント雖トモ其原因自己ノ不注意ニ出ルモノハ代價ヲ辨償セシム

第六條 給與ノ物品ハ保存期限ヲ經過シ更ニ給與ノトキト雖トモ欠勤中及ヒ轉免死亡ノモノハハ給與セズ

第七條 保存期限經過セサル中轉免死亡ノモノハ總テ現品ヲ還納セシム其代金ヲ以テ給與シタル物品ハ給與品定價還納表ニ照シ殘金ヲ還納セシムヘシ

第八條 前條給與品及貸與品ノ還納日限ハ總テ五日以内トス

第九條 保存期限滿ツルトキハ其本人ヨリ請求書ヲ指出サシメ主務者ハ其物品前ニ下渡月日ヲ帳簿ニ登載シ請求人ヲシテ一品毎ニ認印ヲ捺サシメ現品ヲ渡スヘシ

第十條 被服着用期限前三十日内ニ拜命ノ者ハ一時還納品ヲ貸與シ置キ交付期節ニ至リ新調品ヲ換與ス

第十一條 第五條ニ依リ臨時給與品ノ引換又ハ新ニ拜命シタルモノニ對シテハ外套雨衣帽子ハ時機ヨリ還納品ヲ以テ適宜保存期限ヲ定メ給與スルコトアルヘシ

第十二條 靴下草鞋代ハ十五日前ニ拜命ノモノハ全額十五日後ニ拜命ノモノハ半額ヲ給ス但轉免モ本文ノ區分ニ準ス

第十三條 靴下代並ニ草鞋代ハ俸給渡日ヲ以テ支給ス

(給與品定價還納金割合表ハ略ス)

(給與品定價還納金割合表ハ略ス)

(給與品定價還納金割合表ハ略ス)

(給與品定價還納金割合表ハ略ス)

(給與品定價還納金割合表ハ略ス)

○看守被服着用期限

明治二十六年二月十日官第九號

(監)

看守(押丁)被服着用期限ニ左ノ通相定ム

但明治十四年六月二十一日日本乙第六拾九號達ハ廢止ス

看守(押丁)被服着用期限

一冬服ハ十月一日ヨリ五月三十一日迄夏服ハ六月一日ヨリ九月三十日迄トス

一看守外套ハ寒防ノ爲メ十一月十五日ヨリ四月三十日迄ハ職務上着用ヲ許ス

○小使被服貸與及保存規程

明治二十八年二月十二日官第四號

(警)

第一條 被服貸與及保存期限ヲ定ムル左ノ如シ

但期滿レハ給與スルモノトス

品目	貸與期月	保存期限	員數
夏法被股引	毎年六月	一ケ年	壹組
冬法被股引	毎年十月	一ケ年	壹組

第二條 期限中辭職解職又ハ死亡シタルモノハ其被服ヲ還納セシムルモノトス

第三條 期限中ト雖トモ非常ノ場合ニ際シ職務ノ爲破損シタルトキハ更ニ貸與スルコトヲ得

○巡查看守給助金計算法

明治二十年二月八日官第十號

(警監)

巡查看守退職傷病死亡ノ時ハ左ノ區別ニ從ヒ給助金ヲ支給スルモノトス

退職給助

勤續滿五年ノ者ハ一時金二十五圓ヲ給シ滿六年以上九年迄ハ一ケ年毎ニ五圓ヲ増給ス勤續滿十年ノ者ハ年金三十圓ヲ給ス滿十一年以上ハ一ケ年毎一圓ヲ増給ス

遺族給助

- 一 等傷ハ年金四十圓ヲ給ス
- 二 等傷ハ年金三十圓ヲ給ス
- 死亡給助
 - 寡婦孤兒アルトキハ遺族ハ年金四十圓ヲ給ス寡婦孤兒ナク祖父祖母又ハ二十歳未満ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金百圓ヲ給ス孤兒癡篤疾ナルトキハ年金廢止ノ際一時金百圓ヲ給ス

療石料

輕重ノ度ヲ計リ之ヲ給ス

祭祀料

奉職一年未満ニシテ死亡スルトキハ一時金十五圓ヲ給ス滿一年以上ハ一ヶ年毎ニ金五圓ヲ増ス職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金百圓ヲ給ス右年金支給方ハ退職死亡ハ傷痍等ノ翌月ヨリ支給シ其給ヲ止ムルトキハ日割計算スヘシ

○巡查看守給助年金受領者心得書

明治二十六年一月十六日縣令丙一號 (市町)

- 巡查看守給助例ニ依リ年金受領者心得書
- 第一 年金ハ兩年度(三月五月)ニ分チ半額宛チ交付ス
- 第二 年金受領者ハ交付期月ノ初日ヨリ十日マテノ間ニ於テ年金證書ヲ本人居住地ノ市長村長ニ差出シ第一號書式ノ證明書ヲ請求シ第二號書式ノ請求書ト共ニ本縣廳(巡查ハ警察部看守ハ監獄署)ニ差出スヘシ

第三 年金ハ本縣水戸市及東茨城郡居住ノ者ハ交付期月ノ十五日ヨリ二十日マテニ縣廳ニ於テ交付シ其他ハ爲換券等ヲ以テ本人ヘ送付ス

第四 年金ノ送付ヲ受ケタルトキハ即日第三號書式ノ受領證ヲ差出スヘシ

第五 代理人チテ年金ヲ受取ラントスルトキハ委任届ヲ差出スヘシ但委任狀ヲ以テ代用スルモ妨ケナシ

第六 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ廢止スルヲ以テ請求スル得ス

一 公權剝奪セラレシ者

二 寡婦再嫁シタルモノ

三 孤兒二十歳ニ至リシ者

第七 左ノ各項ニ該ル者ハ其期間給助ヲ停止スルヲ以テ請求スルヲ得ス

一 俸給ヲ受クル官職ニ就キタル者

二 公權ヲ停止セラレシ者

三 失踪シタル者

四 許可ヲ得スニテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

第八 左ノ各項ニ該ル者ハ届書ニ第一ハ其管應其他ハ居住地市町村長ノ證明ヲ受ケ(巡查ハ警察部看守ハ監獄署)ニ差出スヘシ但改姓改名ニタルトキハ給助年金證書ノ書替ヲ請求スヘシ

一 俸給ヲ受クル官職ニ就キ又ハ免職シタルトキ

但解令書寫ヲ添ヘシ

二 公權ヲ停止セラレタル時

三 本籍並ニ住居ト轉換シタルトキ

四改姓改名ノタルトキ

五年金給助ノ證書ヲ遺失又ハ水火盜難ニ罹リシトキ

六改印シタルトキ

第九 第六項第二第三ニ該ルトキハ本人ヨリ同第一ニ該ルトキ並ニ死亡シタルトキハ家族或ハ親戚ヨリ(親戚ナキトキハ故舊ヨリ)第八項ノ手續ニ依リ給助年金證書ヲ返納スヘシ

第十 第七項第三第四ニ該ルトキハ家族或ハ親戚ヨリ(親戚ナキトキハ故舊ヨリ)第八項ノ手續ニ依リ届出ヘシ

第十一 職務ノ爲メ負傷後其傷痕 原シ死亡アルモノ又ハ孤兒二十歳ニ至ルモ癡疾ナルトキハ公立病院若クハ開業醫師ノ診断書ヲ添ヘ第八項ノ手續ニ依リ相當ノ給助ヲ出願スヘシ

(書式ハ略ス)

○郡書記俸給支給定日 明治二十六年十二月十五日訓令乙第二八七號 (郡)

○郡書記俸給支給定日

那書記俸給支給定日ハ自今毎月廿一日トス

但休日ニ當ルトキハ繰下ケヘシ

○地方稅支辨雇員俸給支給規則

地方稅支辨ニ屬スル雇員俸給支給規則別冊之通相定ム

雇員俸給支給規則

第一條 雇員ノ月給ハ毎月末日ニ支給スルモノトス但シ休日ニ當ルトキハ繰上ケトス

女監取締コシテ病氣又ハ私事故障ノ爲メ欠勤シタルトキハ該日數ヲ除キ日割ヲ以テ計算支給スルモノトス(二十九年一月訓令乙第八〇號第二項追加)

第二條 解雇又ハ死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全部ヲ支給ス

但女監取締ニシテ本條ノ場合ハ第一條第二項ニヨリ當日迄ノ分日割ヲ以テ支給ス(全上ヲ以テ) 第三條 雇員ノ日給ハ總テ出務ノ數ニ依リ翌月一日ヲ以テ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ繰下トス(全上ヲ以テ本條中女監取締以下刪除)

第四條 新ニ雇入レタルモノノ月俸及増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ支給ス

第五條 他廳ヘ轉シタルトキハ發令ノ當日迄ヲ甲廳ノ負擔トシテ翌日以降ノ分ハ乙廳ニ於テ支給スルモノトス

第六條 轉職解雇又ハ死亡者ノ俸給ハ第一條第三條ニ拘ハラズ其際支給ス

第七條 病氣ノ爲メ執務セサルモノ日數六十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限コアラズ

第八條 前條ノ外私事ノ故障ニ依リ執務セサルモノ日數三十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス

第九條 第七條ノ場合ト第八條ノ場合ト相續テ起ルトキハ其日數ハ前後ヲ通算シ六十日ヲ踰ユルトキハ俸給半額ヲ減ス但第八條ノ期限ヲ過キ已ニ減俸ノモノ病氣ノ爲メ尙ホ引繼キ欠勤スルトキハ本俸ニ復セサルモノトス

第十條 賜暇又ハ忌引ノ日數ハ第七條第八條ノ期限ニ算入セス

第十一條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス

第十二條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

第十三條 監獄醫教誨師女監取締及檢微幹事並ニ醫員ノ俸給支給ハ本則ニ準據スヘシ

○地方稅支辨給仕小使給料支給規則

地方稅支辨ノ屬スル雇員並ニ仕小使等給料支給規則左ノ通相定ム

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

明治二十四年七月十日 六日官第六十六號

地方稅支辨給仕小使給料支給規則

- 第一條 月給ハ毎月末日給ハ翌月一日之ヲ支給スルモノトス
但休日當ルトキハ月給ハ繰上ケ日給ハ繰下ケトス
- 第二條 日給ハ總テ出勤日數ニ應シ支給スルモノトス
但押丁ニシテ自己ノ疾病及父母看護忌引等ニ係ルトキハ第五條ヲ適用ス
- 第三條 増給減給又ハ辭令發付ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス
- 第四條 新ニ雇入タルトキハ出勤シタル日ヨリ解職ノトキハ辭令拜受ノ日死亡ノトキハ其當日マ
テ日割ヲ以テ支給スルモノトス
- 第五條 自己ノ疾病及父母ノ看護又ハ忌引等ニ依リ不參スルモノ十日以後ハ日割ヲ以テ其日數ヲ
扣除スルモノトス
但公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス
- 第六條 押丁守丁授業手其他職工等ノ給料ハ總テ此規則ニ依ル

◎備荒儲蓄救助費及地租貸與金精算報告
何年度(罹災ノ年度ニヨル)何郡備荒儲蓄金精算報告書

科	目	町	數	延	人	員	一	戶	數	金	員
水災救助			數	現	人	員	一	戶	數	金	員

救助費(食料ハ戶數小屋掛料以下ハ延人員及現人員掲載ニ不及)
明治二十六年一月
十六日訓令第二號
(郡市)

食料	小屋掛料	農具料	何災救助	何々	何々	合計	地租貸與
貸下年度	貸與額	前年度迄返納額	本年度返納額	免除額	未納額		

何年度
何年度
合計
右之通相違無之候也
年月日
知事宛

郡市長印

◎罹災者精算救助金ノ件
明治二十五年二月十日訓令第十一號
豫備金ヲ以テ繰替拂ヲナシタル罹災者救助金ヲ請求シ及救助金概算渡ニ對シ精算ノトキハ正當證書ヲ添付ヘシ
但二十四年度ニ屬スル正當證書ハ此際取纏メ差出スヘシ

○罹災者救助金ハ正當證書ヲ要ス

明治二十五年三月廿三日訓令第二十六號

(郡市)

罹災救助金ハ自今別紙書式ノ正當證書ヲ徴シ差出サルヘシ
但避難所諸費正當證書ハ仕譯書ヲ添付スヘシ

(別紙)

證

一金 何災救助金

内

食料 但人員何人日數何日延人員何人一人三合ツ、此米何程下白米一石ニ付金何程

小屋掛料 但人員何人

農具料 但耕耘反別何程

種穀料 但田(畑)反別何程(粟麥黍稗菽)何程一石ニ付何程(此金何程ノ内)

(但田反別何程)何程一石ニ付何程(此代金何程)何程(粟麥黍稗菽)何程一石ニ付金何程(此代金何程)(合金何程ノ内)

右ハ明治年月日何災ニ罹リ御給與ノ分正ニ受取候也

明治年月日

郡市町村大字

氏 名 印

氏 名 印

郡市長宛

證

一金 地租貸與(補助)金

但全所有耕地別何程(内何程)收穫皆無此地租金何程

右ハ明治何年月日何災 罹リ御貸與(補助)ノ分正ニ受取候也

明治何年月日

郡市長宛

郡市町村大字

氏 名 印

○地方稅備荒儲蓄金仕拂領收證書ノ件

地方稅備荒儲蓄金ノ仕拂ニ對スル領收證書ノ内代理者ノ領收證書ニハ自今委任狀ヲ添付セシメ證書ト共ニ進達スヘシ

但委任狀ヲ添付フルヲ得サル事故アルモノハ副書ヲ出サシメ割印ヲ爲シ之ヲ添付スヘシ又委任狀ノ數口ニ涉ルモノハ主任者ニ於テ領收證書ノ余白ハ委任狀何證書ニ添付シアルコトヲ朱記證

明スヘシ

○電信電話杆敷地手當金交付手續

明治十六年六月十六日訓令第二十五號

電信電話杆敷地手當金交付手續

第一條 電信電話杆敷地手當金ハ調査手續第二第三項ニ依リ報告モル金額ヲ縣廳ヨリ送付スルモノトス

第二條 前條現金ノ送付ヲ受タルトキハ明治二十二年十月大藏省令第十三號第一條ニ依リ金庫ヘ

委託スヘシ

第三條 債主ニ對シ仕拂ヲナストキハ明治二十三年四月遞信省告示第六十八號手當金請求式ニ準シ受領證ヲ做スヘシ

但誤拂又ハ過渡金アルトキハ第一號書式ノ歲入調書ヲ製シ縣廳ヘ差出スヘシ

第四條 仕拂結了ノ上殘余ヲ生セントキハ第二號書式ノ返納證ニ通テ製シ縣廳ヘ差出スヘシ

第五條 切離ヲ受ケタル返納金領收證書ハ謄憑書類トシテ仕拂計算書ヘ添付スヘシ

第六條 會計規則第九十八條ニ依リ差出スヘキ仕拂計算書ハ毎月一回トシ明治二十二年十一月會計檢査院ヨリ各廳ヘ通達シタル規程ニ依リ前月分翌月十日迄ニ第四號書式ノ明細書及謄憑書類ヲ添ヘ縣廳ヘ差出スヘシ

第七條 新設廢止ニ係ルモノハ月割計算ヲ用ヒス總テ一ヶ年分ノ手當金ヲ支給スヘシ

第八條 現金出納簿各目ノ詳細ヲ明ニスル爲メ第三號書式ニ依リ内譯簿ヲ設備スヘシ

(書式ハ略ス)

○統計

◎統計取調ノ件

明治十五年七月廿五日
日郡甲第八十八號

統計ハ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル重要ノ事件ナルニヨリ材料ノ計査最モ正確ナラサル可ラス而シテ正確ノ事實ヲ得ハ其役所ニ於テ材料蒐集ノ際注意ノ周到ナルト否トニ關スル儀ニ候條一層嚴重ニ取扱候條可致此旨相達候事

◎統計取調ノ件

明治十五年七月廿八日
日郡甲第四十五號

統計ハ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル重要ノ事件ナルニヨリ材料ノ計査最モ正確ナラサル可カラス元來正確ノ事實ヲ得ルハ常初材料蒐集ノ際注意ノ周到ナルト否トニ關スル儀ニ候條一層

慎重ニ計査可致此旨相達候事

◎統計主任ヲ定ム

明治十八年四月廿五日
日郡甲第廿四號

統計ハ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル重要ノ事件ニ有之就テハ郡書記ノ内統計主任者ヲ撰定シ一層慎重ニ取扱正確調理候條可致且ツ主任者撰定ノ上ハ其官姓名ヲ届出ヘシ此旨相達候事

◎統計主任心得

明治十八年八月十一日
日郡甲第百五號

統計主任者心得別冊之通相定候條此旨相達候事

統計主任者心得

一 統計ハ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル要具トス

一 統計材料ノ科目ヲ概別シテ地積人口行政司法宗教教育慈善保險財政陸軍海軍農業工業商業通運郵便電信日用品ト爲ス

一 各主任者ハ其主擔ニ屬スル統計樣式ニ就キ其年分翌年四月十五日限り毎年調製シ之レヲ庶務課統計掛ヘ回付スルモノトス

一 各主擔ニ係ル材料ノ外他ニ緊要ノ事項アルトキハ其事由ヲ詳悉シ之レヲ庶務課統計掛ヘ報告スルモノトス

一 計査ノ年度ハ歲入出等金數ノ出納ヲ主トシテ計査スルモノニ限リ會計年度其他ノ事物ハ總テ曆年(二月ヨリ十二月迄)ヲ以テ調査スルモノトス

一 會計年度調ハ(甲年四月ヨリ乙年三月迄)ノ事實ヲ掲グルモノトス依テ明治十九年中(曆年調)ノ事實ヲ掲グルトキハ全十八年度(會計年度調)ノ事實ヲ載スルカ如シ

一 郡ノ内二郡以上ヲ併テ一郡役所ヲ置ケルモノモ其事實ハ一郡毎ニ掲載スルモノトス

一 市街雜市街ヲ問ハス人口三千以上ヲ群居セル地ヲ以テ市街トナス

一 市街雜市街ヲ問ハス人口三千以上ヲ群居セル地ヲ以テ市街トナス

- 一 方里ハ地籍編成迄ノ間暫ク現在ノ反別ヲ改算シ其數ヲ取ルモノトス
- 一 表中排列スル所ノ文字ハ總テ文字ヲ用ユルモノトス
- 一 數位記入方ハ此例ニ係ル事實ハ厘位ニ止メ其他ハ總テ四捨五入ノ法ヲ用ヒ一位ニ止ムルモノトス
- 一 數量ノ句點ハ一位ノ傍必ス厘歩及合等ノ字ヲ明記スヘシ
- 一 調査未了ノ事實アラハ其欄ヘ「乙」ヲ記入シ登記スヘキ事實ナキモノハ其欄ヘ「―」ヲ記入スルモノトス(以下主擔項目ハ略ス)

◎内閣統計材料様式

明治廿二年十二月廿三
日縣令丙第五十四號

(郡市)

内閣統計材料別紙様式ニ據リ明治二十二年中ノ分ヨリ精確取調毎年二月十五日限り第一部へ指出スヘシ

(様式略ス)

附言

- 一 此表ハ毎歳二月十五日限り指出スモノトス
- 一 此表指出ノ節誤寫或ハ違算アリテ内譯ト合計ト總計ト符合セサル等ノ事アリテハ往復訂正ノ手數ヲ要シ候ニ付誤寫違算ナキ様注意スヘシ
- 一 此様式ニハ各表連續シテ記載スト雖トモ各表別紙ニ製スルモ便宜ニ任ス
- 一 其年中事實ナキモノアラハ事實欄内ヘ「―」ヲ填シ事實ナキヲ表スヘシ

◎農商務統計報告規定

明治廿七年六月廿
日訓令甲第十一號

明治三十年三月四日
訓令甲第九號改正

農商務統計報告規定
農商務統計報告規定

第一條 郡市長及町村長ハ毎年左ノ定期報告ヲ爲スヘシ

- 一 農商務統計表
- 一 米作開花ノ景况
- 一 今成熟ノ景况
- 一 麥作成熟ノ景况

第二條 郡市長及町村長ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ臨時報告ヲ爲スヘシ但緊急ノ場合ニハ電報又ハ脚夫ヲ以テスヘシ

- 一 虫害
- 一 風雨水旱霜雹ノ害
- 一 森林ノ火災
- 一 漁業者ノ遭難
- 一 其他各種ノ災害及産業上著ルシキ影響ヲ生スヘキ事件ノ發生シタル場合

第三條 統計報告ハ町村長ハ郡市長ニ郡市長ハ知事ニ報告スルモノトス
但町村長ニ於テ緊急ヲ要スルモノト認メタル事件ハ直ニ知事ニ報告シ同時郡長ヘモ報告スヘシ

第四條 郡市長及町村長ハ部下吏員ノ内統計報告主任ヲ定メ農商務統計調査ニ從事セシムヘシ
但主任者任免ノ都度其人名ヲ當廳ニ報告スヘシ

第五條 市町村ニハ其市町村内ニ於テ相當ノ地位名望ヲ有シ實業ノ狀況ニ精通シ且ツ統計調査ニ適スル者ノ内ヨリ若干ノ統計調査委員ヲ設ケ市役所及町村役場ノ統計調査ノ事務ヲ補助セシム
但統計調査委員ハ郡市長ノ推選ニ依リ知事之ヲ探擇囑托スルモノトス

第六條 農商務統計調査委員ノ事務左ノ如シ

一 統計材料ノ蒐集ニ補助ヲ與フルコト

一 蒐集調査セシ統計ノ適實ナルヤ否ヤノ協議ニ與フルコト

一 統計調査ニ關シ意見アルトキハ知事又ハ農商務省統計主任ヘ之ヲ開申スルコト

◎統計表様式

明治十七年十一月廿一日
日部中第百廿四號

(郡)

客年郡甲第百六十四號ヲ以テ相達置候統計表様式別冊之通リ改定候條毎年四月十五日限り無運滯可差出此旨相達候事

但十六年分ハ本年十二月十五日限り差出スヘシ(様式零ス)

◎雇外國人統計様式

明治廿五年三月十四日
日部令丙第百二十號

(郡)

明治十九年以降統計材料左ノ書式ニ據リ毎年一月三十一日限り(十九年分ハ三月二十五日限り)調製差出スヘシ

(様式)

何郡内備外國人

毎年十二月卅一日調

國名	入名	勤務場所	職業	月給	雜給
米合衆國		何々製造所	器械力		
何國		何々所	何々		
何國					
總計					

二 雜給ハ食料宿料靴代等ノ月給ニ準スリモ、ニヶ月分金額ヲ掲載スヘシ

一年給クモシハ月給ニ依テ算シ四捨五入シテ圓位ニ止メ記載スヘシ金額貸付以テ支給スル者ハ之ヲ區分シテ記載スヘシ

◎學事諸表取扱心得

明治廿五年十二月十六日
日部令乙第百三十三號

(郡市町村)

學事年報取調條項及諸表様式別紙之通制定ス曆年々調査ニ依リ差シ學事諸表取扱心得ニ準シ調製

町村長ハ毎年二月十五日限り郡役所ニ差出シ郡市長ハ毎年二月十五日限り縣廳ニ差出スヘシ

學事諸表取扱心得

一 學事年報但學事年報取調條項ニ依リ分類記載スヘシ

一 學事統計表

一 公學費出納表及學所有品及學費寄附表

此三表ハ郡市役所ニ於テ調製シ毎年一回縣廳ニ申報スルモノトス

一 公私立專門各種學校表

一 公私立幼稚園表

一 公私立圖書館表

此三表式ハ公私立專門各種學校及幼稚園圖書館年未調査表ト同様ナルモノナレハ郡市役所ニ於テハ調査表ヨリ移記統計シ(公立ト私立ト別表ニスヘシ)毎年一回縣廳ニ申報スルモノトス

一 學齡人員調査表

一 公私立小學校年未調査表

一 公私立專門各種學校年未調査表

一 公私立幼稚園年未調査表

一 公私立圖書館年未調査表

一 公學費出納表
一 公學所有品及學資寄附表

此七表ハ町村役場ニ於テ毎年一回郡市役所ニ差出スルモノトス
(別紙)

學事年報取扱條項

一 郡内學事ノ狀況

學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ概記スヘシ

一 學齡兒童

修學兒童増減ノ緣由就學督責ノ實施其他學齡就學ニ係ル狀況等ヲ記載スヘシ

一 小學校

公立學校設置區域ノ數及校數位置設備等適否ノ狀況單級小學校ノ數其狀況私立學校ノ代用補習科專修科徒弟學校實業補習學校ノ設置及狀況生徒學業等ノ狀況及父兄ノ職業ニ關シ在學ノ

長短學業進否ノ狀況ヲ記載スヘシ

一 教員

教員待遇ノ狀況

一 專門學校及技藝學校設置廢止ノ緣由

教授ノ要旨教員ノ資格生徒ノ増減生徒學業ノ進否卒業生ノ數其他各學科ニ關スル狀況等ヲ記載スヘシ

一 盲啞學校及各種學校

學校設置廢止ノ緣由教授ノ要旨教員ノ資格生徒ノ増減生徒養成ノ狀況生徒學業ノ進否等ヲ記

載スヘシ

一 幼稚園

幼稚園設置廢止ノ緣由保姆ノ資格幼兒ノ増減幼兒保育狀況等ヲ記載スヘシ

一 圖書館

圖書館設置廢止ノ緣由圖書ノ増減開館日數閱覽人ノ増減等ヲ記載スヘシ

一 教科用圖書

教科用圖書ノ適否需用供給ノ關係等總テ教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記載スヘシ

一 公學資

公立學校等經濟ノ要領授業料徵收ノ方法寄附金等ノ増減學校資財ノ増減學資蓄積ノ方法及増減經費收支ノ方法等總テ學校維持並理財上得失ニ係ル狀況ヲ記載スヘシ

授業料ヲ徵收セスシテ維持スル學校アルトキハ其校數並維持ノ狀況ヲ記載スヘシ

一 郡會及市町村會

學事ニ係ル議事ノ梗概ヲ記載スヘシ

一 教育會

組織並事業ノ梗概ヲ記載スヘシ

一 學事關係職員

學務擔任郡吏郡視學市町村長學務委員等總テ學務關係職員ノ事務ヲ指辨スル狀況等ヲ記スヘシ

一 學事監督及獎勵

學務擔任郡吏郡視學等巡視監督ノ狀況並教員生徒等獎勵ノ要領ヲ記載スヘシ

一其學事ニ付申報スヘキ條件ハ便宜類聚記載スヘシ
○一右各項中計數ニ係ルモノハ詳ニ表示スヘシ

◎學事統計表公學費出納様式

學事統計表様式中學事統計表及公學費出納表別紙之通り改正ス自今公學費出納表ニ限リ會計年度ニ依リ取調毎年五月限り差出スヘシ (郡市)

(表式略ス)

◎公立學校職員在職年數、年齡、罷免、在職年數表

公立學校職員在職年數及年齡並罷免者在職年數等ノ儀自今左ノ甲乙號表式ニ依リ調製毎年一月三十日限り縣廳ニ差出スヘシ (表式略ス)

(表式略ス)

◎公學費出納表、公學所有品、學資寄附表調製ノ件

學事諸表様式中公學費ニ關スルモノハ會計年度ニ依リ調査セシムヘキニ付テハ明治二十五年縣令乙第十三號學資諸表取扱心得中町役場ニ於テ取調ヘキ公學費出納表並ニ公學所有品及學資寄附表ハ客年十二月訓令乙第百三十六號ノ表式ニ準シ調製シ毎年四月限り郡役所ニ差出スヘシ
但明治廿六年一月ヨリ三月ニ至ル公學費ニ關スル事項ハ客年十二月訓令乙第百十七號ノ表式ニ準シ曆年、調査ニ依リ同時迄ニ差出スモノトス (町村)

◎公學費出納表調製ノ件

學事表公學費出納表別紙ノ通改定ス自今會計年度ニ依リ取調毎年五月限り差出スヘシ (別紙略ス)

◎公私立小學校教授者類別、俸額、校費統計表式

本縣統計資料表式トシテ別紙ノ通り相定メ候ニ付第一二表ハ毎年二月第三四表ハ毎年五月限り本廳ニ差出スヘシ (別紙略ス)
但本年ニ限リ第一表ヨリ四表迄五月限リ差出スモノトス (郡、市)

○雜 部

◎縣令郡令公布方法

明治二十六年十月勅令第百九十九號ニ依リ縣令郡令公布ノ方法左之通り相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

◎訓令登載ノ件

訓令ハ自今縣報ヘ登載スルモノトス 但都合ニ依リ特ニ配付スルコトアルヘシ

◎告示告諭報告公式

本縣告示告諭報告ハ縣報ヘ登載スルヲ以テ公式トシ來ル十二月一日ヨリ施行ス

◎縣報配付ノ件

來ル十二月一日ヨリ縣令ハ縣報ヲ以テ公布シ告示告諭報告ハ縣報ヘ登載スルヲ以テ公式ト相定メ候ニ付テハ縣報ハ發行毎ニ各一部ヲ配付ス (郡市町村)

◎縣令郡令等揭示場へ掲クルノ件

今般縣令第三十三號ヲ以テ縣令郡令公布ノ方法並ニ縣令三拾四號ヲ以テ告示告諭報告ノ公式相定メ候ニ付テハ該令等ハ揭示場へ掲ケ又ハ適宜回覽其他ノ方法ニ據可成人民ニ知ラシムル機取計フヘシ

◎郡令町村役場へ配付ノ件

郡令ヲ公布シタルトキハ同時ニ其印刷物又ハ謄本ヲ町村役場へ配付スヘシ

◎訓令適用ノ件

各省訓令リシテ官報ニ登載アルモノハ自今直ニ其訓令ヲ適用スルコトヲ得

◎公文例

- 第一條 管内一般又ハ其一部ニ命令スルモノヲ縣令トス
 - 第二條 管内一般又ハ其一部ニ告知スルモノヲ告示トシ事ノ諭示ニ屬スルモノヲ告諭トス
 - 第三條 官公吏學校長若クハ官公署學校ニ令達スルモノヲ訓令トシ事ノ機密ニ係ルモノヲ内訓トス
 - 第四條 神職僧侶又ハ會社公共團體等ノ代表者若クハ神社寺院會社公共團體等ニ令達スルモノヲ達トス
 - 第五條 願何届上申開申等ニ對シ指揮命令スルモノヲ指令トス
 - 第六條 訴願ノ裁決ヲ裁決トシ職員當選ノ判定ヲ判定トス
 - 第七條 縣令告示告諭訓令内訓達ニ誤字落字等アリテ之ヲ正スモノヲ正誤トス
 - 第八條 縣令告示告諭訓令内訓達ハ各其番號ヲ付スルモノトス
- 但訓令ノ番號ハ郡市役所町村役場ヲ通シテ發スルモノヲ甲號トシ其他ハ總テ乙號トス事ノ甲

乙丙號ニ涉ルモノハ甲號ニ屬スルモノトス

第九條 番號ハ毎年之ヲ改メ逐次之ヲ付シ又其番號ハ一般ニ發スルモノト一部ニ發スルモノトヲ區分セス

第十條 指令裁決判定モ又各其番號ヲ付スルモノトス
但裁決ト判定トハ其番號ヲ通シ區分セサルモノトス

管内一般ニ發スル縣令告示告諭ノ例
茨城縣令(告示告諭)第何號

何々
年月日

知事

管内一部ニ發スル縣令告示告諭ノ例
茨城縣令(告示告諭)第何號

何々
年月日

何々(何郡市町村沼湖海郡市町村)

訓令甲第何號

知事

茨城縣訓令甲第何號

何々(郡市役所町村役場學校)

何々
年月日

知事

訓令乙號ノ例

茨城縣訓令乙第何號

何々(何部署何郡市役所何町村役場學校)

何々

年月日

知

事

官公吏學校長へ發スル訓令ノ例

訓第何號

何々

右訓令ス

年月日

知

事

官職氏名宛

内訓ノ例

内訓第何號

何々

右内訓ス

年月日

知

事

官職氏名宛

神社寺院會社公共團體へ發スル達ノ例

茨城縣達第何號

何々

何々(官國幣社何之會社)

何々

年月日

知

事

神職僧侶會社公共團體ノ代表者へ發ル達ノ例

茨城縣達第何號

何々

右相達ス

年月日

知

事

何々氏名宛

指令ノ例

茨城縣指令第何號

何々(何郡市役所何町村役場官職氏名何々會社)

何々組合 何府縣何何郡町村 何 某

明治何年何月何日願(届第何號同上申開申)何々、件聞届(聞届何々)候條何々スヘシ(聞置認可

ス許可ス難聞届難聞置認可セス許可セス伺前段後段之通)左之通心得ヘシ

第一條 何々

第二條 何々

年月日

知

事

茨城縣指令第何號

明治何年何月何日上申何々ノ件(何郡市町村何々ノ件)

右何々ニ依リ之ヲ認可ス(許可ス認可セス許可セス)

年月日

知

事

裁決判定ノ例

茨城縣裁第何號

裁決(判定)書

何郡市町村大字番地

族籍

訴願人 何

某

右訴願(申立)ハ何々

依テ何々ニ依リ之ヲ受理シ審査スルニ何々右ノ理由ナルヲ以テ裁決(判定)スル左ノ如シ
何々ハ何々ニシテ取消ス(取消スヘキ限リニアラス又ハ何々又却下ノトキハ)

右訴願ハ何々法律勅令ニ訴願ヲ許スノ明文ナキヲ以テ訴願法第九條(申立ハ何々)ニ合リ之ヲ却
下ス

年 月 日

知 事

正誤ノ例

明治何年何月茨城縣何何何號中何々ハ何々ノ誤(何ノ下何々ノ何字ヲ脱ス)

年 月 日

書 記 官

○指令書式

本年告示第一號ヲ以テ人民ヨリ差出シ諸願書用等ノ副本ヲ廢シ候ニ付テハ其指令ヲ要スヘキモノ
ハ自今別紙ヲ以テ指示スヘシ

但指令文ハ別紙書式ニ準據シ尙其旨戸長ヘモ諭示スヘシ
指令書式
何郡役所指令第何號

何府縣何郡區何町村

某

本書ト原書

ト割印

印課

明治何年何月何日願何々何郡何町村何番字何々地(外何々所合反別若干)拜借ノ件聞
届(難聞届)チニケ年料金何圓ヲ以テ明治何年何月ヨリ今何年何月マテ何々年季貸渡
候條明治十八年本縣甲第八十九號及甲第九十一號布達遵守スヘシ
但何々(本文ニテ盡シ難キ場合)ニ記載スヘシ(但何年何月ヨリ同何月迄料金何圓ト
心得ヘシ)

明治何年何月何日

郡

長

○各課署ニ官報通報擔任者ヲ定ム

今般官報發行相成候ニ付テハ各科課署ニ於テ通報擔任者ヲ定メ各主管ノ事項ニシテ該報ヘ登載ス
ヘキモノト認ムルモノハ其事項ヲ詳記シ(調査科)ヘ送付スヘシ此段相達候也

○官報々告手續

明治十六年本甲第第二十八號ヲ以テ官報通報擔任者ヲ定メ報告事項通報可致旨達置候得共通報方
兎角緩慢ニ流レ不都合候條自今左之通相心得厚ク注意致ス可ク別紙擔任者心得書相添此旨更ニ相
達候事

官報々告手續

第一 官報々告方ハ判任官ノ内正副二名ヲ以テ之ヲ擔任セシメ其姓名ヲ本局ヘ届出且庶務課ヘ報
知ス可シ

第二 官報々告擔任者ハ其主務ノ事項ニシテ官報ヘ登載スヘキモノハ速ニ庶務課ヘ報知スヘシ

第三 郡役所ノ官報々告書ハ總テ其主務ノ課ヘ送付スヘシ主務課其送付ヲ得ハ調査ノ上庶務課ヘ報告ス可シ

第四 庶務課ニ於テハ官報々告書ヲ製シ各科課署ヘ配付スヘシ各科課署ニ於テハ之レニ登記シ每翌朝庶務課ヘ回送スヘシ

第五 官報々告書ハ要ヲ掲ケ贅ヲ剛ルヘキハ勿論其認メ方モ官報々告ノ体裁ニ文案スヘシ
官報擔任者心得書

一官報々告書ハ別段ノ事情アルモノヲ除クノ外添書ヲ要セス只發遣ノ月日名宛ヲ記シ封紙ノ上發郵スヘシ

一通常ノ報告ハ普通ノ郵便ニ付シ書留ニ及ハス

一報告書ニハ其事柄ニ關係アル人名場所時日等ヲ詳記スヘシ

一報告事件ノ種類ニ依リ始終連續セサレハ報告ノ用ヲナサルノモノアリ例ヘハ前ニ早魁ノ景況ヲ報シテ後ニ潤雨ヲ得タルトキノ景況ヲ報セス又巡察使等ノ來着ノミヲ報シテ其出發ヲ報セサル如キノ類是ナリ其他是ニ類スルコト多シ故ニ其始終ニ注意スヘシ

一新聞紙又ハ雜誌ニ於テ本縣ノ公務上若クハ本縣ノ利害ニ關スル重大ノ件ニ就キ誤謬ノ説ヲ掲載シタルトキハ速ニ其詳悉ヲ報スヘシ

報告事項

第一 雜事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ

一府知事縣令書記官警察部長收稅長ノ上京歸縣又ハ巡回出張等其發着ノ地名時用向及出張巡回ニ付視察ノ狀況

二部長ノ異動

三勅委任官以上ノ巡回視察等ニ付到着及出發ノ地名時日及其視察ノ狀況

四緊要ナル諭告諭達ノ類

五廳舎ノ新築移轉等

六較著ナル行爲ニ因リ褒賞ヲ與ヘタルモノ、住所姓名及其行ノ顛末

七社寺ニ關スル重要ノ件

八外國人ノ雇入解約

九府縣會ノ閉開並其決議ノ要畧及認可不認可項目

十府縣會議員ノ改撰議員ノ總數並正副議長常置委員ノ姓名

第二 兵事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
一兵事課ニ於テ取扱フ事項
二徵兵吏徵兵醫官又ハ鎮臺營所アル府縣ニ在テハ檢閱使ノ來着並出發及其徵兵又ハ檢閱ニ係ル狀況

三軍艦ノ出入(港アル府縣)

第三 學事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ

一師範學校中學校ノ盛衰生徒ノ増減其原由並教則校則ノ制定改正等

二師範學校中學校生徒ノ卒業證書授與及卒業生徒ノ員數

三學務委員會ノ決議又ハ委員ノ報告

四教育會ノ興廢會員ノ増減並其報告

五一般公私立學校其他各種學校ノ教育上ノ景況及生徒ノ増減其原由等

第四 農事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 諸作物ノ景況
- 二 旱害水害蟲害其他作物ノ被害ノ景況
- 三 農業ノ改良又ハ開墾等ノ景況
- 四 特有物産ノ產出高及收納金高並増減其理由等
- 五 種子交換並肥料等ノ得失
- 六 有益ナル農會又ハ農事相談會ノ景況
- 七 老農ノ實檢說其他農事ニ關スル古來慣習ノ參考トナルヘキモノ
- 八 山林又ハ水産ニ關スル一切ノ事項
- 第五 商業ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 一 貿易市場ノ商況(開港場アル府縣)
 - 二 急劇ナル物價ノ變動並其理由(臨時報告)
 - 三 特有物産ノ市價並其賣捌地方等(毎月報告)
 - 四 毎半年間公債證書ノ賣買出入高
 - 五 西洋形並日本形船舶(日本形ハ五十石積以上)出入(毎月報告要港アル府縣)
 - 六 商法會々議等ノ議決ノ要旨
 - 七 商業上慣習ノ參考トナルヘキモノ
- 第六 工事ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 一 工作製造場等ノ景況並盛衰其理由
 - 二 發明工夫ニ係ル事項
 - 三 美術ノ景況

- 四 開鑿其他諸般ノ新工事又ハ古來大工事ノ參考トナルヘキモノ
 - 右事項ノ外農工商ニ屬スル報告事項ハ左ノ如シ
 - 一 農工商諮問會及博覽會共進會等ノ開閉其開會中ノ景況
 - 二 勸業委員ノ緊要ナル報告
 - 第七 衛生事項ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 一 傳染病及流行病患者及中毒者ニ係ル報告並停船檢疫等
 - 二 地方病ニ係ル記事
 - 三 飲食物溝渠家屋等ニ關スル衛生事項
 - 四 牛馬及鳥畜類等ノ流行病
 - 第八 警察事項ノ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 一 警察ニ關シテ褒賞及恩給ヲ得タルモノ
 - 二 物類事項
 - 三 人事々故
 - 四 賊難事故
 - 五 捕拿罪犯
- 以上ノ諸項ハ一ヶ月毎ニ其概略ヲ報告スヘシ但警察上援群ノ功勞アルモノ(例ヘハ強盜捕縛方ニ付)ハ其都度ニ詳細ノ事實ヲ報告スルヲ要ス
- 六 監獄署ノ景況(囚徒ノ増減種類脫獄等)
 - 七 天災並事變等
 - 八 火災(官舎學校病院銀行等ノ火災其他通常民家ノ火災ハ凡百戸以上ノ火災ニ至ルモノ)

◎官報購求ノ件 明治十八年三月二十
八日長甲第十六號 (郡)
官報ハ各戸長役場ニ於テ永遠ニ保存可致モノナルニ據リ自今總テ戸長役場費ヲ以テ購求可爲致此
旨訓示候事

◎官報購讀代價納付ノ付 明治二十四年七月九
日訓令第六十一號 (郡)
官報購讀代價納付之儀ハ明治二十三年三月内閣訓令第三號ニ准據シ納付スヘキ等ニ候處右納期ヲ
經過スルモ納付ノ遲ニ至ラサル尙有之故ニ未納ノ金額多數ニシテ官報局整理上都合不少趣ニ付該
訓令ノ旨ヲ趣體ニ怠納等ノ義無之様厚ク注意スヘシ

◎縣報發行ニ付報告ノ件 明治二十四年三月十
八日訓令第二十八號 (郡)
來四月ヨリ縣報發行候ニ付テハ郡市會衛生會教育會水利功會聯合會議事ノ概況並ニ農商工業學
事等ノ景況ニシテ公報上必要ト認ムルモノハ廿都度報告スヘシ

◎縣報原稿報告手續 明治二十四年三月十
七日官第三十一號 (部署)
縣報原稿報告手續刊紙之相定ム
縣報ヘ掲載スヘキ事項左ノ如シ

- 一 縣令
- 二 訓令諭告
- 三 告示
- 四 文官普通試驗報
- 五 官吏敘任及辭令
- 六 公吏進退

七 彙報

- 一 廣告
- 第一 縣令訓令諭告々示ハ主務課ニ於テ淨寫シ官房首席ノ認印ヲ受ケ内務部第一課ニ送付スヘシ
- 第二 文官普通試驗ニ關スル報告ハ文官普通試驗委員長ノ認印ヲ受ケ内務部第一課ヘ報告スヘシ
- 第三 官吏叙任及辭令公吏進退彙報公告等縣報ヘ掲載スヘキ事項ノ原稿ハ各主務又ハ官房ニ於テ
取調内務部第一課ヘ報告スヘシ
- 第四 彙報ノ報告スヘキ事項ノ大要左ノ如シ

廳中事項

- 一 官吏ノ發着
- 一 官吏ノ死去及忌引
- 一 非職滿期
- 一 恩給扶助料
- 一 退官賜金
- 一 賞與
- 一 公文毎月受付發布ノ數
- 一 會議ニ關スル事項
- 一 縣會ノ閉開及景況
- 一 常置委員會全上
- 一 郡長會全上
- 一 警察會全上

- 一 稅務會全上
- 一 衛生會全上
- 一 教育會全上
- 一 各種委員會全上
- 一 警察ニ關スル事項
 - 一 警察賞典
 - 一 新聞雜誌引廢並ニ停禁止解停
 - 一 火災
 - 一 犯罪人既縛及逃走
 - 一 稅務ニ關スル事項
 - 一 諸印紙賣捌ノ數
 - 一 公賣處分ノ數
 - 一 稅則違犯ノ數監獄關スル事項
 - 一 死刑執行
 - 一 賞票下付
 - 一 破獄逃走又ハ其企
 - 一 懲戒及減刑
 - 一 板出獄
 - 一 在監人員
- 一 教育ニ關スル事項

- 一 學力檢定試驗ノ景況
- 一 小學校教員免許ノ下付
- 一 學事年報摘要
 - 一 農工商ニ關スル事項
 - 一 作物ノ景況
 - 一 蠶糸ノ檢査
 - 一 工場ノ景況
 - 一 農事講習所ノ景況
 - 一 試驗田畑ノ景況
 - 一 土地區畫改正ノ件
 - 一 衛生ニ關スル事項
 - 一 藥品ノ檢査
 - 一 傳染病ノ景況
 - 一 醫業ノ開停
 - 一 凍氷ニ關スル件
 - 一 飲用水ニ關スル件
 - 一 屠畜場ニ關スル件
 - 一 土木ニ關スル事項
 - 一 道路橋梁修築ノ件
 - 一 水利土功ノ件

天變地異ニ關スル事項

- 一 水害
- 一 激浪
- 一 山崩
- 一 大風暴雨及落雷降雹
- 一 難破船
- 一 氣象ノ報告
- 雜事
- 一 伺指令
- 一 復命書
- 一 奇特者賞與
- 一 官部署ノ新築及位置ノ變更
- 第五 彙報ノ報告スヘキ事項大略前項ノ如シト雖トモ右ノ外公報上必要ト認ムルモノハ報告スヘキモノトス
- 第六 原稿ハ字格端正ヲ主トシ可成楷行書タルヘシ
- 第七 原稿送付ハ縣報發行定日前々日タルヘシ
但緊急ノ場合ハ此限リニアラス
- 第八 原稿ハ文ノ長短ニ依リ追號分載スルコトアルヘシ
- 第九 彙報ノ原稿ハ記事文体ヲ同一ナラシムル爲メ旨趣ノ變更セサル限リハ内務部第一課ニ於テ字句ノ修正ヲナスコトアルヘシ

第十 縣報ヘ掲載スヘキ事項ハ内務部第一課ニ於テ取調ヘ内務部長ノ決判ヲ經ヘシ

但縣令訓令諭告告示官吏叙任及辭令公吏進退其他應中事項等ノ如キモノニシテ事ノ已ニ確定セシモノハ此限リニアラス

第十一 縣報ノ收受發遣ハ往復係ニ於テ之ヲ行フ

◎縣報原稿ニ朱記ノ件 明治二十四年七月二日官第六十一號 (部署)

本縣々令ニシテ司法事務ニ關係スルモノハ本年五月司法省訓令第二號ニ依リ縣報原稿ニ其旨朱書シ第一課ニ交付スヘシ

◎願届届ニ番地記載ノ件 明治八年一月十七日第十二號

諸願届届書ハ本人居所ノ區劃町村名ハ認來候得共戸籍調査ノ上不都合之義有之候ニ付自今居地番號本人肩書書ニ必記載候様可致此段區内無洩可相達候也

◎願届届書ハ大字記入ノ件 明治廿二年四月一日縣令甲第廿一號

諸願届届書等ハ戸籍番號ヲ記載スル時ハ其上ヘ大字ヲ記入スヘシ

◎至急ヲ要スル願届届ノ件 明治十年八月八日乙第百廿八號

諸願届届本人持參ノ上至急指令ヲ請求スルモノヘ便宜ヲ主トシ其事柄ニヨリ何分ノ儀直ニ指揮ニ及フヘク候條通常書面ト區別ノ爲メ自今書面上ヘ本人持參云々ノ譯柄及雛形ノ振合ヲ付符シ可差出此旨布達候事

但本文ハ諸營業並諸興行其他輕易ノ願届届ニ限リ候義ト可相心得且本文願下ニ於テ滞在指令ヲ乞フ者ハ宿所番號等付符ヲ以テ詳記可差出事

雛形

伺願... 第大小區村... 何ノ誰... 本人持參ノ旨

◎願伺屆書等年號月日記入ノ件

諸願伺届トモ總テ年號月日記載スヘキハ勿論ニ候處中ニハ年號月ノミ記載シ差出候向問々有之
右ハ其ク期限ヲ要スルモノニ至テハ期日内外ナリテ取捨ツルノ都合モ有之調査上差支候ニ付必年
號月日記載シ可指出如シ期限ヲ要シ相違候屆書等ノ内年號月ノミ記載シ指出候分ハ時期ニヨリ
期限内ノ効ナキモノト見做シ候條此旨布達候事

◎願伺屆書ニ表紙ヲ付スルニ及ハス

人民願伺届用紙之儀半紙十行罫摺可相用旨明治十年十一月乙第百六十六號ヲ以テ布達ニオヨヒ置
候處自今無罫半紙相用不苦候條上下成丈餘白ヲ存シ可致記載此旨布達候事

◎願伺届白紙ヲ用ルノ件

人民願伺届用紙之儀半紙十行罫摺可相用旨明治十年十一月乙第百六十六號ヲ以テ布達及置候號自
今無罫半紙相用不苦候條上下成丈餘白ヲ存シ可致記載此旨布達候事

◎公文用紙使用ノ件

諸上申伺書等ニ美濃紙又ハ美濃判西洋紙及半紙等ヲ各郡役所ニ於テ區々ニ使用候ヨリ保存上不整
理タルハ勿論美濃紙等ノ如キハ自然不經濟ニモ相成候條自今成規アル書類及他府縣官衙へ應答ニ
要スルモノハ外總テ半紙又ハ半紙判西洋紙ヲ使用スヘシ

但永遠保存ニ達スル書類ニ簿記用ノ外西洋紙ヲ使用スヘカラス
(各郡長宛)

◎同上申副本ヲ要セス

同上申等ハ自今副本ヲ差出スニ及ハス
明治二十一年十月四日
日縣令乙第廿四號

◎願伺屆書端書ヲ使用スル件

本廳並ニ所屬官衙へ差出ス諸願書ハ自今副本ヲ要セス
明治廿二年一月
十日告示第一號

◎却下スヘキ書類送達ノ件

人民ヨリ差出シタル諸願書等指令又ハ却下候節ハ本人所在地戸長役場へ(但或ハ事情ニヨリ他願
合町村戸長ノ與書ヲ要シタルモノハ該戸長役場へ)送達候條該戸長役場ニ於テハ直ニ本人へ下渡
方取計ヘシ

◎郡役所ヲ經由スヘキ書類ノ件

郡役所ヲ經由スヘキ書類之義ハ其郡役所ニ於テ調査ヲ遂ク規則ニ抵觸スル乎若クハ意味ノ不通ナ
ルモノ、如キハ之ヲ訂正セシメ可成完全ヲ認メ遞達可致勿論之處近來或ハ不然爲ノニ再應往復ヲ
要シ其手數云フ迄モ無之全体經由ノ精神ニ相悖リ甚タ不都合ニ候條自今經由書類ハ必ス調査ヲ遂
ケ不都合無之ト認ムルモノハ其野外ニ郡長ノ認印ヲ要シ進達候條可致此旨相達候事

◎書調印ニ代フルニ認印ヲ以テスルノ件

人民諸願伺届ノ内成規アルモノヲ除クノ外從前ノ與書調印ヲ廢シ之ニ代フルニ該書面ノ表欄外ニ
市町村長認印スヘシ
但意見アルモノハ其事由別ニ副申ス可シ

◎願書經由ノ件 明治十九年九月四日告示第二十六號
今般縣令甲第六號同七號ヲ以テ郡長便宜施行ノ件及委任條件相定ノ候ニ付テハ照應直轄ニ係ル諸願届ハ自今郡長ヲ經由スル及ハス

◎北海道廳へ書類發送ノ件 明治二十六年七月二日訓令甲第十六號 (郡市町村)
郡市役所町村役場ヨリ發送ノ公書ニシテ北海道廳管下戸役場ニ送付スヘキモノヲ郡役所ヨリ送付シ郡役所ニ照會スヘキ件ニシテ之ヲ北海道廳ニ照會シ甚キハ町村役場ヨリ直チニ北海道廳ニ照會送付等ノ類モ間々有之趣北海道廳ヨリ通牒有之右ハ新來移民等原籍ハ誤謬ノ届ヲ爲ヌニ起因スル義ニキ可有之候得共畢竟北海道事情ノ普及セサルニ基ク事ト被認候條向後此邊ニ關シ篤ト注意スヘシ

但北海道廳郡區町村區畫ハ左記ノ通りニ區十五郡役所百十戸長役場又一部役所ハ三四郡若クハ十繼郡ヲ管轄シ一戸長役場ハ數町村乃至數十町村ヲ所轄スルヨリ隨ツテ某外何郡役所某村外何町村戸長役場ト稱シテ各郡役所ハ其所在村及近傍町村ヲ直轄スト雖モ獨リ龜山外三郡役所宗谷外三郡役所ハ直轄町村ナキヲ以テ茲ニ其異例ヲ示ス (左記區畫ハ略ス)

◎訴訟書類取扱ノ件 明治二十五年五月十日訓令七十一號 (郡)
郵便ニ依リ送達スル訴訟書類ヲ民事訴訟法第百四十五條第二項ニ據リ町村長へ預ケ置キタル書類ニシテ其送達ヲ受クヘキモノアラサル場合ニ於テ町村役場ヨリ返還候向モ有之趣右ニテハ法文ノ旨趣ニモ相反シ候條其儘該役場へ留置クヘキ旨町村長へ訓示スヘシ

◎訴訟書類取扱ノ件 明治二十五年五月十日訓令七十一號 (郡)
郵便ニ依リ送達スル訴訟書類ヲ民事訴訟法第百四十五條第二項ニ據リ市長へ預ケ置キタル書類ニシテ其送達ヲ受ヘキモノアラサル場合ニ於テ返還候條備有之候テハ法文ノ旨趣ニモ相反シ候條其儘該役所ニ留置ク可シ

◎詞訟ノ爲帳簿寫取ノ件 明治十四年六月九日郡甲五十二號 (郡)
詞訟審判上必要ニ付郡役所及戸長役場所管之帳簿等寫取方各裁判所ヨリ照會有之節ハ右寫本ニ正寫之證トシテ郡役所之印ヲ捺シ同所へ可差廻尤寫本多數ニシテ費用相掛候節ハ其照會有之裁判所ノ仕拂ト相心得日詞訟事件ニ依リ元帳ヲ要スルトキハ差廻方可取計豫テ戸長場へモ可達置此旨相達候事

◎訴訟熟和解訴スルトキ伺出ノ件 明治十九年一月十一日乙第三號 (郡、戸)
人民ヨリ郡長(又ハ戸長職務上ニ對スル訴訟ノ義ニ付明治十八年乙第三十八號ヲ以テ相達置候次第モ有之處其節ニ於テ審理中原被告熟和解訴セントスルトキハ豫其事實ヲ詳記シ伺出指揮ヲ受クヘシ右相達候事

◎地所建物船舶所有者印鑑ノ件 明治二十六年九月五日訓令甲第十九號 (郡市町村)
地所建物船舶 所有者ニシテ其印鑑ヲ初メテ所轄登記所ニ差出ス場合ハ郡役所町村役場ノ照査ヲ經ヘキニ付右差出候節ハ篤ト照査ヲ遂ケ其證トシテ印鑑紙ノ餘白ニ役所役場印ヲ押捺シテ下付スヘシ

◎天變地異氣象ニ關スル取調ノ件 明治十六年十月十六日郡甲第二十二號 (郡)
天變地異ハ凡テ氣象ニ關係候ニ付雷電雹雪霜風雨旱澇地震噴火光物隕石海嘯等ノ異兆有之節時機ニヨリ内務省地理局氣象臺ヨリ問合可有之候條前項ハ勿論苟モ氣象ニ關係アルモノハ當分ノ内左ノ備考ニヨリ日々筆記致置同答不差問様ヲ致此旨相達候事

一晴曇及寒暖計度(午前八時午後一時ノ兩度トス)ヲ記載スヘシ
 一風力印例〇ハ靜穩一ハ軟風二ハ和風三ハ疾風四ハ強風五ハ暴風六ハ颶風トス
 一雹霰ハ地上降積ノ寸尺ヲ記スヘシ
 一雪ハ地上降積ノ寸尺ヲ付記スヘシ
 一霜ハ大小ヲ分ツヘシ
 一地震ハ震力ヲ十度ニ分ツ則チ地漸ク震フモノヲ以テ一度トシ家屋顛覆スルモノヲ以テ十度トス可シ
 一雨ハ降雨ト記スヘシ尤モ強暴雨ハ之ヲ分ツ可シ
 右ノ外ハ事實詳記スルヲ要ス

日記書式

何年何月何日

當宿直

何之某

寒暖計度
 晴曇
 降由又ハ強雨暴雨カ
 南又ハ風一若クハ二
 東カ風一若クハ二
 雪何寸
 霜大若クハ小
 地震何度何時何分何度何時何分
 雷何時ヨリ何時ニ至リ止ム

午前
 午後

同同同同同同同同

一何々
一何々

右ノ外異事無之

◎地震報告ノ件

明治十八年四月七日
日長甲第十七號

(郡)

天變地異ニ關スル義ニ付郡甲第二百二號ヲ以テ相達候所地震報告方地理局長ヨリ別紙之通依頼有之候條爾后震力之強弱ヲ問ス其都度速ニ報告可致此旨相達候事
 發五〇號ノ内(地理局長) (明治十八年二月三十日)
 別紙御依頼及ヒ候義ハ御管下郡役所へ御諭達被下候御都合モ可有之ト存候間寫本拾八通相添申候御領收有之度候也

(地理局長)

(明治十八年三月二十日)

本邦ノ地タル火山温泉極テ多ク從テ地震ノ如キ之ヲ他邦ニ比スレハ其數夥多ナルノミナラス殊ニ大ニシテ烈ナル者亦不尠近クハ安政二年江戸大震ノ如キ轉瞬ノ間ニシテ數千萬家ヲ傾頽シ五十餘所ニ發火シ老若男女拾萬餘人ヲ壓死焚殺セシハ世人ノ記スル所ナリ爾來幸ニシテ強震ナシト雖モ地變ノ發熱ハ豫測スヘカラス何時再發候哉モ計リ難シ故ニ當局ニ於テ夙ニ其驗測ニ從事シ豫防ノ方法ヲ講究ス然ルニ元來地震ハ東洋及西洋ノ南部ニ多クシテ英佛獨露等ノ地ニ少キヲ以テ歐米諸國ノ碩學モ未タ其眞理ヲ闡セシ者ナシ故ニ本邦ニ於テ地震アル毎ニ精密觀測シテ其眞理ヲ求メサルベカラス然レトモ地震ノ發スル事一所ニ於テセス必ス數十里若クハ數百里ニ延反ス故ニ廿二測候所ノ觀測ノミニテハ其要點ヲ見出スヘカラス必ス全國各地ノ報告ヲ得テ仔細ニ對照審查其發所及強弱等其他種々ノ顯象ニ依テ其理極ムルヲ要ス故ニ昨十七年十二月中當局測量課ヨリ各部區役

所へ依頼候處最初二二回ノ地震ハ報告相成候得共其後諸々相減シ申候本年地震ノ災タルヤ官民公私ノ別ナク災害ヲ蒙ル者ニ候得ハ官民力ヲ合セ報告ヲ爲シ以テ豫防方法ヲ求メサル可カラス况ンヤ各郡區役所ハ官署ノ義ニモ有之別々テ注意有之候様致度候間此旨各郡區長へ御示諭相成地震アルトキハ遺漏ナク速ニ報告相成候様御取計有之度此度御照會旁及御依頼候也

追テ明治十七年十二月十六日地震報告ハ各郡區役所悉皆相揃不申候へ共先ツ報告ヲ製シ官報第四百八十四號へ致掲載候御參着有之度候也

◎天變地異非常報告

明治二十七年十月二十九日訓令第三百九十三號

(郡市)

天變地異ニ依ル異常報告方兼テ及令達(二十三年五月訓令第四九號)置候處殊ニ落雷ニ關シ取調ノ都合有之候條輕重ニ不拘其都度別紙書式ニ準シ速ニ報告スヘ

(別記)

- 一 落雷ノ年月日及時刻
- 二 落雷ノ爲メ人ノ氣絶、負傷、震死
何々ノ場所ニ於テ男若クハ女何人氣絶、負傷、或ハ震死
- 三 落雷ノ場所 即何郡何村及種類即家屋(避雷針ノ有無)樹木、田畑、道路、山林、船或ハ電信柱等
- 四 落雷ノ爲生シタル損害即家屋(器具共)木樹、田畑、道路、山林、船或ハ雷信柱等ニ對スル落雷ノ形跡及破損ノ有様(出來得ル丈細大不殘詳密ヲ要ス)等
- 五 落雷ノ爲メ牛馬等ノ震死
- 六 落雷ノ爲メ電信、電話其他ノ器械ニ起リシ現象損害等

◎水害及海嘯損害表調製報告ノ件

明治廿五年八月廿二日訓令第四百二十四號

(郡)

水害及海嘯損害表自今別表ノ通調製其時々報告スヘシ
但明治十五年勅甲第四百四十九號ハ廢止ス

何川流域(或ハ何川)水害(又ハ何國郡市某所海嘯損害)表

廳名

雜種地	耕地			建物		家畜	死	負傷	名	稱	員數	損失價格
	森林山野地	宅地	生毛ノ損毛	流亡反別	破損及浸水							
其他	全	全	全	全	全	死	亡	傷				
其他	全	全	全	全	全	死	亡	傷				

損耗代價通計	船舶流		雜種流損	波止場破損延長	橋梁		道路破損延長	用惡水路破損全	川除破損箇所	堤防	
	西洋形	日本形			毀損全	流失箇所				欠所全	切所延長

提要

一本表ハ一流域毎ニ一表ニ製スヘシ
 但海嘯ノ損害ハ別表ニ製スヘシ
 一損失價額ハ見積リ價格ヲ記入スヘシ
 一道路堤防等ノ如キハ再築費ヲ記入スヘシ
 一員數ノ欄ニ建物ハ軒又別ニ(町)延長ハ(間)チ一単位ニ定メ船舶ハ艘數ヲ掲グヘシ
 一家畜ノ内見積リ代價ノ導カタキモノハ本表ニ記入ニ及ハス
 一鹽田ノ流亡正季荒ハ雜種地ノ部其他ノ欄ニ通算記入スヘシ
 一開及樋ノ破損ハ用惡水路破損ノ欄ニ通算記入スヘシ
 一提要ノ欄ニ第一ニ洪水ノ月日第二ニ損害ヲ來セシ幹川名並ニ支派川名第三ニ罹害ノ國郡市名並ニ町村大字數第四ニ被害ノ景况ノ記載スヘシ

◎天變地異非常報告ノ件
 明治三十年十月二十六日訓令乙第三二二號 (郡市)
 天變地異ニ依リ人畜ノ死傷家屋田圃ノ破損流失其他異狀ノ報告ハ總テ迅速ヲ要スルモノニ付キ自今直ニ電報又ハ早速便ヲ以テ概況ヲ報告シ更ニ被害數ハ七日以内ニ別紙甲號表ニ被害救助金額等調了次第乙號表ニ準シ調製差出スヘシ
 但明治二十三年五月訓令第四九號ハ廢止ス

◎茨城縣文官普通試驗細則
 明治三十一年三月六日告示第八十四號
 第一條 文官普通試驗ヲ受ケント欲スル者ハ書式ニ照ラシ試驗願書ニ履歷書ヲ添ヘ指定シタル期

日迄ニ文官普通試験委員長ニ差出スヘシ
 前項ノ期日並試験ノ場所及科目ハ三週日前ニ官報縣報及地方新聞紙ヲ以テ公告スヘシ
 第二條 試験手数料ハ登記印紙ヲ用キ試験願書ニ貼付スヘシ但試験ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス
 第三條 試験願書履歷書卒業證書寫ハ出願ノ取消ヲ求ムルモ之ヲ還付セス
 第四條 試験委員ハ受験人名簿ヲ調製シ各受験人ノ番號ヲ定メ記入シ之ヲ受験人ニ告知スルモノトス
 第五條 試験場ノ定刻前ニ開キテ受験人ヲ入ラシメ定刻ニ於テ閉鎖シ試験中切リニ出入ヲ許サス
 第六條 試験筆記及口述ノ二種トシ口述試験ハ筆記試験ノ終リタル後之ヲ行フ
 第七條 筆記試験ニ落弟シタル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス
 第八條 口述試験ハ試験委員三名以上ノ列席ニ於テ受験人一名毎ニ試問ス
 第九條 受験人多クシテ同日ニ試験ヲ施行スル能ハサルトキハ試験委員ニ於テ別ニ問題ヲ撰ミ試験期日ヲ異ニスルコトアルヘシ
 第十條 試験合格者ノ姓名ハ其試験ヲ行ヒタル日ヨリ三週日以内ニ官報及ヒ本縣々報ニ公告ス
 第十一條 受験人試験委員長ノ定メタル日時ニ出席セス又ハ試験半途ニ退席シタルトキハ當期ノ試験ヲ受クルコトヲ許サス
 第十二條 受験人ハ試験ニ關スル規則及試験委員ノ命令ヲ違スヘシ犯ス者ハ試験委員ニ於テ直ニ退場ヲ命ジ當期ノ試験ヲ受クルコトヲ許サス
 第十三條 試験ニ關スル必要ナル手續ハ試験委員長之ヲ定ム

文官普通試験願書 (用紙美濃紙)



府縣郡市町村番地

族籍

職業 氏名

生年月日

私儀文官普通試験相受度別紙履歷書卒業證書寫相添此段奉願候也

右

年月日

氏名

名印

茨城縣文官普通試験委員長氏名宛
履歷書 (用紙美濃紙)

何府縣華士族平民

氏名

何年何月何日生

本籍

一何府縣郡市町村番地戸主又ハ某長次男兄弟伯叔父等

(現ニ本籍地ニ住居スルトキハ「現今本籍地居住」ノ數字ヲ本項ニ加記シ次項ノ現今寄留地ヲ省ク)

一何府縣郡市町村何番地(何某方)寄留

住所ノ移轉

一何年何月何地ニ生レ何年何月迄居住

一何年何月何地ニ移轉シ何年何月マテ全所ニ居住(住所ヲ移轉スル毎ニ記載ス)

學 事
一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ書籍大略何々或ハ(何學卒業)

職 業
一何年何月何地官公私立學校教員トナリ何年何月解職以上辭令左ノ如シ
(辭令ノ全文ヲ列記スヘシ)

一何年何月官廳ニ於テ拜命何年何月解職以上ノ辭令左ノ如シ
(辭令ノ全文ヲ列記スヘシ)

一何年何月ヨリ何地何會社ニ雇ハレ何業ニ従事ス
賞 罰

一何年何月何々ノ事由ノ爲メ賞ヲ受ク其辭令左ノ如シ
(辭令ノ全文ヲ列記スヘシ)

一何年何月何々ノ事由ノ爲メ罰ヲ受ク其辭令左ノ如シ
(辭令ノ全文ヲ列記スヘシ) 裁判所ノ宣告書ヲ其要ヲ記シ從テ罰ハ其受罰ノ日數科料
刑期金額等ヲ記スヘシ)

身代限リ家資分散破産ノ有無
一身分限リノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ
(處分アラハ裁判所ノ申渡並ニ負債ノ辨償ヲナシタルコトヲ記スヘシ)

右

年 月 日

氏

名 印

(願書並ニ履歷書ハ楷書又ハ行書ニテ明瞭ニ認ムヘシ)
茨城縣文官普通試験受験人心得

第一條 受験人ハ試験定刻三十分前ニ試験場へ參集シ試験番號ヲ受領スヘシ

第二條 試験答案ニハ姓名ヲ記セス一枚毎ニ必ス試験番號ヲ記入スヘシ

第三條 筆記試験ノ答案ハ試験委員ノ交付シタル用紙ハ楷書若クハ行書ニテ明瞭ニ記載スヘシ

第四條 受験人ハ試験問題ニ就キ試験委員ニ質問スルコトヲ得ス

第五條 受験人ハ筆硯墨算盤ヲ携帯スヘシ其他ノ物品ヲ携帯シテ場内へ入ルコトヲ得ス

第六條 受験人ハ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ

第七條 試験室ニ於テハ受験人互ニ交話スヘカラス

第八條 受験人ハ試験場内ニ在リテ靜肅ヲ主トシ舉措進退ニ試験委員ノ指揮ニ遵フヘシ

第九條 試験答案成ルトキハ右手ヲ上ケテ試験委員ニ報シ自席ニ於テ試験委員ニ交付スヘシ但試験時間満限ニ至ルトキ試験答案未タ成ラサルモ試験委員ニ交付スヘシ

第十條 既ニ試験答案ヲ試験委員ニ交付シタル後ハ何等ノ事由アルモ返付ヲ請フコトヲ得ス

第十一條 口述試験ヲ受クヘキ人名ハ受験人控所ニ揭示スルキニ依リ其人名書ニ記載セラレサルモノハ筆記試験ニ落第シタルコト付口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十二條 受験人ハ試験ニ關スル一切ノ通知ヲ受クヘキ場所ヲ定メ試験五日前届出ツヘシ

◎郡役所處務細則要領
郡役所處務細則ハ左ノ要領ニ基キ更ニ相定メ届出ヘシ
一郡役所ニ第一課第二課ヲ置キ其事務左ノ如ク分掌セシムルモノトス

明治二十四年二月二十八日訓令第二六號

(郡市)

第一課

- 一文書圖書保存ニ關スル事項
- 一文書受付發遣ニ關スル事項
- 印章管守ニ關スル事項
- 會議並議員選舉ニ關スル事項
- 農商務及土木ニ關スル事項
- 學務及衛生兵事社寺戶籍ニ關スル事項
- 右ノ外第二課ニ屬セサル事項

第二課

- 一縣稅收入備荒儲蓄金支出並租稅外諸收入徵收ニ關スル事項
- 一町村ノ經濟ニ關スル事項
- 一郡役所費並郡町村費ノ豫算決算及收支出納ニ關スル事項
- 一郡役所費並郡費ノ經濟ニ係ル物品保管及出納ニ關スル事項
- 一右ノ外金錢ノ出納ニ關スル事項
- 一各課ニ課長ヲ置キ第二課長ハ會計主務ヲ兼掌セシムルモノトス

◎市役所處務規程準則

市役所處務規程ハ左ノ準則ニ基キ更ニ編製シ認可ヲ受クヘシ
明治二十五年八月九日訓令第百十三號

(市)

市役所處務規程準則

第一章 事務分掌

第一條 市役所ニ庶務課稅務課會計課ヲ置キ其分掌左ノ如シ

庶務課

- 一文書物件ノ受發ニ關スル事項
- 印章管守ニ關スル事項
- 市條例ニ關スル事項
- 歲入出豫算及決算報告ニ關スル事項
- 營造物並財產管理ニ關スル事項
- 證書及公文書類ノ保管ニ關スル事項
- 會議並議員選舉ニ關スル事項
- 農工商及土木ニ關スル事項
- 學務衛生兵事社寺戶籍ニ關スル事項
- 度量衡檢査ニ關スル事項
- 統計ニ關スル事項
- 濟貧恤救棄兒迷兒及行旅死亡人ニ關スル事項
- 罹災並無告ノ窮民救助ニ關スル事項
- 右ノ外他課ニ屬セサル事項

稅務課

- 一國稅地方稅其他諸徵收ニ關スル事項
- 一地方稅諸營業ニ關スル事項
- 一市稅其他市ノ徵收ニ關スル事項
- 一地方稅滯納處分ニ係ル買收物品公賣ニ關スル事項

會計課

- 一 歳入出決算ニ關スル事項
- 一 市ノ經濟ニ係ル金穀物件保管ニ關スル事項
- 一 金錢物品ノ出納ニ關スル事項
- 一 物品ノ購入及賣却ニ關スル事項
- 一 國稅地方稅及市稅其他諸收入ニ關スル事項

第二章 處務順序

- 第二條 凡市役所ニ到達スル文書ハ受付簿ニ其件名ヲ登記シ市長見聞ノ末主務者ニ交付スヘシ
但親展書ハ封ノ儘宛名ノ本人ニ交付スヘシ
- 第三條 執務時間中到達シタル文書ハ即日其後ニ到達シタル文書ハ翌日交付スヘシ
但至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス
- 第四條 主務者ニ於テ文書ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ處分案ヲ起草シ市長ノ決判ヲ得テ之ヲ執行スヘシ
- 第五條 回議案ハ字体ノ正格ヲ旨トシ若シ修正改竄ヲ要スルトキハ朱書訂正ニ必ス認印スヘシ
- 第六條 退廳後又ハ休日ニ於テ至急ノ事件ヲ處理スル爲メ印章ヲ要スルトキハ市長ノ決判ノ宿直員ニ示シ立會ノ上押捺スヘシ
- 第三章 服務心得
- 第七條 吏員登應セントスルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第八條 役所昇降時限ハ第一監督官廳ニ準ス
- 第九條 病氣其他事故アリテ出勤スルヲ得サルトキハ其旨届出ヘシ

- 第十條 吏員ハ退出時限ニ至ルト雖トモ市長執務中ハ退出スルコトヲ得ス
- 第十一條 非常ノ事變アルトキハ吏員ハ速ニ役所ニ參集シ市長ノ指揮ニ從フヘシ

第四章 宿直心得

- 第十二條 緊要ノ物件ハ主務者ニ於テ封印ノ上日々宿直ニ預クヘシ
- 第十三條 宿直ハ吏員交替シテ之ヲ爲スモノトス
- 第十四條 宿直中ハ外出スルヲ許サス但急病若クハ不得止事故出來シタルトキハ次番者ニ通報シ其出勤ヲ俟テ退出スヘシ
- 第十五條 宿直中到達シタル文書ニテ至急ヲ要スルモノハ直ニ處分ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十六條 非常ノ事變アルトキハ諸帳簿並ニ必要物件等保護スルハ勿論總テ臨機時ノ處置ヲ爲スヘシ

町村役場處務規程準則

明治二十五年八月九日
町制百十四號

(郡町村)

町村處務規程準則

第一條 町村役場ニ庶務係稅務係會計ヲ置キ其分掌左ノ如ク

庶務係

- 一 文書物件ノ受發ニ關スル事項
- 一 印章管守ニ關スル事項
- 一 町村條例ニ關スル事項
- 一 歳入出豫算及決算報告ニ關スル事項
- 一 營造物並財産管理ニ關スル事項

- 一 諸證書及公文書類ノ保管ニ關スル事項
- 一 會議並議員選舉ニ關スル事項
- 一 農工商及土木ニ關スル事項
- 一 學務衛生兵事社寺戶籍ニ關スル事項
- 一 統計ニ關スル事項
- 一 濟貧恤救棄兒迷兒及行旅死亡人ニ關スル事項
- 右ノ外他係ニ屬セサル事項

稅務係

- 一 國稅地方稅徵收ニ關スル事項
- 一 町村稅其他町村ノ徵收ニ關スル事項

會計係

- 一 歲入出決算ニ關スル事項
- 一 町村ノ經濟ニ係ル金穀物件保管ニ關スル事項
- 一 金錢物品ノ出納ニ關スル事項
- 一 物品購入及賣却ニ關スル事項
- 一 國稅地方稅町村稅其他諸收入ニ關スル事項
- 第二條 凡役場ニ到達スル文書ハ受付簿ニ其件名ヲ登記シ町村長閱覽ノ末主務者ニ交付スヘシ但親展書ハ封ノ儘宛名ノ本人ニ交付スヘシ
- 第三條 主務者ニ於テ前條交付ヲ受ケタルトキハ速カニ所分案ヲ起草シ町村長ノ決判ヲ得テ之ヲ執行スヘシ

- 第四條 回議案ハ字体ノ正格ヲ旨トシ若シ改竄ヲ要スルトキハ朱書訂正シ必ス認印スヘシ
- 第五條 役場昇降時限ハ第一監督官廳ニ準ス
- 第六條 町村長以下出勤セントキハ出勤簿ニ捺印スルモノトス
- 第七條 町村長以下疾病其他ノ事故アリ欠勤セントスルトキハ其旨届出ルモノトス
- 第八條 町村長以下交替シテ宿直ヲ爲スモノトス
- 第九條 緊要ノ物件ハ封印ノ上宿直員ニ預ケ置キ宿直員ハ翌朝主務者ヘ返付スヘシ
- 第十條 宿直中到達シタル文書ニシテ至急ヲ要スルモノハ直ニ所分ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十一條 宿直中ハ外出スルヲ許サス
- 但急病若シハ不得止事故出來シタルトキハ次番者ヘ通報シ其出勤ヲ俟テ退出スヘシ
- 第十二條 宿直中非常ノ事變アルトキハ諸帳簿並必要物件等保護スルハ勿論總テ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ
- 第十三條 全上ノ場合ニ於テハ役場員ハ速ニ參集シ町村長ノ指揮ニ從フヘシ

◎廳中會議規程

明治三十一年二月二十五日訓令乙第四一號

(官房、内、警、監)

廳中會議規程左ノ通相定ム

廳中會議規程

- 第一 縣令訓令告諭告示ノ重要ナルモノ又ハ法律命令ノ疑義ニ涉リ將來ノ慣例タルヘキモノ其他重要ナル事項ハ廳中會議ニ付スヘキモノトス
- 第二 廳中會議ハ知事臨席シ關係部署長參事官官房主事關係ノ課長及特ニ知事ノ指命スルモノヲ以テ組織スルモノトス
- 第三 廳中會議ニ付スヘキ議案ハ主務課ニ於テ起草シ之ヲ筆榻版ニ付シ前以テ關係者ヘ配付スヘシ

◎事務受渡手續

明治十八年十月十日
五日本中七十三號

本縣各掛課署並ニ郡役所廢設分合及官吏勅免更迭ノ際事務受渡手續左ノ通相定候條右ニ照準可致候此段相違候也

事務受渡手續

- 第一條 事務引繼ハ府縣官事務受渡書式ニ照準諸物件受渡目録ヲ製シ其未完結ニ係ルモノハ手續及見込共詳細ナル演說書ヲ添ヘ速ニ引渡ヲ爲スヘシ
- 第二條 引渡事件ノ中繁雜錯雜ニ涉ル歟又ハ金錢收支ニ關スレモノハ一層詳細ニ疑義ノ廢ハ綿密ニ質疑シ他日前任者ニ就カサルモ所辨シ得ヘキ様注意受授ヲ了スヘシ
- 第三條 引渡事件ノ中其所分例規ニ背戾シ引受難キト認メタルモノハ其事由ヲ具申シ縣令ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第四條 引渡ヲ受タル後不都合アル時ハ其責ヲ後任者ニ歸スヘシ故ニ引渡ヲ受タル際厚ク注意スヘシ
- 第五條 前各條ノ手續ヲ了シ受授完結ノ上ハ双方連署シ其旨縣令ニ届出ツヘシ
但各係官吏ハ課長ヘ届出スヘシ

◎市町村長助役等事務受渡規程

明治二十五年八月
九日縣令乙十號

(郡市町村)

市町村長助役收入役及市參事員交代ノ節ハ左ノ規程ニ據リ事務受渡ヲナスヘシ
但明治二十二年十一月次城縣令丙第四十七號ハ廢止ス

事務受渡規程

- 第一條 市町村長助役收入役及市參事員退職シタルトキハ在職中ノ管掌事務ハ市町村長ハ七日

以內ニ其他ハ三日以內ニ引繼ヲ爲スヘシ

- 第二條 事務受渡ヲ結了シタルトキハ互ニ受渡ノ證書ヲ交換シ新舊吏員連署ノ上市町村長ハ直チニ其他ハ市町村長ヲ經由第一次監督官廳ヘ届出ヘシ
- 第三條 事務受渡第一條ノ期日以內ニ結了シ難キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ更ニ期日ヲ定メ新吏員連署ノ上市町村長ハ直チニ其他ハ市町村長ヲ經由第一次監督官廳ノ許可ヲ受ヘシ
- 第四條 市町村長事務ノ受渡ハ左ノ各項ニ據ル

但市參事員及助役ニ分掌シタル事務ハ其要項ヲ演說シ收入役ノ主管ニ係ル金穀物品ハ其仕譯書ヲ引繼クヘシ

- 一 諸法令圖書簿冊其他公文書等ノ類ハ目録ヲ添付スヘシ
- 二 國稅地方稅市町村稅等總テ收入金ハ既未納ヲ區分シタル仕譯書及ヒ其事由ヲ明記シタル演說書ヲ引繼クヘシ
- 三 金錢ノ出納ニ關スル決算濟ノ受取證書ニハ目録ヲ添付スヘシ
- 四 市町村ノ諸證書ニハ目録及ヒ其事由書ヲ添付スヘシ
- 五 市町村有ノ財産及ヒ營造物ハ仕譯書ニ詳細ナル演說書ヲ添付スヘシ
- 六 處分未結了ノ事件又ハ著手中ノ事業ハ從來取扱ノ順序方法及ヒ將來ノ目的ヲ詳悉シタル演說書ヲ添付スヘシ
- 第五條 市參事員及助役ノ分掌事務受渡ハ前條ノ例ニ據ル
- 第六條 收入役事務ノ受渡ハ左ノ各項ニ據ル
- 一 國稅地方稅市町村稅等ハ總テ收入支出ヲ區分シタル仕譯書ニ其事由ヲ明記シタル演說書ヲ添付スヘシ

二現在ノ金銀物件ハ其種類ヲ区分シタル目錄・添付スヘシ
三市町村ノ諸簿書ニシテ其主管ノ係ルモノハ目錄及其事由書ヲ添付スヘシ

◎市町村助役事務受渡ニ關スル件 明治二十二年十二月五日訓令第百十二號 (郡)
市町村長管掌事務受渡規則今般縣令丙第四十七號ヲ以テ相定候ニ付テハ町村長退職ノトキ事務受渡方篤ト注意スヘシ

◎町村長事務引繼報告 明治二十二年五月八日訓令第六十號 (郡)
町村長就職即村役場ヲ開設シ及事務引繼ヲ了シタルトキハ其都度報告スヘシ

◎出納官吏交替事務引繼ノ件 明治二十四年一月二十日訓令第四號 (收入官吏)
客年十二月大藏省訓令百五十四號出納官吏交替ノトキ事務引繼手續中第九條及第四號書式ヲ削除セラレタルニ付テハ自今更迭ノ際後任者ノ事務引繼了シタルトキハ其引繼濟ノ年月日ヲ本廳ヘ届出ヘシ

◎保存書ニインキヲ用ヒヘカラサルノ件 明治十八年七月八日乙第七十一號
保存ニ屬スル文書ニ洋製墨汁(インキ)ヲ用ヒ候義不相成候條此旨相達候事

◎執行事務ノ件 明治二十一年四月五日訓令第三十五號 (郡)
旅行事務ノ確實敏捷ヲ要スルハ施政上至緊至要ノ義ニ有之候處近來往々有期之進達ヲ遲緩シ又ハ調査ノ疎漏等ヨリ再三再四ノ應答ヲ煩シ僅ニ完了ヲ告グル場合ニ有之如候ハ徒ラニ冗費手數ヲ要スルノミナラス事務ノ舉否ニ關係不少義ニ候條苟モ輕忽緩慢ノ取扱無之候様厚ク注意スヘシ

◎舊記保存ノ件 明治十四年五月二十日長甲十三號 (郡)
舊記類保存之義・豫テ公達ノ趣キ有之候處近來破册或ハ賣方追々散佚ニ歸シ候向モ不少哉ニ相聞候今後別紙概目ノ書類ニシテ部内人民ノ普識見聞ニ及候ハ其人各書目並ニ記事ノ概目ヲ錄シ記

錄科ヘ可指出且平素搜索方ノ義ハ郡書記出張ノ節尋問又ハ戸長等ヘモ豫テ申合メ置キ精々注意致シ毎年未有無其記錄科ヘ必ス届出ヘシ此旨相達候事

舊記概目

- 一 舊村吏公用留手扣ノ類
 - 一 各村古地圖類
 - 一 新田開發辨分合村名沿革等ノ留記
 - 一 江堰橋梁堤防等普通請方ノ留記
 - 一 貢租割賦方留記
 - 一 孝子貞婦奇特者ノ褒賞事跡等ノ留記
 - 一 各村故事古跡等筆記
 - 一 舊代官所旗本給所並ニ各藩領地沿革等留記
 - 一 各村舊家ノ由緒書古系圖類
 - 一 各村社寺由緒並棟札類ノ留記
- 但大寺舊社ノ文書己ニ保存法相立候分ハ除ク
一 總テ置縣以前郡村ノ地理沿革ニ關係シ並各村規模ヘ可相成書類
右概目ノ類ニ而苟モ沿革事蹟ノ徵スヘキ留記書類ハ搜索可致事
- ◎市役所町村役場簿册編纂準則 明治二十五年八月九日訓令百十五號 (郡市町村)
市役所町村役場ノ簿册ヘ左ノ準則ニ據リ編纂スヘシ
但明治二十五年六月訓令第六四號ハ廢止ス
簿册編纂準則

第一條 簿冊編纂ハ左ノ類別ニ據ル

- 一 受付簿 (第一號樣式)
- 一 發遣簿 (第二號樣式)
- 一 郵便電信切手受拂簿 (第三號樣式)
- 一 物品受拂簿 (第四號樣式)
- 一 財產原簿 (第五號樣式第六號樣式)
- 一 吏員出勤簿 (第七號樣式)
- 一 官報綴
- 一 詰令達綴
- 一 伺可令綴
- 一 上申及報告綴
- 一 各所往復綴
- 一 告示並ニ通達按綴
- 一 豫算書綴
- 一 決算書綴
- 一 市町村會關係書綴

其他必要ノモノハ適宜編綴スルモ妨ケナシ

第二條 郵便電信切手受拂簿物品受拂簿ハ會計年度其他ハ總テ曆年度ニ據ルモノトス

但財產原簿ハ此限リニアラス

第三條 簿冊・總目録・封入封出及指更等記録ハ總テ便利ニシテスルベシ

◎執務時間

自今當廳執務時ハ左之通り

明治二十七年四月十九日告示六五號

- 四月二十日ヨリ七月十日迄 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
- 七月十一日ヨリ九月十日迄 午前八時ヨリ午後十二時ニ至ル
- 九月十一日ヨリ十月九日迄 午前九時ヨリ五時ニ至ル
- 十月十日ヨリ二月十日迄 午前八時三十分ヨリ午後四時三十分ニ至ル
- 二月十一日ヨリ四月十九日迄 午前九時ヨリ午後五時ニ至ル
- 但土曜日日曜日ハ從前之通

◎郡吏官印

明治十二年二月十七日郡令六十八號

(郡)

郡書記公務上ニ關スル書類ニ相用候印章ノ義ハ明治八年六月第十號公達ニ準テ印材ハ黃楊ヲ用ヒ方六分(曲八)ニ製造シ茨城第何々郡書記某シ彫刻シ各員ヘ可相渡此旨相達候事
但轉免ノ節ハ其郡役所ヘ可爲相納ハ勿論明治六年第二百二十號公達ノ通私ニ用ユル義ハ不相成候事

◎郡書記管外出張ノ件

明治二十八年四月二日訓令八號

郡書記管外出張ノ義ハ其時々經伺ヘトキ等ノ處豫備員引率トシテ出張ノ場合ニ限り特ニ經伺ヲ要セス

◎戸長及書記認印寸法

明治二十年一月九日訓令四號 (郡)

戸長及書記ノ公簿ヨリ押捺ス認印ハ自今凡經四分ニシテ姓名トモ彫刻シ使用セシムヘシ

◎大祭祝日着服ノ件

明治二十七年二月二十日訓令第九十號
明治二十七年二月十九日官第十七號

新年始メ大祭日ニ於テ參拜等ノ節滯京判任官以下ニシテ有位帶勳ノ輩着服ノ義左ノ通被改候旨其

筋ヨリ通知有之候ニ付其旨心得ラルヘシ

一有位者及有位帶勳者ハ非役有位ノ大禮服但陸海軍武官以下及警察官ノ如キ服裝ニ規定アル者ハ該服着用若シカラス

一無位帶勳者ハ通常禮服燕尾但以下全上

一文官ニシテ無位勳七等以下ノ者ハ其官ノ大禮服若シカラス

◎祝祭日參拜ノ件

明治二十二年十月十五日官第八七號

從來祝祭日ニハ縣廳ニ於テ遙拜式施行致來候處自今左ノ祭日ノ外便宜最寄神社ニ於テ參拜スヘシ

一月一日 四方拜 二月十一日 紀元節 三月三日 神武天皇祭 十一月三日 天長節

◎外國軍艦訪問ノ件報告

明治廿二年七月八日訓令第七十九號

其郡港灣ニ外國軍艦碇泊ノ節ハ直ニ吏員ヲ派遣シ訪問セシメ左項急行脚夫ヲ以テ當廳ヘ報告スヘシ

但我軍艦碇泊ナル節ハ本文ノ報告ヲナスニ及ハス

一艦名並ニ入津月日時刻

一何レヨリ何用ニテ入港何用ニテ何レヘ出港

一乗員ノ舉動其他見聞ノ次第

◎出張巡回中歸廳ノ件

本乙第百四十八號

出張巡回中不經伺歸廳候ノ旨々有之候處自今直ニ其具狀ヲ要スル節ハ其顛末ヲ詳悉經何シ指令ヲ得テ歸廳候義ト可相心得此段相達候也

但非常ノ事件ハ此張リニアラズ

◎洋行留學志望者與書ノ件

明治二十年二月

(郡)

洋行留學等ノ爲メ海外旅券下附申出戶長ニ於テ與書致候節ハ其志望目的及資產等ノ大要取調添申ノ上當廳ヘ差出候條戶長ヘ示達スヘシ

◎鐵道線路内歩行ノ件

明治廿二年九月廿日訓令第九十五號

(郡市町村)

鐵道線路内ヲ歩行シタリハ兒ニシテ線路内ニ於テ遊戯致シ居リ機噐車ニ觸ル、者往々有之趣具筋ヨリ照會之アリ右ハ是迄度々相達置候也生命ニモ關シ最モ危險不少候由心得違者無之様取締方厚ク注意スヘシ

◎樺太島へ漁業出稼志願ノ件

明治十五年四月廿七日郡甲第五十號

(郡)

露國樺太島へ漁業出稼志願者有之節、本縣ヨリ外務省ヘ伺上、許否相成リ來候處向後ハ都テ在哥爾薩館ヲ經由露國地方官へ照會ノ上處分相成候ニ付本縣廳ノ添書ヲ以テ直ニ該領事館ヘ出願可爲致願序ニ付其旨心得戶長役場ヘモ可相達置此旨相達候事

◎樺太島漁業手續ノ件

明治十八年四月廿二日長甲第廿三號

(郡)

露國樺太島へ漁業出稼志願者、本廳添書ヲ以テ哥爾薩館ヘ出願可致旨明治十五年四月郡甲第五十號ヲ以テ相達置候處右手續ヲ經ス直ニ漁業場へ渡航スルモノ往々有之由其筋ヨリ申越日露國ニ於テハ漁業證ヲ所持セテ漁場ニ碇泊スル船舶ハ總テ密獵船ト見做シ拘留スルノ成規ナル趣ニ付向後不都台ノ者無之様諭示可致此旨相達候事



77767

明治三十一年十二月七日印刷

明治三十一年十二月十日發行

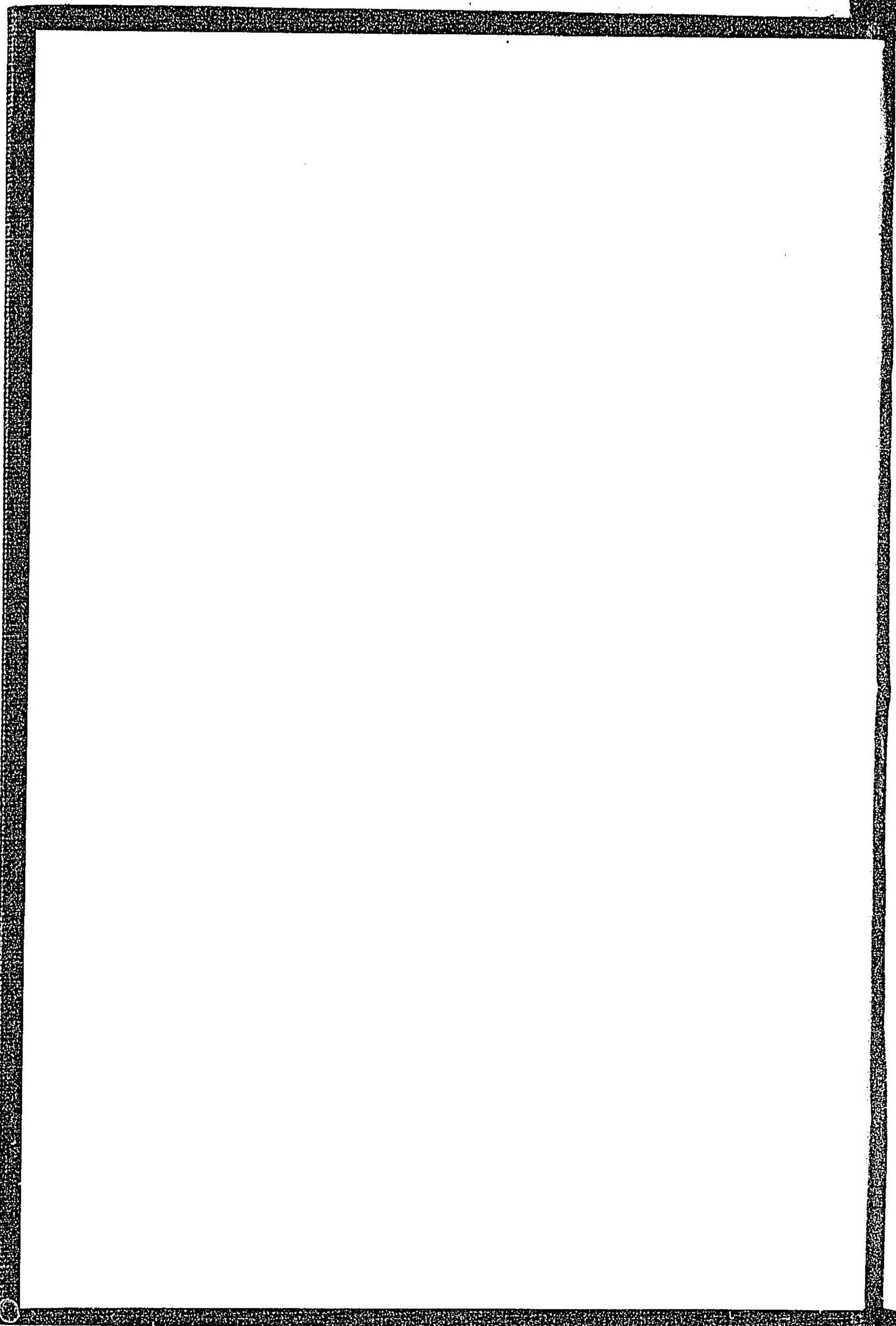
茨城縣知事官房編纂

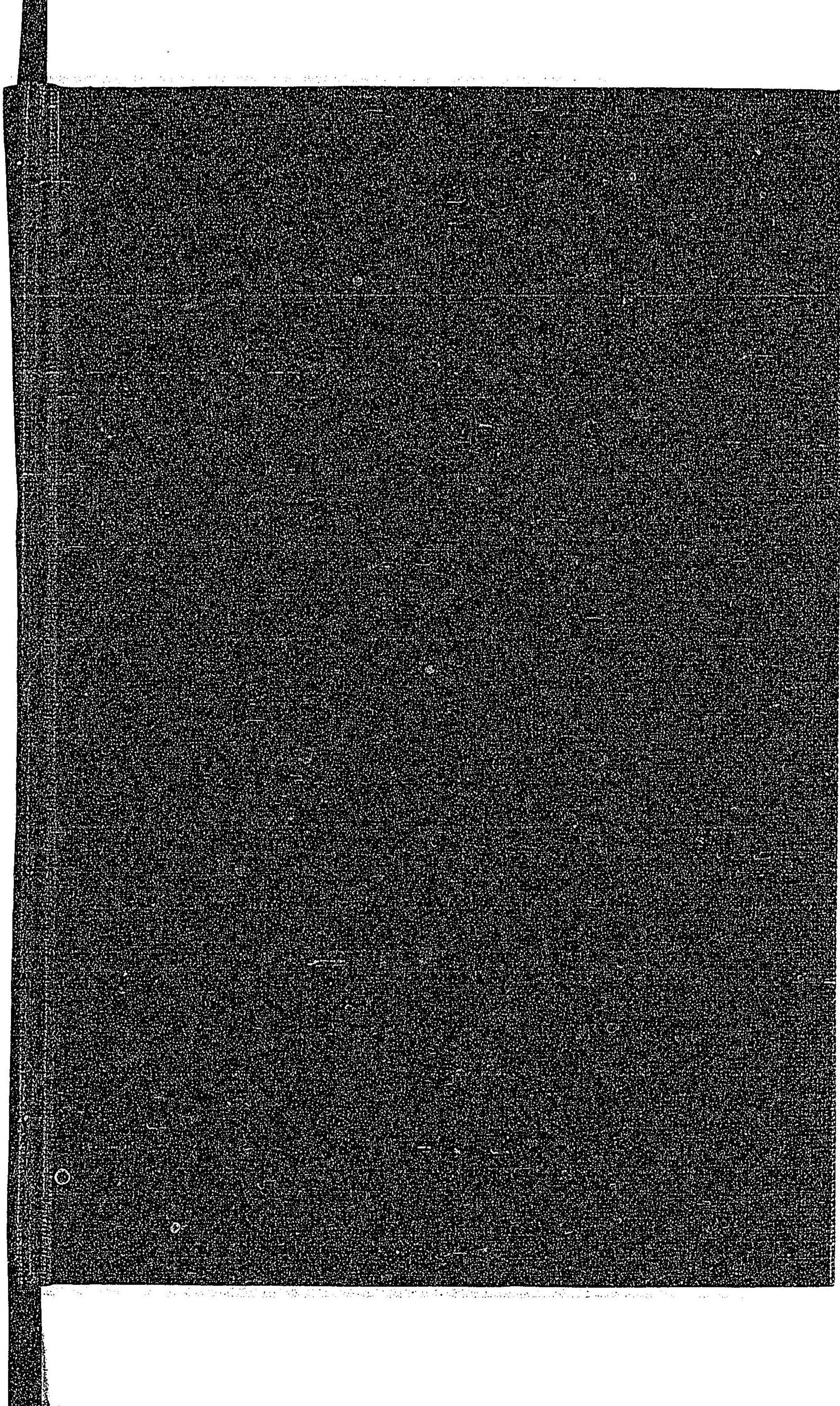
茨城縣水戸市上市南三ノ丸二番地

印刷者 柴 謙 吉

同縣同 市同番地

印刷所 弘 文 社





禁電子式複写

